

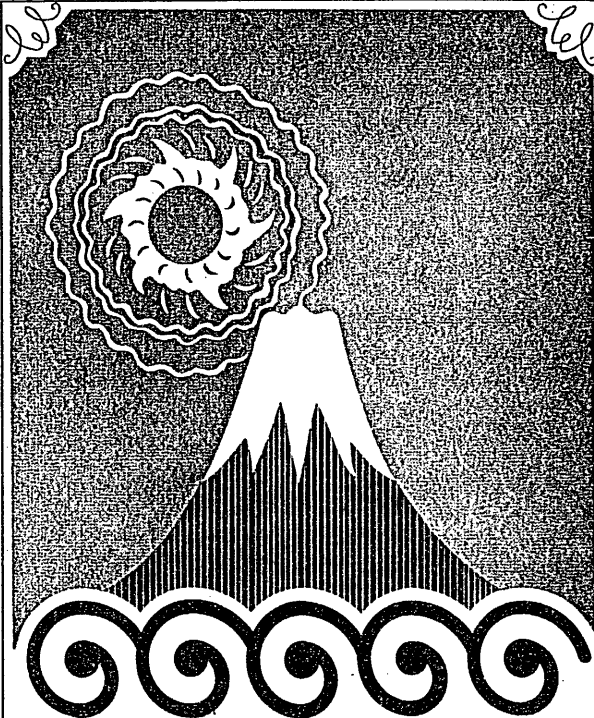
72

294

262

地理學同業會編纂

# 帝國新地理



東京帝國書院藏版

K220.28

60

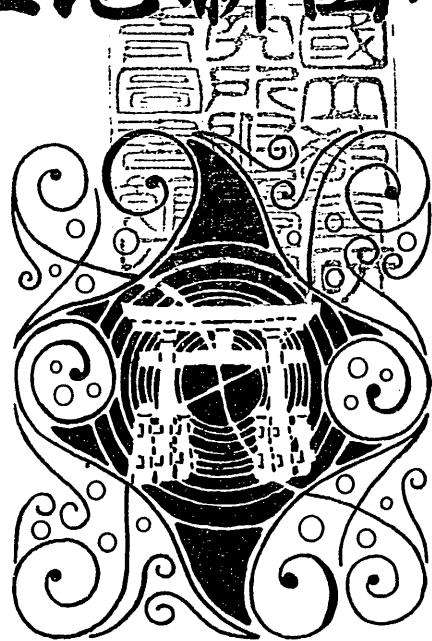
K

# K220.28

# 72

地理學同業會編纂

# 帝國新地理



東京帝國書院藏版

大正

十四 22

內交

## 修訂に就きて

(1) 本書は、高等普通教育程度の地理科の教材たらしめる爲に、編纂したものである。

(2) 本書は、去る大正十二年末に發行した原本を修訂したものである。

(3) 苟くも修訂といふ以上は、根本的の改修削訂を實行したのである。

(4) 今左に、修訂に關する重要な點を掲げて、大方諸賢の批判を仰ぐこととする。

【甲】挿繪圖の選擇を嚴密にし、且つ著しく其の版數を増加した。

【乙】都市に關する現代的產物と歴史的名物とを全然區別した。

【丙】原本以上に口語體を圓熟せしめ、言文一致の地理教科書の率先者たる實を示した。

【丁】上欄に適切な問題を掲げた。

【戊】各地方誌は概ね三節に區分し、地文・藝文・人文誌の順序によりて記述した。

(5) 終りに臨み、江湖の諸君子に對して、本書を完璧たらしむるやう、指教を垂れ給はんことを懇請致します。

# 帝國新地理

## 目次

|            |    |
|------------|----|
| 緒論         | 一  |
| 第一編 地方誌    | 四  |
| 第一章 關東地方   | 四  |
| 第一節 地文誌    | 四  |
| 第二節 處誌     | 七  |
| 第三節 人文誌    | 二〇 |
| 第二章 奥羽地方   | 三  |
| 第一節 地文誌    | 三  |
| 第二節 處誌     | 六  |
| 第三節 人文誌    | 五  |
| 第三章 本州中部地方 | 七  |
| 第一節 地文誌    | 七  |



|     |           |     |
|-----|-----------|-----|
| 第二節 | 處誌        | 四〇  |
| 第三節 | 人文誌       | 四六  |
| 第四章 | 近畿地方      | 五九  |
| 第一節 | 地文誌       | 五九  |
| 第二節 | 處誌        | 六三  |
| 第三節 | 人文誌       | 六六  |
| 第五章 | 中國地方・四國地方 | 八二  |
| 第一節 | 地文誌       | 八一  |
| 第二節 | 處誌        | 八四  |
| 第三節 | 人文誌       | 九七  |
| 第六章 | 九州地方      | 九九  |
| 第一節 | 地文誌       | 九九  |
| 第二節 | 處誌        | 一〇三 |
| 第三節 | 人文誌       | 一〇七 |
| 第七章 | 臺灣地方      | 一〇九 |

|     |       |    |
|-----|-------|----|
| 第一節 | 地文誌   | 一〇 |
| 第二節 | 處誌    | 一三 |
| 第三節 | 人文誌   | 一六 |
| 第八章 | 北海道地方 | 二九 |
| 第一節 | 地文誌   | 二九 |
| 第二節 | 處誌    | 三三 |
| 第三節 | 人文誌   | 三五 |
| 第九章 | 南樺太地方 | 三八 |
| 第一節 | 地文誌   | 三八 |
| 第二節 | 處誌    | 四〇 |
| 第三節 | 人文誌   | 四一 |
| 第十章 | 朝鮮地方  | 四四 |
| 第一節 | 地文誌   | 四三 |
| 第二節 | 處誌    | 四五 |
| 第三節 | 人文誌   | 四九 |

|              |    |
|--------------|----|
| 第一章 關東州      | 一五 |
| 第一節 地文誌      | 一五 |
| 第二節 處誌       | 一五 |
| 第三節 人文誌      | 一五 |
| 第二章 委任統治南洋諸島 | 一五 |
| 第一節 地文誌      | 一五 |
| 第二節 人文誌      | 一五 |
| 第二編 總括       | 一五 |
| 第一章 地文誌      | 一五 |
| 第二章 人文誌      | 一五 |

目次終



山崎の風景



伊豆河口河・湖西でじう辛 湖東村

山崎の風景

湖東村

# 帝國新地理

## 緒論

日本地理學習の必要 われ等は幸にも美はしき國土に生れて、文化の隆昌なる御代に逢うてゐる。かゝる自然と文化との状態を知るは、日本地理の學習によらねばならぬ。

地境 我が國は亞細亞洲の極東部に位し、東北(島千)より西南(婆塞)に向へる長き(杯)列島と、南樺太、朝鮮半島とより成

圖解 各地方の面積比較

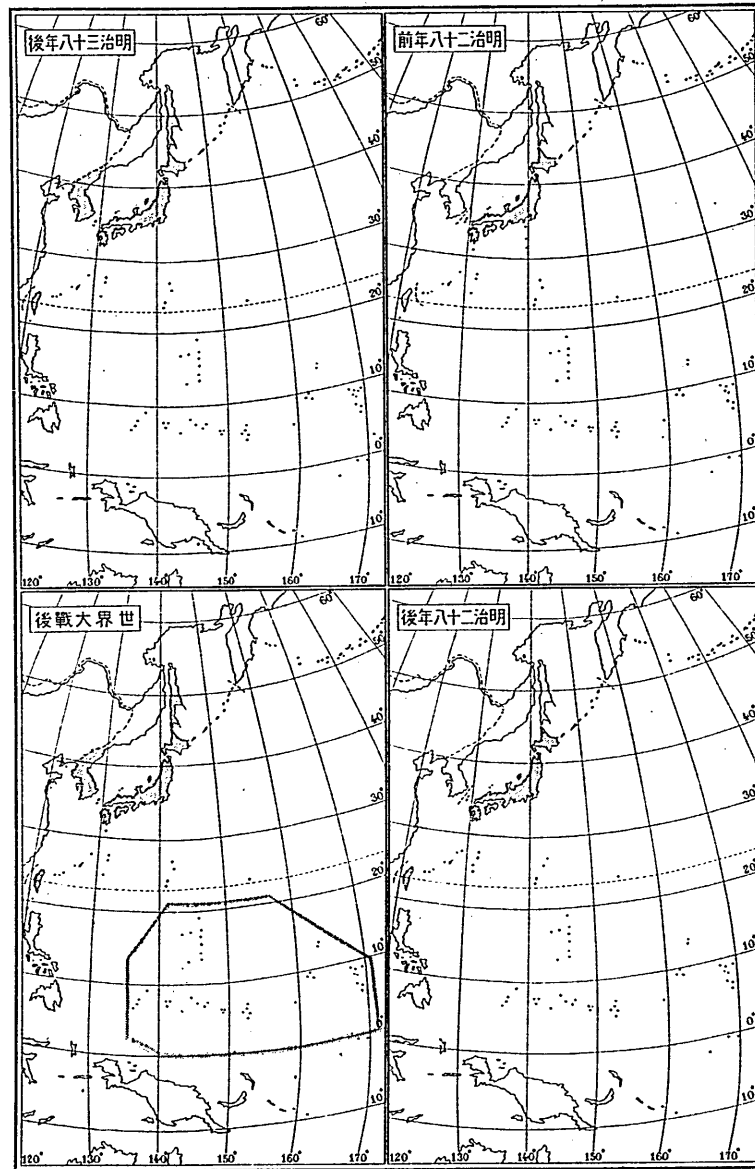
×100里

|       |  |       |    |    |
|-------|--|-------|----|----|
| 内地    |  | 朝鮮    | 樺太 | 臺灣 |
| 56.8% |  | 32.5% | 53 | 53 |

|       |       |      |       |       |     |
|-------|-------|------|-------|-------|-----|
| 内地    |       |      |       |       |     |
| 本州    | 60.0% | 北海道  | 九     | 四     |     |
| 奥羽    | 中本    | 近畿   | 關東    | 中國    |     |
| 17.5% | 17.0% | 8.5% | 8.5%  | 8.0%  |     |
|       |       |      | 24.0% | 11.5% | 50% |

緒論

# 張 膨 の 土 國



緒  
論

我が國の面積四三  
五方里之に朝鮮  
南洋等を加ふれば  
四萬四千方里(約萬  
九千)となる  
租借・委任統治・利  
權等の語を解きな  
さい。

我が帝國の位置を  
述べなさい。

圖解 朝鮮國境  
の整備

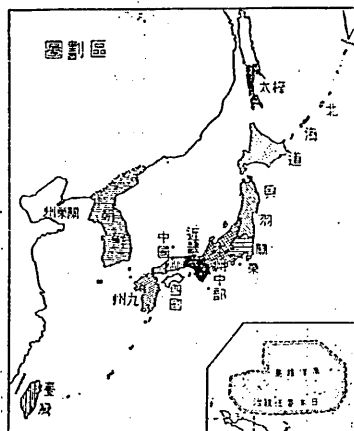
帝國の四極  
極東 東經一五度  
三分(占守島東端)  
極西 東經二九度二  
六分(花嶼西端)  
極南 北緯三度五  
分(七星岩南端)  
極北 北緯五十五度  
分(阿留度島北端)



り、其の面積は、約六十九萬方  
で、且つ關東州を租借し、南洋に  
委任統治地を有し、尙ほ滿洲東  
蒙古北樺太などに利權を有し  
てゐる。  
東方は、遙に米國を控へ、北より  
西にかけては、オホーツク海、日  
本海、黃海、東支那海等があつて、  
亞細亞露西亞(シベリア)支那と境し、  
千島は千島海峽を隔て、勸察  
加半島(朝鮮)臺灣はバシ海峽を隔  
て、比律賓群島(米)と相對して  
ゐる。また樺太は北緯五十度

緒論

三



によつて露領と、朝鮮は鴨綠<sup>アヨロクト</sup>・豆滿<sup>トマン</sup>の二江と長白山脈とによつて支那と、陸つづきをして居る。

區劃  
内地臺灣以南樟太の地は、畿内・八道山東海南北陸山陰又は八十五

ケ國より成り、更に行政上、北海道廳・三府・四十三縣に分れてゐる。

其の他、南樺太は樺太廳朝鮮、臺灣は各總督府、關東州委任統治地、南洋は各廳によつて治められてゐる。

# 第一編 地方誌

## 第一章 關東地方 隣太平洋・奥羽地方 境本州中部地方

### 第一節 地文誌

地域 關東地方は、本州島の東南部を占め、一府六縣を含め

下表は大正十四年  
十月一日國勢調査  
以前のもの、以下  
之に準ずる

\*人口二萬以上の  
都市が三十有餘あ  
る

| 面積       | 人口比較   | 全 國   | 内 地   | 關東地方  | 東京府   | 神奈川   | 千葉    | 埼玉    | 群馬    | 栃木    | 茨城    |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 面積四三、八〇五 | 人口比較   | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |
| 二四、九六六   | 二〇、九三三 | 一、三三八 | 一、五五五 | 三、二一九 | 二、四七二 | 四、〇九二 | 四、一八八 | 三、九六六 | 一、八八八 | 一、八八八 | 一、八八八 |

る關八州の地で、各府縣とも、面積狭小、人口稠密で、現在、我が國文化の中心をなしてゐる。  
地勢 山地は、北より西にかけて連り、阿武隈(加波)・帝釋・三國・關東(甲武信武甲三)の四山脈と、那須(那須高原・阿武隈)・富士(箱根)

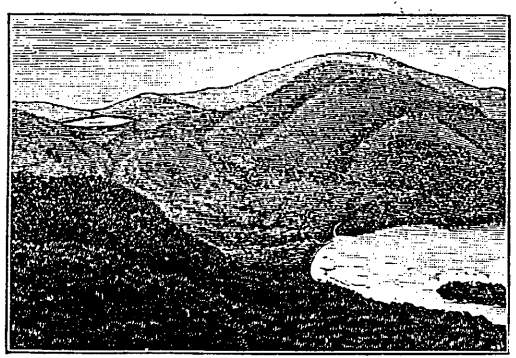
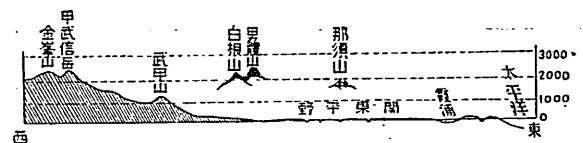
關東の主要なる山脈、火山脈は何々か

圖解 關東地方地勢圖

利根川につきて述べなさい

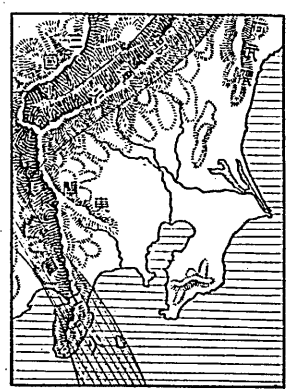
圖解 關東地方東西斷面圖  
圖解 赤城山と其の大沼

\* 鬼怒川・渡良瀨川・吾妻川等  
北浦等  
湖沼は、蘆湖・中禪寺湖等もある  
水力・電気・飲料水を供給する河流がある



の二火山脈とがあつて、高山・名嶽・温泉に富み、湖沼・瀑布・溪流の奇勝も、亦なかく多い。

東南部は、日本

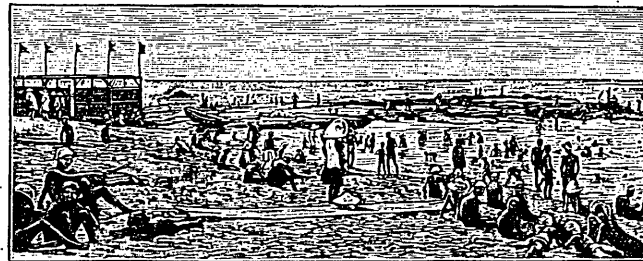


一の關東平野で、其の大動脈をなせる利根川(坂東)は、古來、河道の變遷が多く、數多の支流と霞浦などの湖水とを容れて、關東地方の大半を潤しつゝ、久慈・那珂・荒多・摩馬入(模和)の諸川と共に、太平洋に

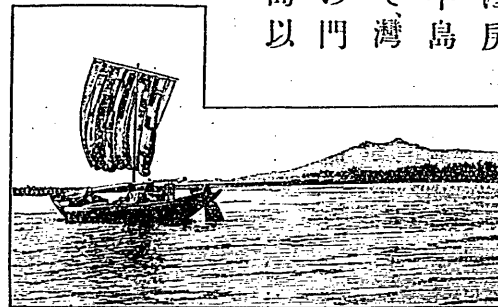
關東の主なる港灣  
を擧げなさい

圖解 霞浦(筑波山が見える、四頁参照)  
圖解 關東海水浴場(三崎)

×筑波原・赤城原・  
榛名原がある



注いでゐる。海岸は、房  
 總（大東郡  
野島崎）・三浦（親善崎  
親善崎）・兩半島  
 間に、東京灣があつて、灣  
 口の浦賀水道は其の門  
 戸である。三浦半島以  
 外は、屈曲少なく、鹿  
 島浦九十九里濱相  
 模灣岸は、何れも弧  
 狀の砂濱で、漁場や  
 保養地が多い。



氣候　山地によりて、北西の寒風を防ぎ  
近海には、暖流の黒潮がある故、雨量が多  
く、到る處、農耕に適し、海岸には、避暑避寒

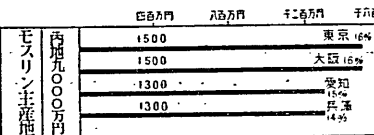
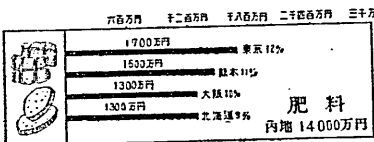
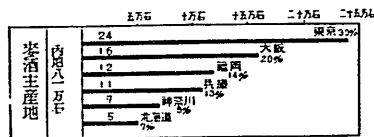
## 六

の場所が多い。

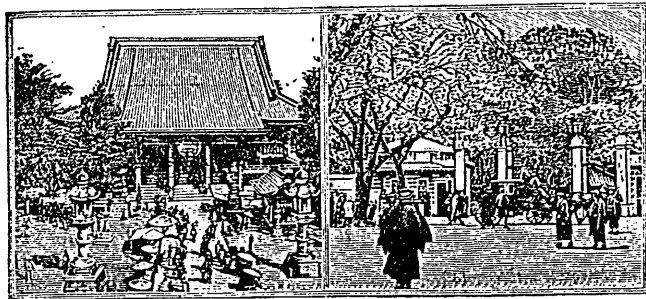
第二節 處 誌

東京府 西北の山地以外は平野が開けて荒川多摩川（東京市飲料水の源）等が流れてゐる。

東京市は、隅田川（荒下流川）に跨り、東京灣に臨



みて、面積約八  
十方料を占め、  
世界屈指の大  
都で、十五區よ  
り成り、山、手、下  
町に分れてゐ  
る。略宮城を

[illegible]

地方誌  
關東地方(處)誌

-L-

\*一萬高師・帝大・商大・陸大・陸士海大を始め私立諸大學等

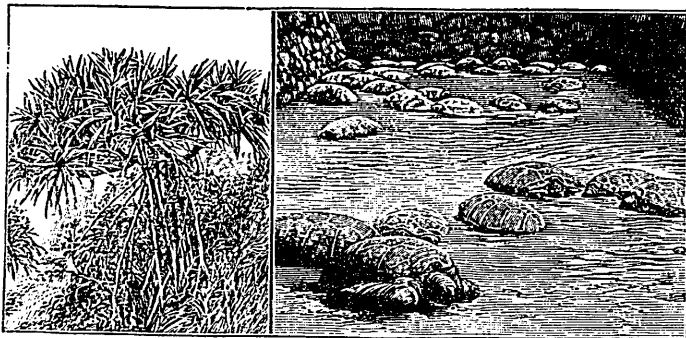
△汽車發着點は東京上野・飯田町・兩國橋等

園解 小笠原島の蠟龜と林投樹(次頁參照)

東京が種々の點で大中心なることを述べなさい

\*陸軍飛行聯隊所在地

△大島・新島・三宅島は椿油を産する又大島はバタを産する



國會議事堂、近衛第一の師團司令部、帝國大學を始め諸學校、帝室博物館がある。其の他、圖書館、書林、新聞社、銀行、會社、工場等が多く、社寺公園處々に散在して、遊覽の設備もあり、實に政治、教育、軍事、經濟、交通の大中心である。

武蔵野は月の入るべきくまなし草よりいてて草にこそ入れ

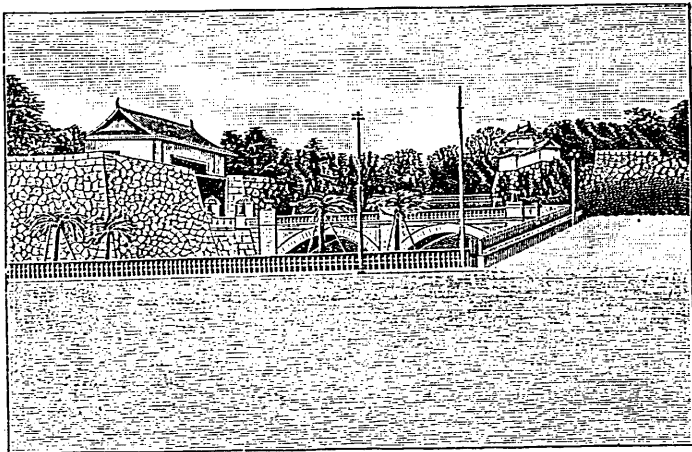
讀人不知

わがいはは松原つづき海近く富士の高嶺を軒端にぞ見る

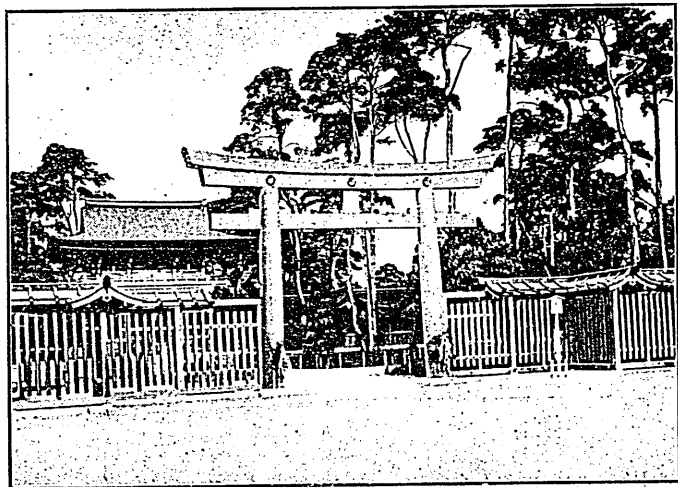
太田 道灌

市より西する中央線は立川や多摩川を過ぎ、絹織(特に)の盛なる八王子市を経、神奈川縣に赴いて居る。

伊豆七嶋の中、最大なる大島には、三原



皇宮

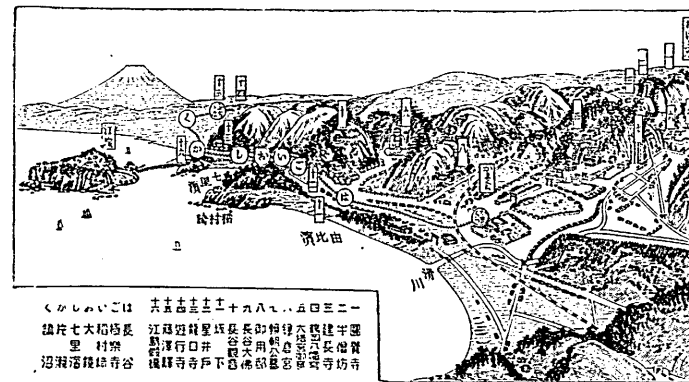


明治神宮





港 澳 台



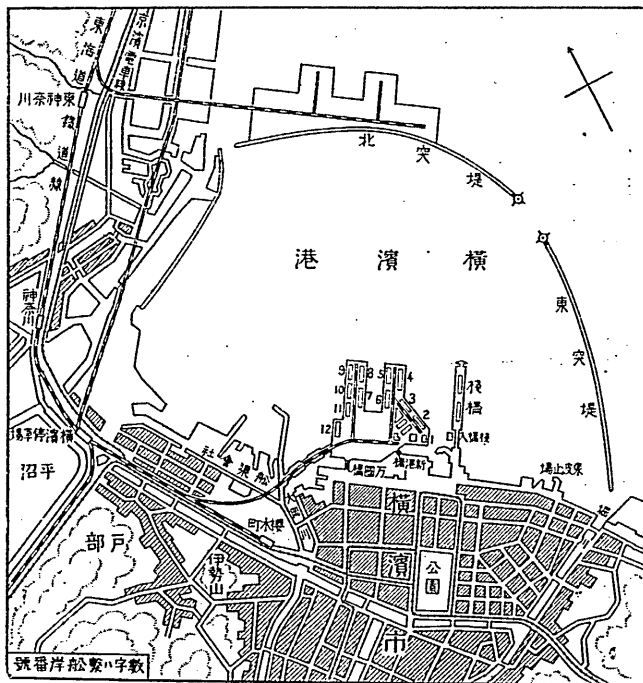
鐵 倉 附 近 島 嶼 圖

バナナ バイナツブル  
▲甘蕉・鳳梨  
甘蔗・蠟龜・林投樹  
小笠原島の氣候産  
業を述べなさい

圖解 橫濱港  
(次頁參照)

管轄  
相模・武  
藏南部

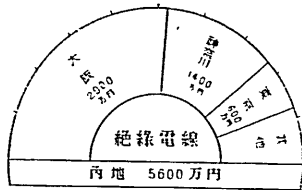
＊南麓の秦野は葉煙草の名産地



火山しん崎まつ。八丈島は、八丈絹木炭を以て名高い。南方の小

笠原諸島には、熱帶性の生物が多く、父島の二見灣は、唯一の良港で、漁業・交通の要地である。尙ほ、本諸島の南方に硫黄列島、東南に南鳥島（鳥瑯）がある。神奈川縣馬入（模根）川以西は、大山（オホヤマ）箱根山などの山地で、東南には、要塞地帯に

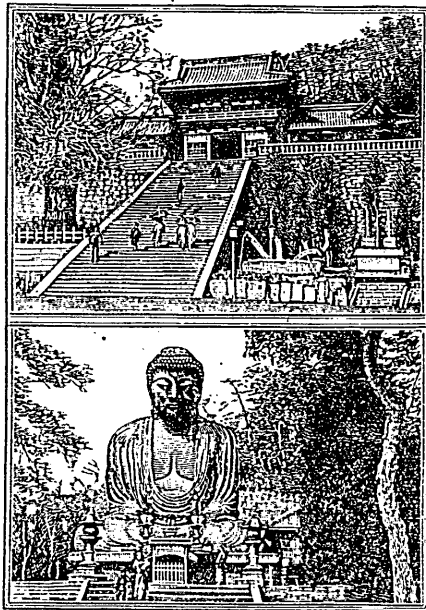
○尖端の三崎に帝  
大の臨海實驗場が  
ある  
\*高商・高工があ  
る  
\*大阪・東京・名古屋  
京都・神戸・横浜  
横濱港の特色を述  
べなさい



屬する丘陵性の三浦半島が突出してゐる。  
東京灣西岸の横濱市(縣在臨)は、帝國第二の開港  
帝國六大都市の一で、内外船の出入、居住外人  
が多く、生絲羽二重を輸出して、鐵材鐵器綿小  
麥を輸入し、實に北日本の門戸である。近時、

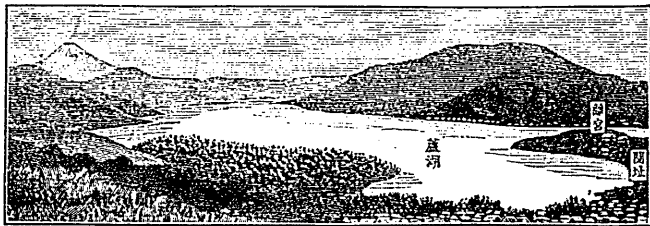
圖解 鶴岡八幡  
宮・長谷大佛(次  
頁参照)

にして、穀粉絶縁電線  
などの産が多い。市  
を通過する東海道線  
は、大船で横須賀線を  
分ち、茅崎・大磯・國府津  
などの保養地を経て、  
静岡縣に入る。川崎



京濱工業地帯とは  
どんなことか

ハ△鶴岡八幡宮・鎌  
倉宮・建長寺・圓覺  
寺・長谷大佛・箱根  
七里濱等  
鎌倉・金澤・浦賀小  
田原・箱根の略史  
を述べなさい  
▲南方の久里濱に  
ペリー上陸記念碑  
がある  
\*南方に頼朝軍兵  
地の石橋山がある  
圖解 箱根山中  
の蘆湖等  
\*大地獄に行けば  
火山活動の面影を  
認められる



市は、京濱工業地帯の一部で、名高い大師(平間寺)がある。

鎌倉は、頼朝開府の地で、史蹟・名刹に富み、江島・  
逗子・葉山の勝地を控へて、大船より汽車、藤澤  
より電車の便を有し、常に遊覧客が多い。軍  
港横須賀市は、第一海軍鎮守府のある處で、追  
濱の飛行場と金澤の勝地とに近く、浦賀と共に  
造船が盛である。小田原は、熱海方面(伊)に  
汽車、箱根に電車の便がある。箱根山は、標式  
的の複式火山で、其の火口原には、所謂箱根七  
湯をはじめとして温泉が多く、火口原湖の蘆  
湖を湛へて風光明媚、其の畔には、離宮關址が  
ある。近時、ケールブルカーも出來、常に清遊の客  
が多い。

管轄 安房・上総・下總大部

△野島岬燈臺は米國航路船客の目標  
\*松林の清澄山を負ひ僧日蓮の誕生地  
勝山は牛乳・煉乳の産地

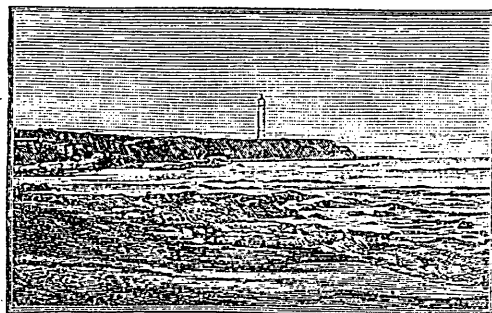
千葉縣の漁港を擧げなさい

圖解 鋸山

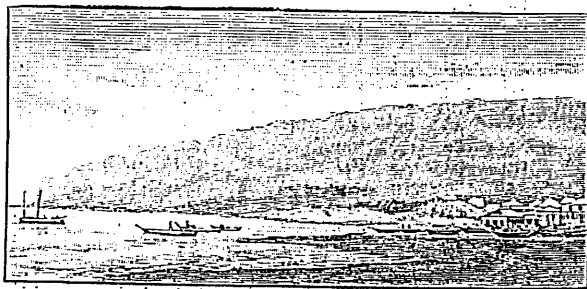
わたしや房州千倉の生れさんまひもの出る處 俣談

圖解 大吠岬 (次頁参照)

下志津に陸軍飛行學校がある



千葉縣 南部なる丘陵性の房總半島には、鋸山が屹立して石材を産し、海岸に、九十九里濱・一宮勝浦小湊・館山・木更津などの漁場や保養地が多く、鐵道の延長につれて、遊覽の客が年々増加する。北西部は、利根・江戸・二川が縣境を流れて、手賀沼・印旛沼などの湖沼を湛へ、平野には米・麥の産が多く、又牧場・練兵場(兵部省兵隊交通)に利用せられて、其の間に、小都



\*利根川口の漁港でそこの大吠岬に燈臺や水難救護所がある

圖解 右香取神社  
宮左鹿島神社  
圖解 野田の醤油出

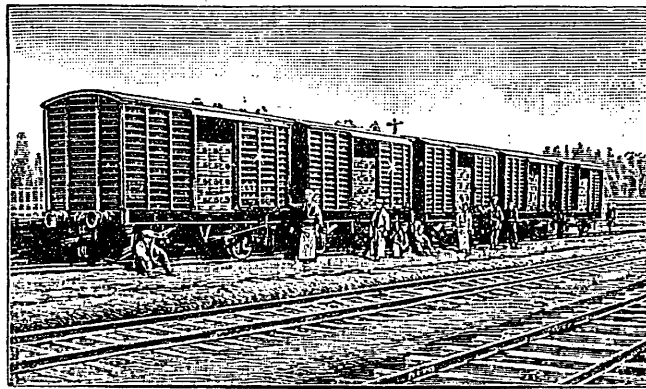
△地學者伊能忠敬の出身地



會が多く散在し、流山(味)、野田・銚子・佐原(以上)等の醸造地が少



なくない。  
佐原附近の香取神宮は、鹿島神宮(茨城)と共に、實に古社(天宮社)である。總武線は、國府臺・習志野(兵部省)を北



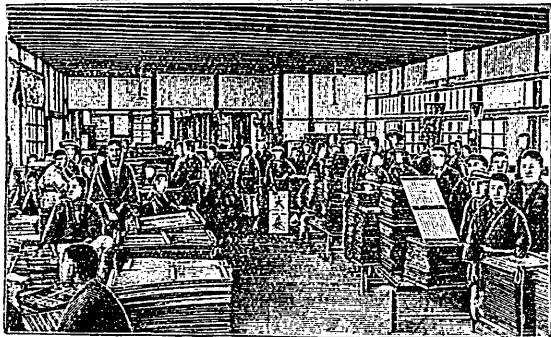
何故千葉市は交通の要地なるか

圖解 成田の不動堂

津田沼・幕張・稻毛などは東京市に近い保養地

圖解 秩父の絹織物の取引

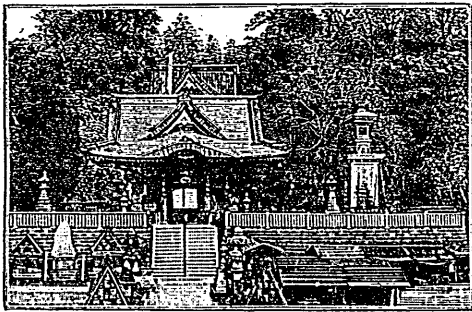
管轄 武蔵北半  
\*上流に長瀬の奇景がある  
荒川流域の略圖を描きなさい



にし行徳を右にして、千葉佐倉(新兵衛)を経て銚子に至る。千葉市(大縣廳)は交通

の要地で、甘藷澱粉を産する。佐倉に起る成田線は不動堂のある成田を経て佐原に終る。房總北條二線は、千葉の南方(我蘇)で分れ、各半島海岸の要地を連ねてゐる。

埼玉縣 荒川は、絹産多き秩父盆地を出て、米・麥(産額全)の産多き東半の平野

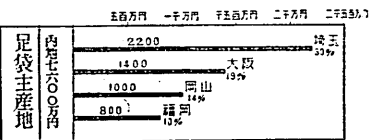
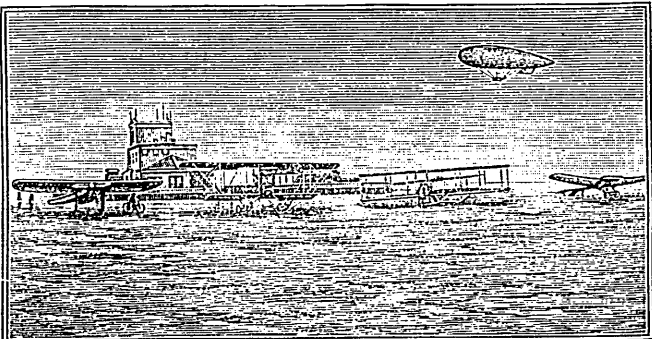


\*綿織物が絹織物より其の産額が多い

飯能は絹織物の産地

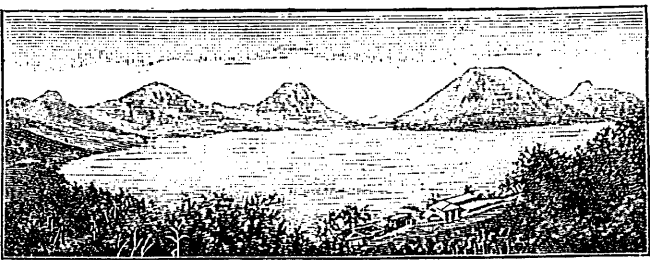
圖解 所澤陸軍飛行學校飛行場  
圖解 榛名山と榛名湖(次頁参照)

\*鐵道省工場 永川神社所在地



を流れてゐる。川越市は、絹綿織物と甘藷とで名高く、其の南方の所澤には、陸軍飛行學校がある。

東北線は、浦和(校高等學)を過ぎ、大宮で高崎線をつ。南境の川口は、鑄物業盛



△吉見の百穴に近く又秩父に行く要地 深谷は製絲地

管轄 上野

▲渡良瀬川・吾妻川等

○集塊岩より成る

×四萬・磯部

何故高崎市は交通の  
大中心なるか  
△生絲・玉絲の産地

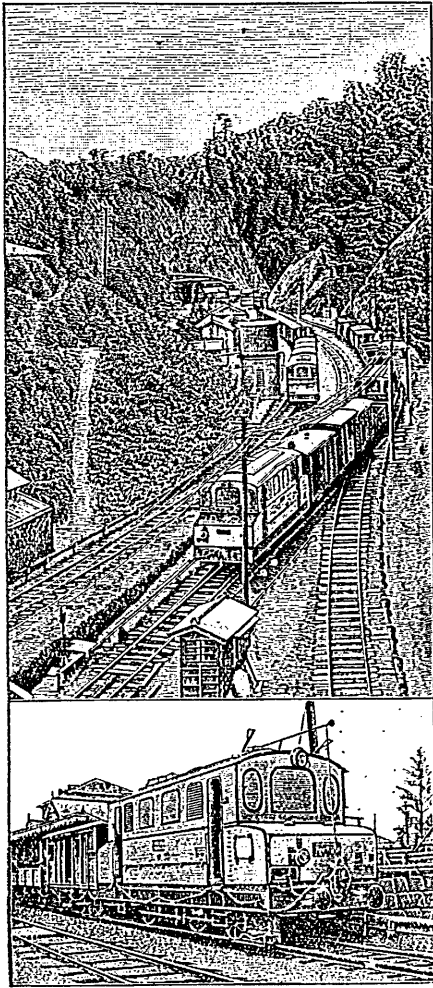
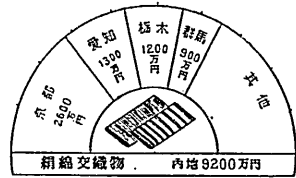
太田は新田氏の出身  
地で義貞を祀れる  
新田神社がある  
△横川驛附近より  
峠の絶頂(三〇米)

袋の大産地である。高崎線上の熊谷は交通の要地で、繭生絲・織物の市場である。

群馬縣 東南隅の館林は製粉モスリン工場の所在地である。此の地方以外は利根の本支流の流れ出づる山地で、風光に富める赤城榛名妙義の諸山が峙つて、伊香保(山根)草津

(山麓)等の温泉が多い。縣内は一般に養蠶・製絲(座・織に)機業が盛である。

交通上の大中心なる高崎市は、縣廳のある前橋市と共に、繭生絲の取引多く、伊勢崎(絲織)桐生市(高)附近は、栃木縣の足利市(絲織)地方と共に、關東の西陣とも稱すべき大絹織地で、上信電鐵に沿へる富岡は、有名な製絲地である。高崎に起る信越線は、アプト式による碓氷峠の隧道を経て、長野縣に



に至る約七哩間て  
二十六の隧道あり  
電氣機關車を用ひ  
て居る

圖解 碓氷峠の  
電氣鐵道

管轄 下野

\*那須・鹽原等  
△那須湖の島山  
△那須湖は中心市場  
△那須湖上流の發電  
所の電力は東京に  
供給せらる

入つて居る。

栃木縣 群馬縣と共に、兩毛と呼ばれる地方で、那須男體などの山深く、温泉勝地が多い。唯東南部の那珂鬼怒の流域のみに平野があつて、麥・葉煙草・大麻などを産する。

小山は、交通の中心で、栃木は、農産物の取引地、佐野は綿織地

△眞岡本綿の原産地

圖解 大谷石切出しと東照宮の唐門

▲附近は干鰯の產地東北日光二線の分岐點

×田母澤にある

て眞岡は米の取引地である。

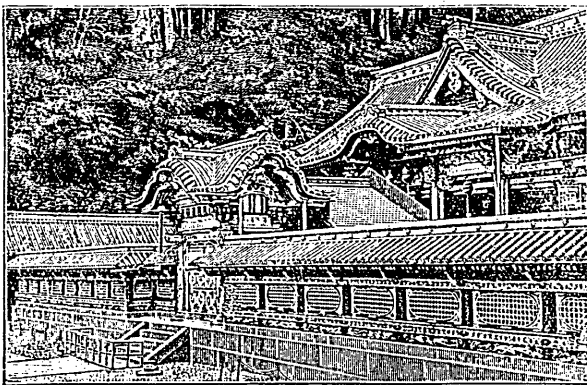
|        | 二万坪 | 四万坪 | 六万坪 | 八万坪 | 一千万坪 |
|--------|-----|-----|-----|-----|------|
| 銅主産地   | 900 | 930 | 950 | 960 | 970  |
| 内地四〇〇萬 | 900 | 930 | 950 | 960 | 970  |



▲宇都宮（縣廳第十四師團）市は縣

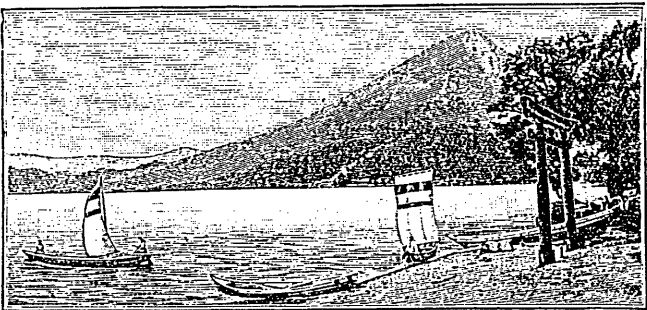
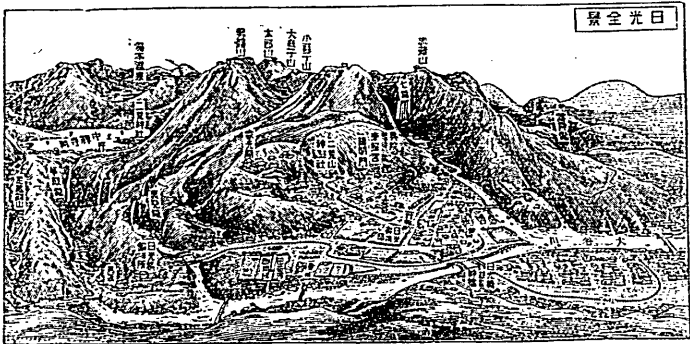
の中心市場で、製粉行はれ、附近に大谷石を産する。

日光は、華嚴瀧、中禪寺湖、紅葉等の自然美と、東照宮等の人工美と相俟つて、内外人の歎賞する所で、遊覽の客が多く、また避暑にも適して、帝室御用邸もある。



る。其の西南に、本邦中屈指の銅產地足尾がある。

圖解 中禪寺湖



日光遊記 名にし負ふ神橋も、東照宮の表門も共に總朱塗にして、人目を奪ふばかりなり。尙ほ有名な陽明門（日暮御門）は、彫刻眞に精妙を極め、又八方睨み四方睨みの龍大井に畫かれたり。社殿は、金箔燦爛として輝き、其の背後なる奥院には、家康の靈魂長へに眠れり。更に大谷川を遊れば、急流は、珠玉と砕け、又兩岸の紅葉、錦を織れり。中禪寺湖は、男體山の麓に湛へ、其の末なる華嚴瀧は、高さ四十丈、壯絶悽絶、絶謂はん方なく、裏見霧降などと、其の名世に高し。



管轄 下總西北  
部常陸  
關東の重なる保養  
地を擧げなさい

\*男體・女體の双  
峯に分れ男體山上  
に故山附宮殿下創  
設の洞候所がある

圖解 常磐公園  
何故水戸市は交通  
の要地なるか

△附近の阿見に敷  
地八十五萬坪を有  
する壯大な海軍航  
空隊がある

關東の醸造地を擧  
げなさい  
關東醸造業の隆盛  
は米・麥・豆の多産



茨城縣 鰻・鯉の多い鹿島灘の沿岸には、湊・大洗・助川などの  
漁港や、保養地が多い。北部の山地には、金銀(以上)・石炭・葉煙  
草・寒水石(可地以上)を出し、霞浦・北浦の海跡湖  
と、筑波の名峰とを控ふる南部平野は、麥  
豆類を多く産する。

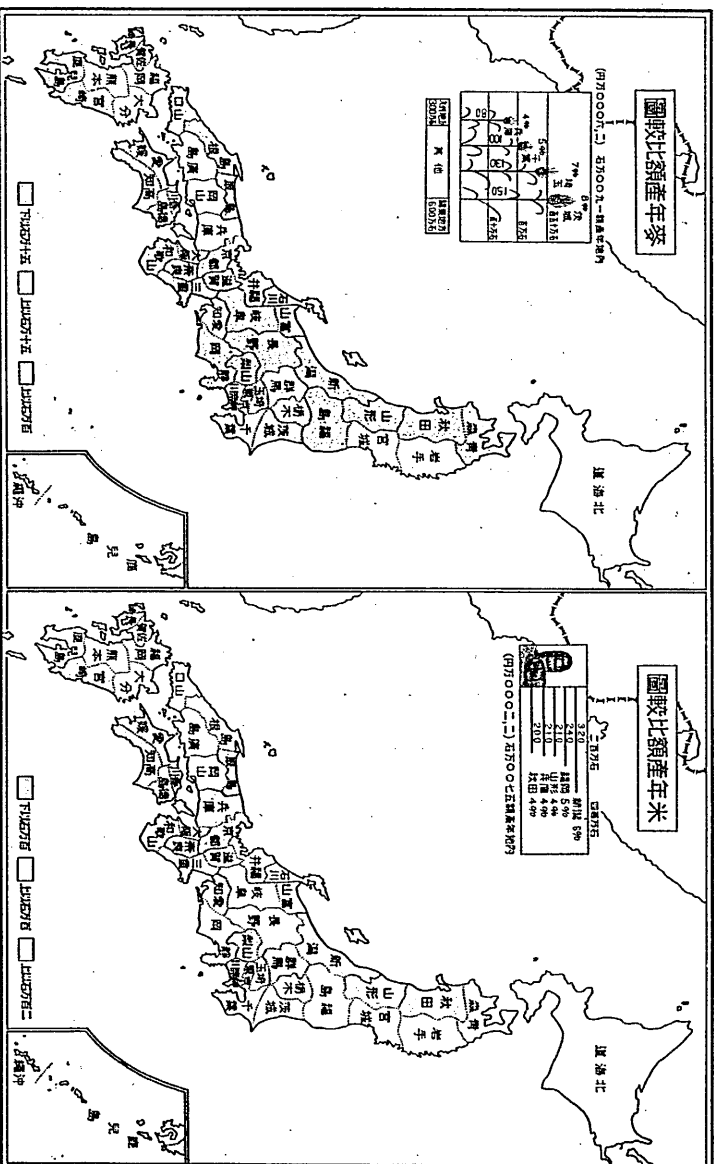
那珂川下流の水戸市(縣廳・常磐公園)は、交通  
の要地で商業榮え、又麥粉を産する。水  
戸線上の結城・下館地方は、紬・木綿の名産  
地である。常磐線は、土浦(特)・石岡(特)・水戸

勿來(所)を過ぎり、福島縣(縣)に通じてゐる。

吹く風をなこそその間と思へども道もせに散る山櫻かな

源 義 家

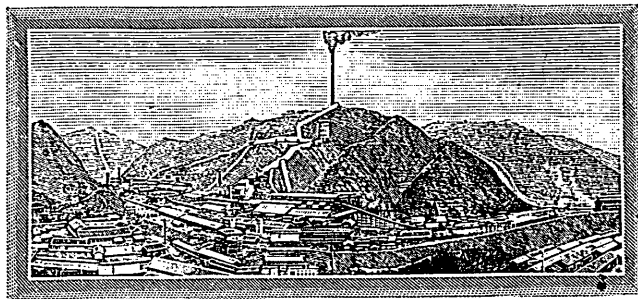
### 第三節 人文誌



△東京灣では海苔を採取する

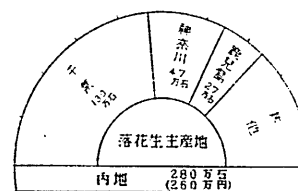
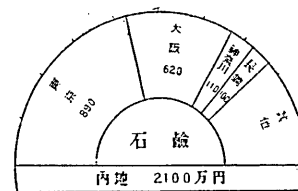
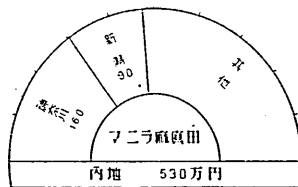
(圖解 日立鐵山)  
(次頁参照)

と水質との關係であつたが現今は交通の發達と大消費地が近いのとて一層盛大となつた  
×千葉・神奈川二縣  
\*東京附近に多く松戸に高等商業學校がある  
何故關東の北西部は養蠶が盛なるか關東の絹物の大産地を舉げなさい



産業 關東平野は、耕地が開けて農産が多く、

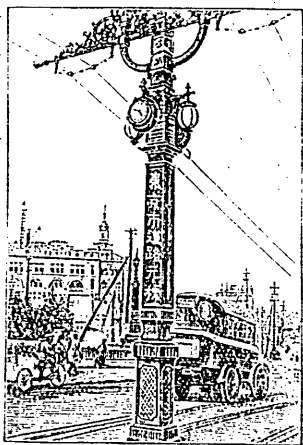
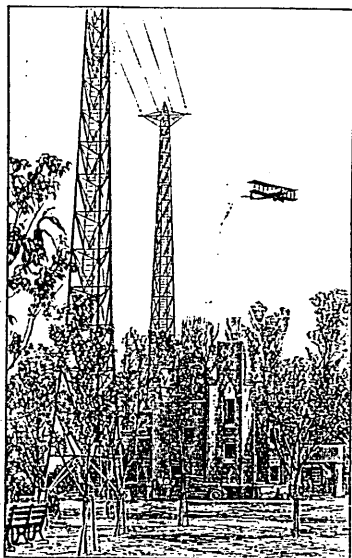
米(千)・麥・豆類(城・埼玉)・甘藷落花生・大麻(木場)・葉煙草(神奈川・茨城)・蔬菜を産し、北より西にかけては、地質・氣候の關係上、養蠶業が盛で従つて多く繭・生絲・絹織物を産する。  
海岸一帯は、暖流(潮黒)の誘ふ鰹・鰯・鮭・鯖等の水産が多く、干鰯・搾粕・鰹節の製造も亦盛である。





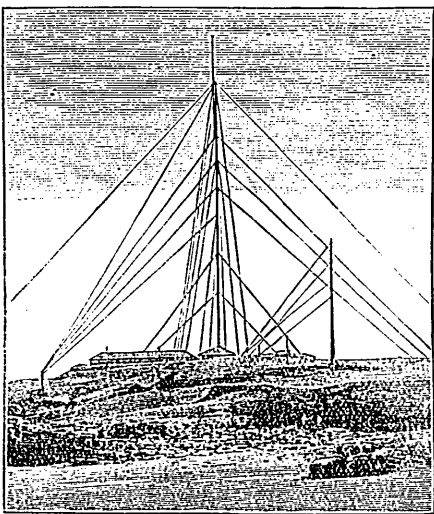
○買鐵・製鍊共に  
行はれる  
△紡織・機械製造・  
製本・製薬・製糖・  
護謄製造・醸造・造  
兵等  
何故關東の交通は  
發達したか  
×街道と其の關門  
東海道・箱根峠  
甲州街道・小佛峠  
中山道・碓氷峠  
越後街道・清水越  
奥羽街道・白河關  
濱街道・勿來關  
△東海・中央・東北・  
常磐・總武・高崎・  
信越・西毛・成田・  
房總・北條・横須賀  
等の諸鐵道線  
那珂川は水戸・湊  
國海・東京芝愛  
宕山無線電話放  
送局と日本橋の  
道路元標  
間に汽船を通ずる

常磐炭田・日立・足尾は鑛產地として名高く、特に京濱地方(生産地)の商工業と、北西部の機業とは頗る目醒しい。  
交通 地勢産業政治其の他諸種の事情は、交通の發達を促し、概ね東京を起點として、街道も、鐵道も能く開け、電車、自動車の利用が著しく増加しつつある。水運も至便で、殊に利根川は、分流の江戸川と霞浦とに船舶を通じて居る。横濱は、内外航路の中心である。



農業市? 鑛業市?  
工業市? 商業市?  
市? 交通市? 政治市?  
軍事市? 名勝地?  
市制施行地? 以下各地方とも右に倣ひ都會を分類列舉しなさい  
圖解 銚子の無線電信

東京・銚子・船橋・岩槻・父島等に、無線電信局がある。  
都邑 文化が開け、住民が稠密で、人口一萬以上の都邑が九十有餘もある。しかも住民は、益、都市に集中してゐる。東京附近は、特にさうである。



第二章 奥羽地方  
第一節 地文誌

| 面積      | 人口比較 | 全國  | 内地  | 奥羽地方 | 福島  | 宮城  | 岩手  | 青森  | 秋田  | 山形  |
|---------|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 面積四二五八〇 | 人口比較 | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 二四九六    | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 四三三八    | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 八九〇     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 四七二     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 九八八     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 六二四     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 七六〇     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |
| 六〇三     | ...  | ... | ... | ...  | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

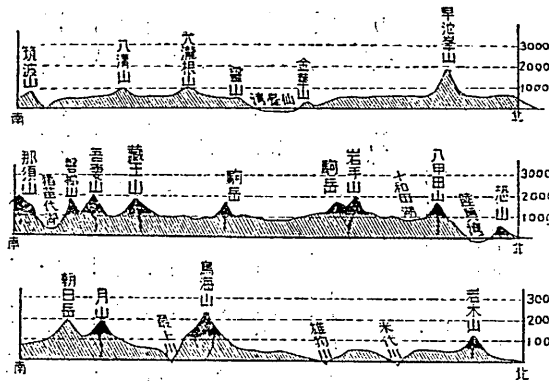
地域 奥羽  
地方は古の  
陸奥及び出

奥羽の六縣及び縣  
廳所在地を擧げな  
さい

何故奥羽の文化が  
他地方より後れた  
か

上圖解 奥羽地  
方東部中部西部  
山地南北斷面圖  
下圖解 奥羽地  
方地勢圖

\*北畠氏勤王の遺  
蹟で山麓に北畠氏  
を祀る別格官幣社  
靈山神社がある



羽の地で、七ヶ國(磐城・岩代・三陸・奥羽)より成り、本州の東北部にある故、一  
に東北地方ともいはれる。土地、一方に偏し、且つ氣候が稍  
寒冷であるため、文化の發達が、本州  
四國・九州の各地方中で、最も後れた。  
面積は、關東地方の二倍もあれど、人  
口は、漸く其の半に過ぎない。行政  
上、六縣に分れてゐる。

地勢 東部山地(北上山脈(早池・柴山)・阿武  
隈山脈  
(山嶺)・中部  
山地(奥  
羽山脈・  
那須火



磐梯山(磐梯・吾妻・蔵王・岩手山)・南部富士  
岩手山(岩手・山形)・出羽富士  
岩木山(岩手・秋田)・津輕富士  
吾妻山(山形・秋田)・吾妻富士  
山脈と火山脈とは  
どこが違ふか

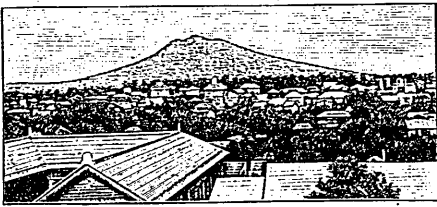
圖解 岩手山

\*東山飯坂・上山・  
鬼首・淺蟲等

奥羽の主要な平野  
(盆地)は何々か  
奥羽の自然と人文  
との關係を述べな  
さい

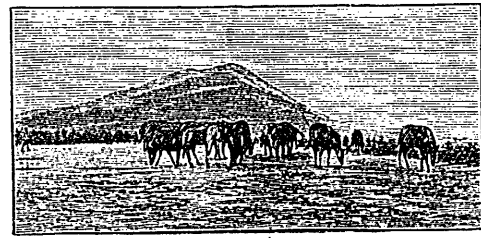
圖解 岩木山

△合津・米澤・山形  
新庄・横手等  
\*外に田澤湖・十  
三湯・小河原沼等  
\*湖口の平館海峽  
は幅僅に三軒



山脈(磐梯・吾妻・蔵王・岩手山)・西部山地(出羽山脈(羽黒)・越  
後山脈(飯盛山)・鳥海火山脈(岩木・森・吉島)・三は縦  
走して本地方の骨格をなし、就中、中央山地  
は、最も雄大で、諸川の分水界をなし、西部山  
地と共に温泉が多い。

北上阿武隈二川の縦谷と、岩  
木・米代・雄物・最上・阿賀・五川の  
横谷とには、盆地や平野が開  
けて、主要路を通じ、且つそれ  
が、一地方文化の中心をなして居る。湖沼  
は、猪苗代湖・八郎潟・十和田湖などが名高く、何  
れも風光が勝れて居る。海岸は、陸奥・仙臺の  
二灣と、岩手縣東岸の屈曲と、男鹿・半島の突出



津輕海峡と東海上  
とは濃霧が屢起る

\* 棧を交通に用う

(圖解) 十和田湖  
(前頁参照)

奥羽の東西海岸の  
氣候を比較しなさい

管轄 磐城大部・  
岩代

\* 沃度 硫酸を産  
する、四倉はセメ  
ント、湯本は煉瓦  
の産地

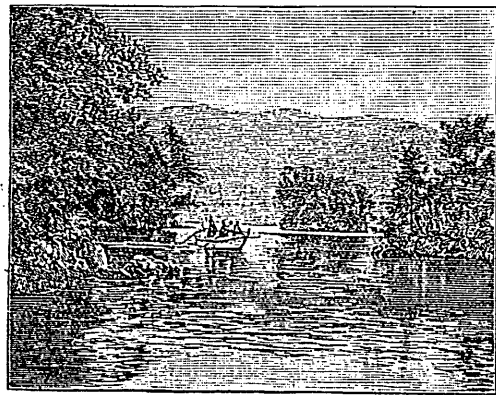
阿武隈川流域の産  
業及び都邑につ  
て記しなさい

とが、目立つのみで、屬島も乏しく、一  
般に單調である。

氣候 東岸は寒流(海流)に洗はれて  
氣温が低く、西岸は暖流(海流)と大陸  
との影響を受けて、冬季に積雪が多  
い、殊に春寒・秋冷の遅速は、往々凶作  
の原因となることがある。

第二節 處 誌

福島縣 縣内は、東部中央の二山地によつて、東(通)中(通)西(津會  
地)の三部に分れる。東部には常磐線が通じて、平附近に石  
炭、中村に相馬焼を出し、富岡・原町に磐城無線電信局がある。  
中部には、東北線・阿武隈川が並走して、製絲機業が盛である。



○ 白河・勿平・念珠  
三關は昔、奥羽出  
入の關門

\* 生絲 綿絲を産  
し、鐵道工場あり

△ 羽二重産地川俣  
温泉地飯坂に近い

○ 鹽 釜 福島の生  
絲検査所

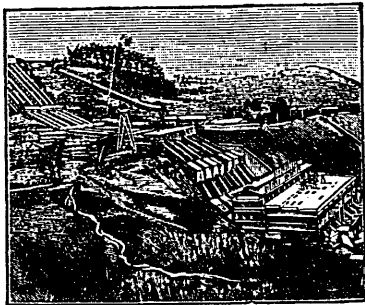
二本松は製絲業地  
▲ 東北方面盛山に  
白虎隊の墓東南方  
に東山温泉西北方  
に絹織地喜多方と  
加納銅山とがある  
\* 灌漑用の疏水と  
發電とに利用せら  
れ電力は東京市に  
送らる

○ 關所 猪苗代湖  
の發電所

管轄 磐城大部・  
陸前大部・  
△ 磐石・居澤附近  
\* 鐵道開通以來其  
の量を減じた

白河・須賀川・三春は馬の市場、商工業地の郡  
山市は又交通の要地である。福島市(縣廳在)  
は、東北奥羽二線の會點で、繭生絲・羽二重の  
市場である。梁川は、蠶種製造地として知  
られて居る。

西部(盆地)の若松市は、猪苗代湖を水源とす  
る阿賀川の支流に跨り、  
近く磐梯山を望み、形勝  
の地で、會津塗・會津焼(盛本郷)を産する。



宮城縣 西部の中央山地は、牧馬が榮え、  
東北線の辿れる仙臺平野には、陸前米を  
産する。北上川口の石巻は、古來、米の船  
積もて、諸はれた處である。牡鹿半島西



岩手は東北常磐  
二線小牛田は東  
北・陸羽二線の會  
點

×東京を距る三五〇  
軒仙臺平・埋木細  
工を産する  
野蒜連河・貞山堀  
と北上川とは小舟  
を相通する  
\*高校・高工

仙臺市は奥羽にお  
ける何々の中心か

管轄 陸前小部  
陸奥中大部  
陸奥小部

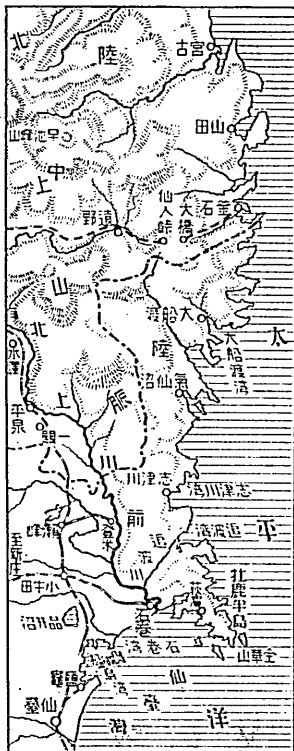
面積廣大の府縣順  
位 岩手・福島・長  
野・新潟・秋田

圖解 仙臺府以  
北の海岸の屈曲

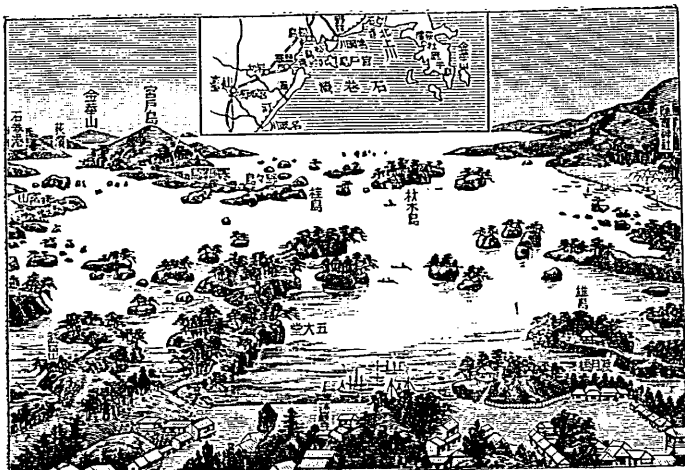
人口稀薄の府縣順  
位 岩手・宮崎・秋  
田・青森・福島

岸の萩濱は横濱函館間の要津で、金華山の沖合は、鯨・仙臺鮪の漁場である。

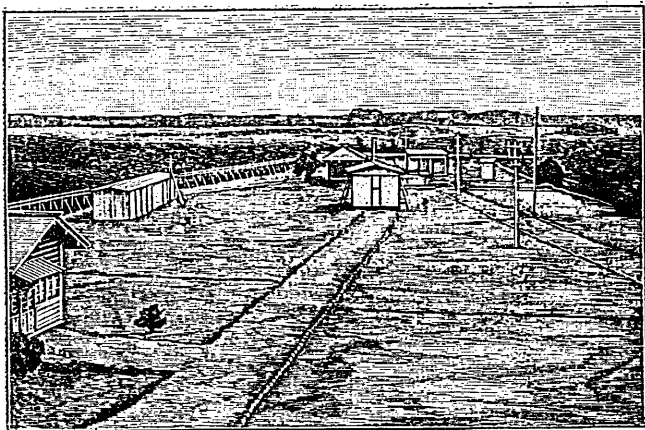
仙臺市は、廣瀬川に臨み、仙臺平野の中心を占め、伊達侯の舊城下で奥羽中の最大都である。縣廳第二師團司令部・控訴院の所在地で、又東北帝國大學を始め學校が多く、製絲業・機業が行はれる。仙臺の外港鹽釜の前面には、日本三景の一なる松島灣の絶景がある。



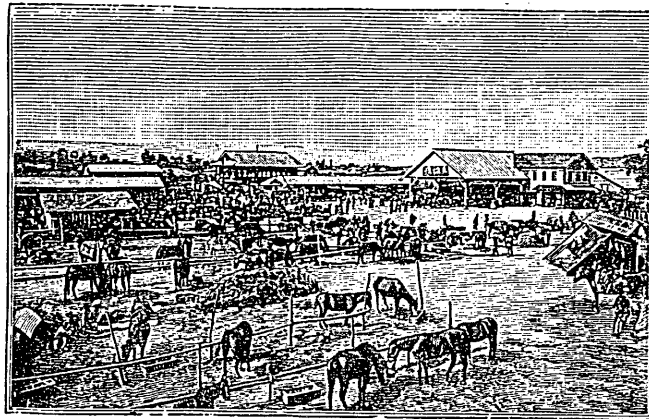
岩手縣 府  
縣中、面積が  
最も大で、人  
口が最も疎  
である。海岸  
は、鋸齒狀を



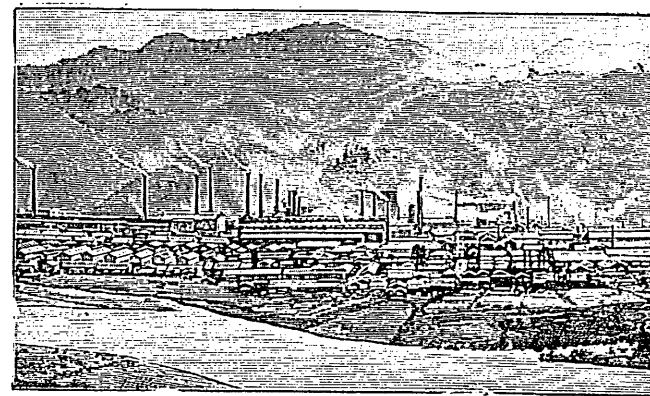
松島



緯度觀加所



市馬の岡原



所鐵製山鑛石釜

＊木材の集散地

何故若手縣の東部は發達しないか

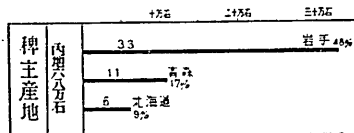
仙人鑛山にも鐵を産する

▲中尊寺の金色堂は奥州藤原氏全盛時の建築物 衣川は豪族安倍氏の根據地

△紙荷札・タオル・生絲の産がある

圖解 平泉の金色堂と其の内部

平泉・剡川は歴史上どんな地か



稗主産地

北上の川

上流なる盛岡

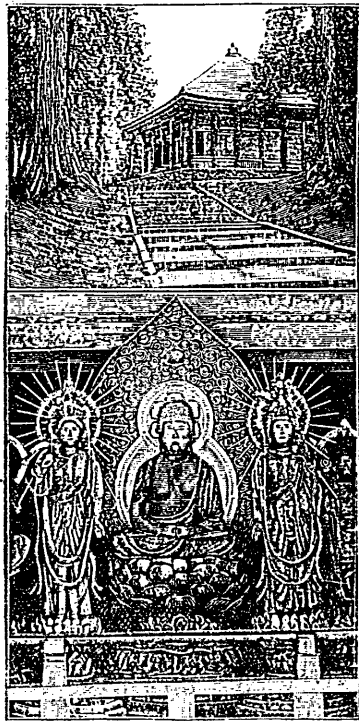
市(縣廳・鐵道工場・高等農林所在)

は、南部鐵瓶南

部馬の市場で、

剡川の柵址に

呈して屈曲に富み、宮古大船渡等の良泊地がある。北上山脈に限られて、交通の便が少ないため、唯、内地第一の鐵山を控ふる釜石が、稍著しいのみで、其の他は、一の漁港に過ぎない。東北線の通ずる北上馬淵の二河谷は、大豆・稗・栗・馬鈴薯・馬等を産し、平泉附近は、甚だ史蹟が多い。

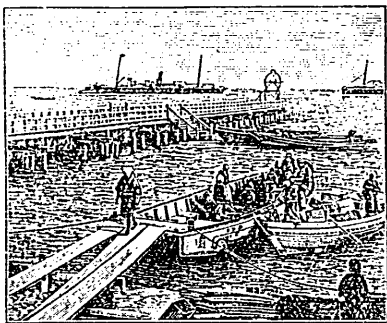


管轄 陸奥  
大部 白河・青森間東北  
本線上の重なる都  
邑を挙げなさい

\* 養魚行はる  
\* 附近の石灰岩は  
秋田縣内諸山に  
同解 青森の埠  
頭(次頁参照)

能産利となる

\* 夏泊時により野  
邊地時と青森時と  
に分れる



近い。一關は、縣の南方入口で、水澤は、緯度觀測所  
(北緯三九)の所在地である。

青森縣 津輕海峡を隔て、北海道に對する本州最  
北の半島である。東海岸に漁業(鮫、中、心、其)、原野に牧  
畜業が榮え、西部の津輕平野(岩木川流域)には、米、馬鈴薯、苹

果などを産する。

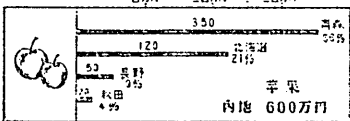
中央山地に、八甲田山と風光

明媚の十和田湖とがある。

東北線は、八戸(東部の)附近と三本木・七戸

の牧場附近とを過ぎ、青森で奥羽線に  
接続する。

斧形の下北半島は、羅漢柏の美林で名  
高い津輕半島と、相似形の陸奥灣を抱



▲蠟燭の産が多い  
函館に二軒約四  
時間半を要する

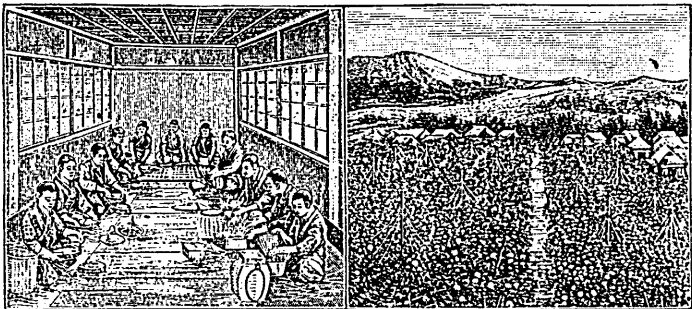
△津輕塗・木通細  
工の特産がある

圖解 苹果園と  
木通細工

管轄 陸奥  
大部 白河・青森間東北  
本線上の重なる都  
邑を挙げなさい

く。灣の東北隅に、大湊の海軍要港が  
あつて、野邊地より鐵道が通じてゐる。  
縣廳所在の青森市は本州の北門、本地  
方唯一の開港で、水(青森港等)陸交通の衝  
に當り、製材業が盛である。津輕平野  
の弘前市(高等學)は、西北に岩木山(富士輕)を  
望み、第八師團司令部のある處で、苹果  
木材の取引が多い。

秋田縣 岩手縣と背中合せをしてゐ  
る。奇勝に富める男鹿半島は、長方形  
の單調を破つて、日本海に斗出し、内に  
八郎潟を抱いてゐる。中央山地には、  
小坂尾去澤等の鑛山が多く、銀銅の産



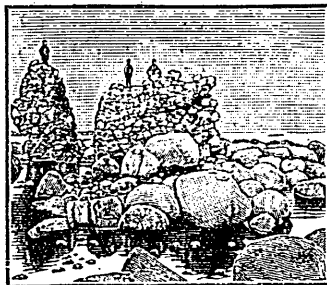
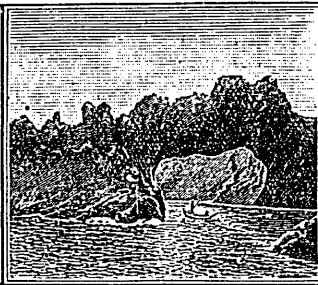


男鹿半島・土崎・船  
川は宮城縣の牡鹿  
半島・石巻・萩濱と  
類似した點が多い

圖解 男鹿半島  
の奇勝(前頁參  
照)  
圖解 米代川上  
流の伐木(次頁  
參照)

○岩手縣黒澤尻に  
鐵道を通じ附近に  
金澤梅址がある

△製煉茶え添慶堂  
をも産する



に入る。米代川口の能代港

額が多い。

青森に起る奥羽線は、弘前矢立峠を経て、

大館より、

米能代川

に沿うて

下り、秋田

平野より

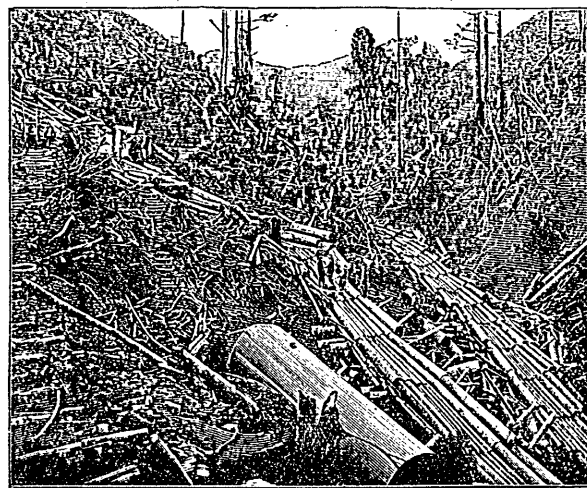
雄御物河

谷の横手

を過ぎ、杉

峠を越え

て山形縣



圖解 秋田名産  
の大略

奥羽の美林地を舉  
げなさい

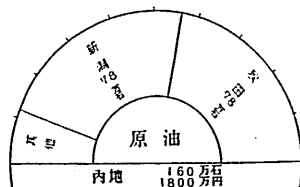
何故秋田市に鐵山  
専門學校が設けら  
れたか、主要なる鐵  
山を記しなさい  
×北西風荒き時は  
寄泊船は補助港船  
川に避難する  
本莊は西岸の名邑  
で象潟に近い

圖解 島海山  
管轄 羽後小部・



は、上流に杉の美  
林を控へ、大館と  
共に、木材を集散  
し、挽材が盛であ  
る。

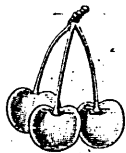
雄物



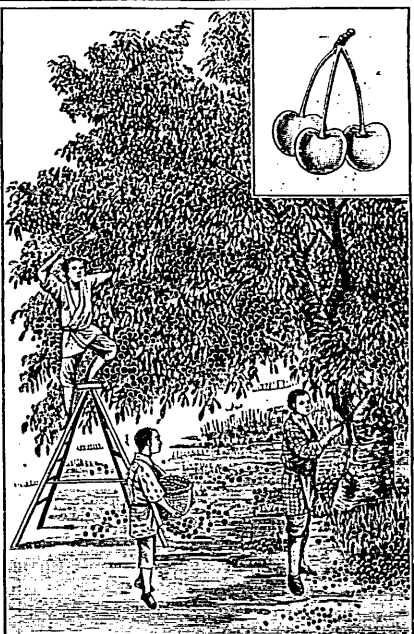
河畔の秋田市(縣廳・鐵山專  
門學校所在)は、絹織物(秋田織入)、金銀細工  
を産し、其の外港・土崎港(鐵道・石油工場所)附近には、石油  
坑(豊川・雄物川)が多く、又土瀝青をも産する。

山形縣 宮城縣と背中合せをなし、北境には、鳥  
海山(富山)が聳えてゐる。最上川は、羽黒山、月山、  
湯殿山(以上は羽の山)續きと、中央山地との間を流  
れ、米産地の庄内平野を潤して、日本海に注いで

圖解 櫻桃

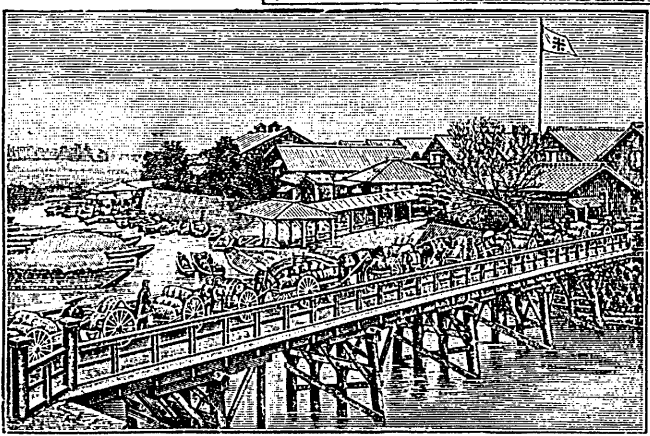


圖解 酒田  
の米庫入れ



△ 龜線織を産する  
\* 庄内平野(庄内)  
・新庄盆地(最上)  
・山形盆地(村山)  
・米澤盆地(置賜)  
・山形縣の各平野  
(盆地)の中心都會  
を答へなさい。  
○ 今は多く鐵道で  
運米する

居る。其の流域は、地形上四區に分れ、上流地方は、養蠶機業が盛で、櫻桃をも産する。  
庄内平野の酒田は、古來米の取引多く、鶴岡市は、機業(羽三)地である。



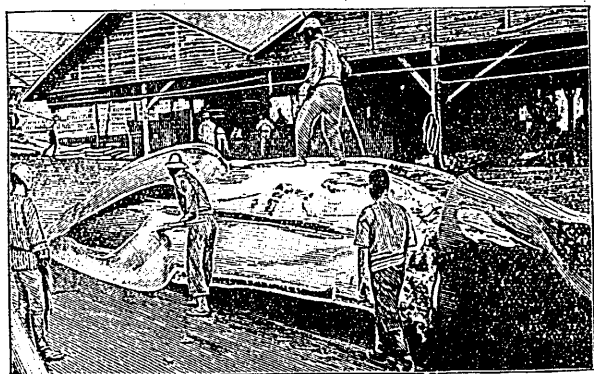
△ 龜線織を産する  
\* 高校所在附近は  
櫻桃、薄荷の産地  
\* 上杉鷹山の遺蹟  
地、高工所在地  
△ 米琉(長井)の  
本場

圖解 青森縣  
の捕鯨

奥羽地方の産物分  
布圖を作りなさい。  
\* 水産も少なくない  
・金華山鯨(八戸の  
東方)の沖合では  
捕鯨が行はれる

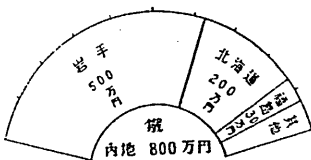
第三節 人文誌

奥羽・陸羽二線の相會する新庄は、最上地方の中心である。  
山形市(縣在)は村山地方(盆地)の中心で、銅器鐵器の産がある。  
米澤市は置賜地方(盆地)の中心で、  
北方の長井と共に、養蠶機業(特殊)に  
が盛大である。  
奥羽線は、深雪で名高い板谷峠を  
過ぎて福島に行く。  
産業 平野には、米・大豆・馬鈴薯・果  
實を産し、津輕半島には羅漢柏、米  
代川上流には杉の美林がある。  
東部四縣の牧馬と、秋田(銀・銅・石油)・岩手





(鐵)福島(炭)三縣の鑛產とは、特に名高く、南部諸縣の絹織物の産も著しい。但し本地方は、文化の開けしこと遅く、面積の割合に住民が少ないので、山林、原野が、土地の大部(總面積の三弱)を占めて、産業の發達が、一般に遅れてゐる。これ即ち東北振興の聲が高い所以である。



交通 東北奥羽常磐羽越の四幹線は、南北の交通を便にした。東西の連絡は、海運と同じく不便であつたが、今や磐越陸羽横黒の三線が開通した。郡山・福島・平岩沼・小牛田・青森・秋田・新庄は、主要鐵道の會點である。

都邑 仙臺市の外、大なるものはないが、鐵道沿線には、地方的の市邑が散在してゐる。但し人口一萬以上の都邑は、僅に三十有餘で、關東地方の三分の一に過ぎない。

奥羽における交通の要地を擧げなさい

横黒線(横手・黒澤尻間)

尻問

東北・奥羽二線の  
北部連絡も一の横

斷線である  
開港は青森のみ

開港は青森のみ

都をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河のせき

松島やあ松島や松島や

富士見ずば富士とやいはん陸奥の岩木の嶽をそれと眺めん

五月雨をあつめて早し最上川

能因法師

松尾芭蕉

藤原定家

松尾芭蕉

第三章 本州中部地方

## 第一節 地文誌

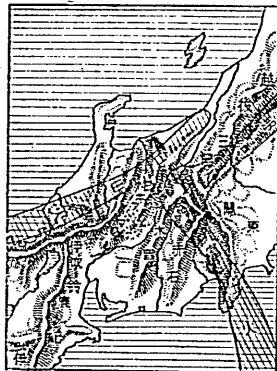
地域 中部地方は、本州中、幅最も廣く、關東奥羽二地方と近畿地方との間に挟つて、古來、南北日本文化の接觸點である。行政上九縣に分れ、人口の密度は中庸である。

[illegible]

圖解 本州中部  
地方地勢圖  
日本アルプスの名  
山を挙げなさい

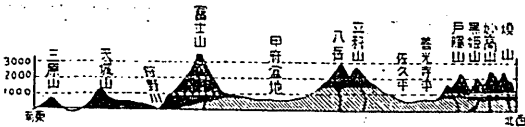
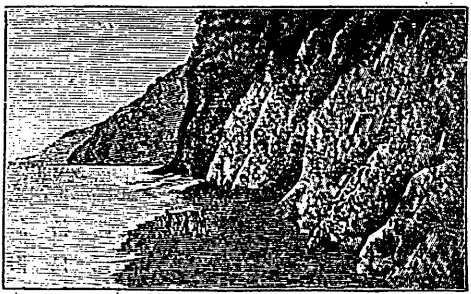
\*白根・赤石等の  
高峯があつて南ア  
ルプスの別名さへ  
附せられ近來登山  
者が多い

圖解 親不知の  
險崖 富士火山  
脈南北斷面圖

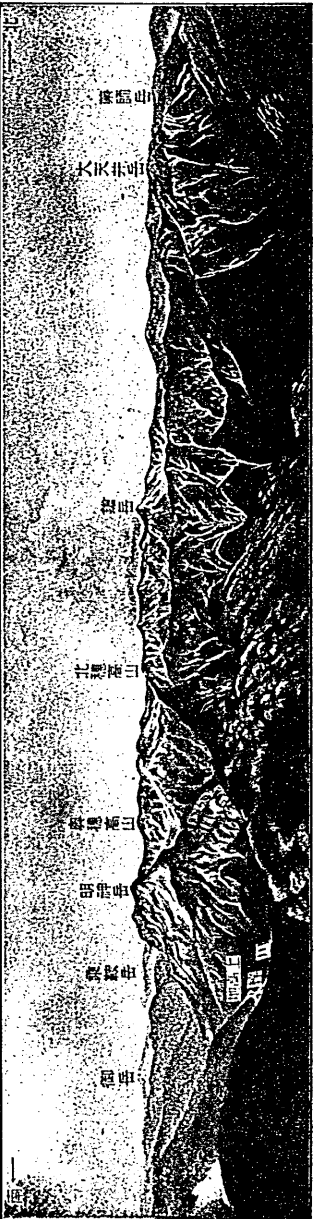


に走つて、本邦屈指の高峰峻嶺がある。東南には、木曾・赤石の兩山脈が竝走して、東境の關東・越後兩山脈に對峙し、富士火山脈は、遠く南洋より來つて、中部を縦貫してゐる。此の外、西北に、白山を主峯とする白山火山

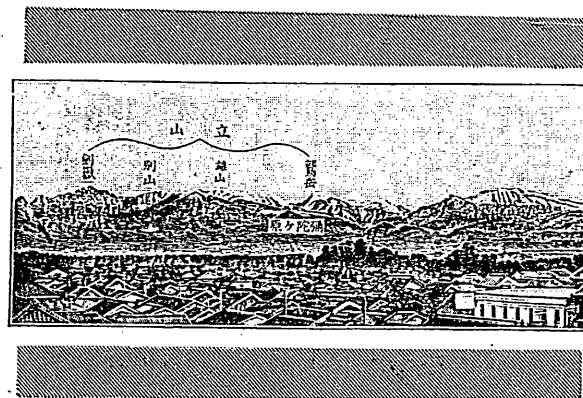
地勢 東北派・西南派兩山系の會する所、地相が極めて錯雜してゐる。北方、親不知の險崖に起る日本アルプス(飛騨山脈)は、兩越・飛信の國境を南北



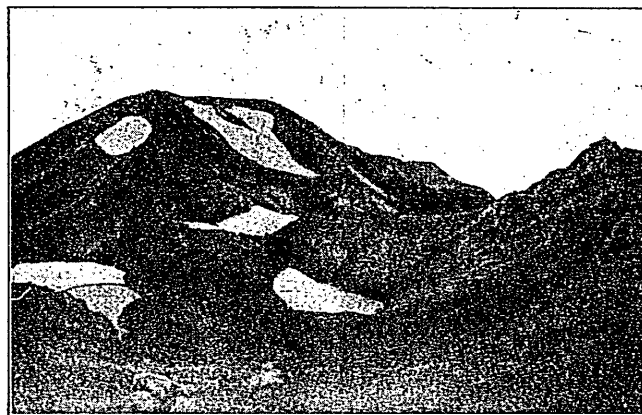
富士火山脈南北斷面圖



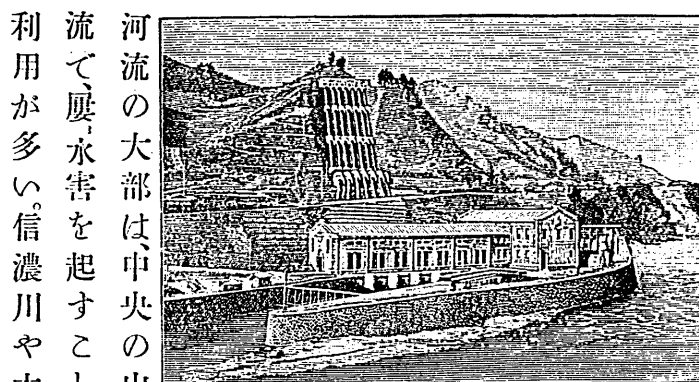
太平洋斜面。桂。富士。安倍。大井。天龍。豐。矢作。木曾。諸川。日本海斜而。九頭龍。日野。手取。犀。射水。神通。常願寺。黑部。姫。荒。信濃。阿賀。三而諸川。



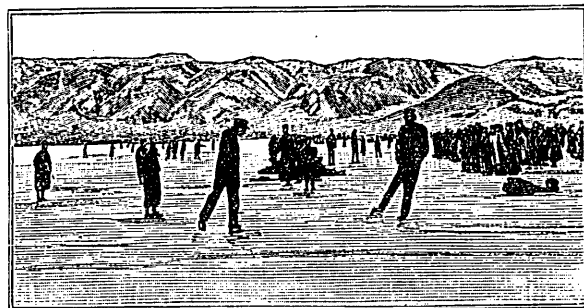
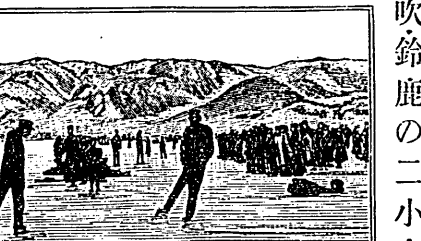
山 立



山 白



脈と、東境に淺間山を起せる那須火山脈と、西境に伊吹鈴鹿の二小山脈とがある。かくて中央部には、信濃高原、濃飛高原、甲府盆地を形成し、土地は、これより四方に傾斜して、縁邊に、平野が開けてゐる。



長野縣に發する三  
大河と其の流域の  
都邑とを擧げなさ  
い。

× 温美・知多兩半  
鳥間に三河灣・温  
美灣に四入  
伊夏湖時は陸海軍  
の寶彈演習地  
荒海や佐渡に横た  
ふ天の川 芭蕉  
\* 高地は冷涼で避  
暑に適する  
△暖地に出稼ぐも  
のが多い  
何故日本海岸は冬  
季降雪が多いか

管轄 伊豆・大部・駿河・遠江  
△石廊崎御前崎間  
×間歇泉

## 第二節 處 誌

大な平野を開いて、殖産上の寶庫をなしてゐる。湖沼は、諏訪湖・濱名湖等が著はれ、富士の北麓には、風光明媚の諸湖を連ね、日本海岸には、特有の潟（湖澤）が多い。海岸は、日本海方面の能登半島・富山灣と、太平洋方面の伊豆半島・駿河灣とが、南北に相對する。若狹灣と伊勢海との間は、本州の最狹部をなしてゐる。島嶼は、日本海上の佐渡島のみが著しい。

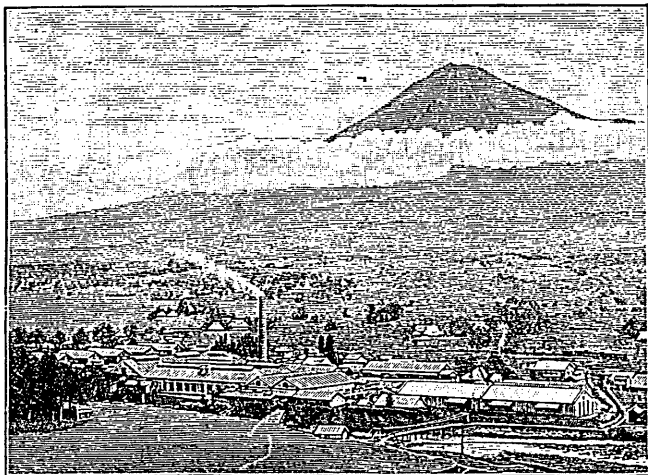
**氣候** 南部は溫暖・適雨、中部は夏熱・冬寒である。北部の冬季は、深雪が、住民の活動を妨げるが、溫度は、同緯度の南海岸に比して大差はない。

静岡縣 相模灣・駿河灣間の伊豆半島には、富士火山脈が通じて、天城山が峙ち、熱海修善寺・伊東等の温泉が多く、南端に

\* 山頂に官幣大社  
浅間神社の奥宮が  
ある最高峯は剋峯  
富士山を中心とし  
た略圖を描きなさい

圖解 富士山と  
其の山麓の富士  
製紙工場

はれて候又曇り候  
富士日記 其角



は、史上に名高い下田港がある。東北境の富士山は、直立三千七百七十八米、實に世界の名山、缺尖圓錐形の好模型である。

富士登山　中央線の大月驛より吉田に着し、其の翌朝富士を仰ぎつゝ、其の裾野をたどれり。一合目より五合目に至るまでは、木立にして雲霧に鎖されしが、下山者は、山上の快晴を告げたり、八合目に宿りしに、旅宿は、木骨石皮にして、簷を敷けり。同宿者は、共に中央の爐を圍みて、談笑恰も兄弟の如し。早朝、戸を排せ

里はまだ夜は深し  
富士の朝日かけ  
江川坦庵

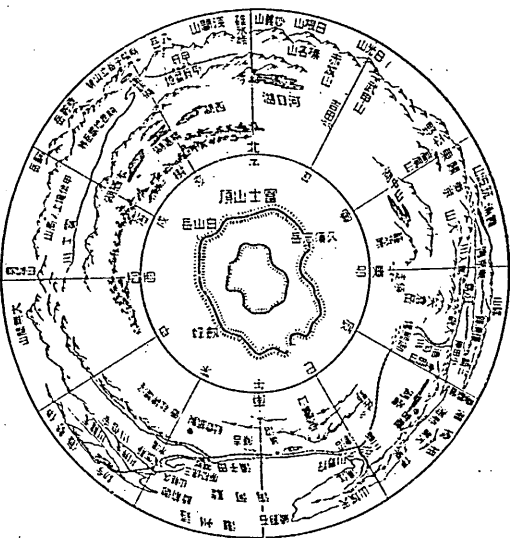
● 圖解 富士山上  
の眺望區域（野  
中氏による）

● 動力には富士の  
伏流を利用する  
△ 何れも發電に利  
用される  
○ 急流は何に利用せ  
られるか  
● 富士登山口 御  
殿場須走 須山・  
大宮 吉田（山梨）

ば、東天既に淡紅を呈し、更に深紅と  
化し、朝暾漸く昇るも寂として群峰  
の眠未だ醒めず。  
げにや富士山頂に立てば、半径二四  
〇杆の視域内に、千山萬水を收めて  
雄心勃勃たり。時に雲雨襲ひ來り  
し故、急ぎて砂走に出て、金剛杖もて  
飛鳥の如くに下り、御殿場に達せし  
に、此の地は天氣快晴なりき。

富士の裾野は、三極の栽培に  
よく、又西南の大宮附近（富士製紙所）などは、西洋紙の産出が多い。  
富士大井天龍は、本縣の三大川なれど、惜しいかな、急流にして水運に乏しい。

東海道線上の小山は綿紡績地、御殿場は避暑と富士登山と



● 線上に韭山があ  
る

△ 機業 粟葉柿・奈  
元御用邸がある

\* 茶の輸出多き開  
港て豆油を製造す  
る

● 圖解 清水の茶  
産出し

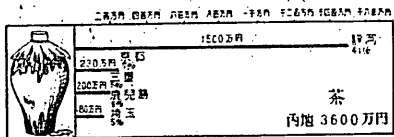
\* 漆器・竹細工・山  
葵漬を名産とし、東  
南に東照宮を祀れ  
る久能山がある  
駿河湾沿岸の略圖  
を描き主要郡邑を  
記入しなさい  
何故駿河湾岸に保  
登地が發達したか  
\* 湖東に飛行場、湖  
口に辨天島がある

○ 北方の三方ヶ原  
は今も殆ど茶園・  
果樹園となつた



駿河路や花桶も茶の匂ひ 芭蕉

濱松市（商工）は樂器・帽子・織物（遠州太物）を産し、鐵道工  
場などがあつて、縣下一の工業地である。



管轄 甲斐

●長さ三哩汽車通  
過八分  
△取引中心谷村  
本縣には甲府市の  
外人口一萬以上の  
市邑がない

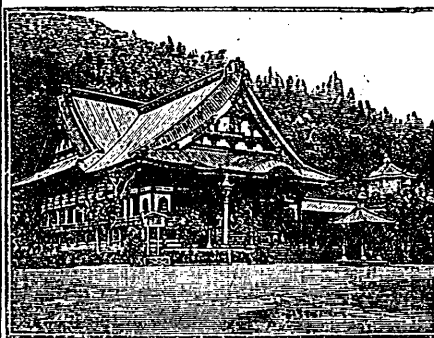
圖解 身延山久  
遠寺(次頁参照)

富士の麓の各地に  
は夏期キアムビン  
グをなす者が多い  
×馬入川の上流

圖解 山梨縣の  
御獄(次頁参照)  
と猿橋

山梨縣 四周は悉く山地で所謂峽の名にそむかない。域内は笹子峠(前後に十有餘)によつて、甲斐絹(絹)を産する郡内と、甲府盆地とに分れる。

富士の北麓には、風光のよい湖沼(山中湖、西精湖)が多く、山中湖から出る桂川は、猿橋の奇勝をなし、又發電に利用せられて、山野四十軒の架空線により、水力電



圖解 鰍澤

圖解 勝沼の葡萄園

×日蓮宗の總本山  
久遠寺のある處

\*葡萄酒・印傳細工・水晶細工を産し東北金峯山麓(富士支流時)の御嶽に昇仙峽増富にラヂウム泉がある  
△東方の天目山は武田氏最期の地

氣を東京市に供給する。

富士川は、

甲府盆地

の諸水を

集め、身延

山の東を

南流して、

駿河灣に注ぐ。河畔の鰍澤は、富士川下りの起點である。

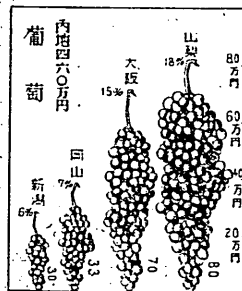
甲府市(縣廳所在地)は、甲府盆地唯一の

中心で、生絲の産が多い。東方の勝沼附近は、所謂甲州葡萄の

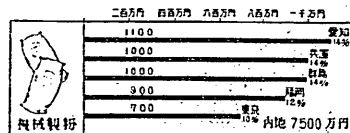
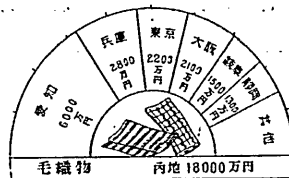


管轄三河、  
一萬以上の都邑三  
〇を超え一縣にし  
て奥羽地方のそれ  
に匹敵する

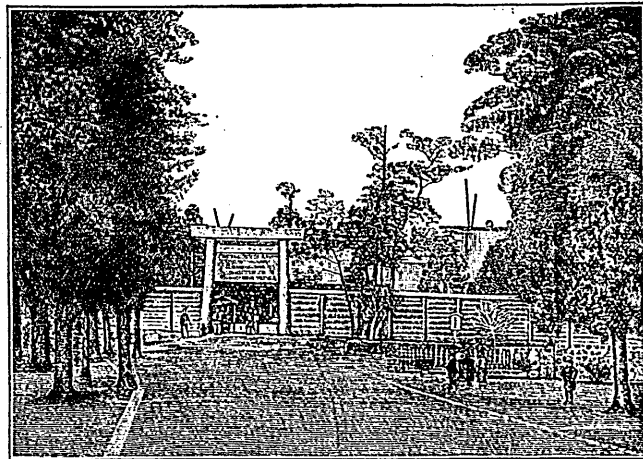
圖解 熱田神宮  
(次頁参照)



製絲・機業が榮え、以  
平野に屬して、農・工  
商の活  
潑な地  
方、米  
麥・菜種  
蔬菜・綿  
毛紡織



産地として名高い。



＊北方に豊川稻  
荷・鳳来寺山(塊狀  
火山)・長篠がある  
△附近に花崗岩の  
石村産地  
＊機業地で彌富に  
尾西線を通ずる

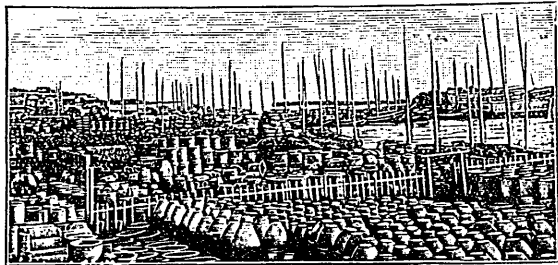
圖解 名古屋城  
と其の隣村  
圖解 常滑焼  
(次頁参照)

●清酒・麥酒  
＊東海道線・關西  
線中央線の會點  
東京まで鐵路三三  
哩京都まで六哩徳  
川親藩の舊城地  
舊城内に師團司令  
部あり天主閣に金  
鏡輝き本丸に離宮  
がある



に位し、生産力大なる濃尾平野を控へ、帝國

品陶器を産する。  
豊川下流の豊橋市は、製絲業が盛で、矢  
作川中流の岡崎市は、生絲綿絲の産地  
である。東海道線は、  
豊橋岡崎名古屋一宮  
の四市等を経て岐阜  
縣に入る。其の中途  
大府から、知多半島東  
岸の開港武豊に至る  
鐵道は、醸造地の龜崎  
半田を過ぎる。名古屋  
屋市廻りは、東西兩京間









管轄 信濃

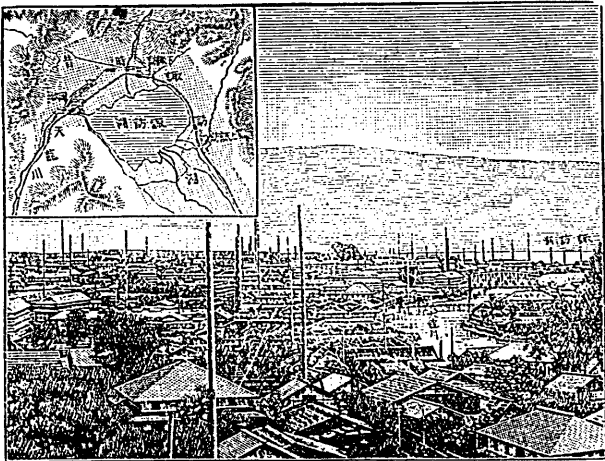
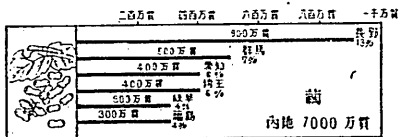
\*上高地・白骨温泉が著はる日本アルプスの高峯は何々か

\*信玄、鎌信の激戦地

圖解 岡谷と其の附近

圖解 上田の南

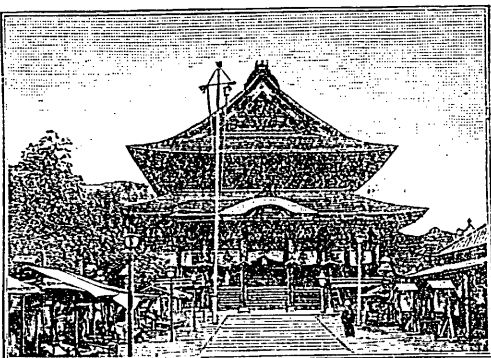
長野縣 本州の略中央にあつて、八縣十國と界する高原性(概ね三百)の大縣で、縣境には、日本アルプスの諸山(穂高、大天、井、等)や、妙高、淺間、八ヶ岳、赤石等の高山が聳えてゐる。犀、千曲の二川は、川中島に會して北流し、



△島居、彌尻、和田三峠を通する一線は北信南信の分界  
\*諏訪平・松本平・善光寺平・佐久平  
圖解 夏季の輕井澤(外人が多い(次頁参照))  
何故長野縣に紅葉が發達したるか

圖解 善光寺次頁参照  
諏訪盆地中心(佐久平)中心(上田)松本平中心(松本)大町と共に日本アルプスの登山口\*袖・肥料を集散し、森林専門校あり

天龍、木曾の二川は、木曾山脈(駒山、惠)を挟みて南流するので、地勢上、本縣は、自ら二つの谷と四つの平野とに分れ、概ね氣候乾燥(適する)、氣溫低少(避暑水滑)である。地味農桑に適して、繭生絲、蠶卵紙の産額が、帝國一である。木曾川と中央線とは、木曾山中の檜材を運搬し、諏訪湖は、日本第一の製絲地岡谷を控へて、製氷、氷滑で名高い。犀河畔の松本市と、千曲河畔の上田市とは、繭蠶卵紙の市場で、生



松代は佐久間象山の生地

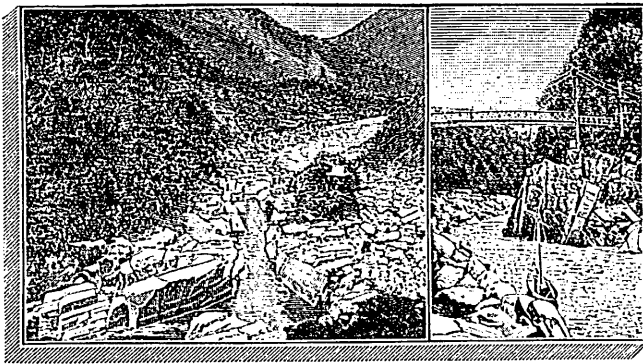
▲篠井線を中央本線の鹽尻に通じ運輸事務所・鐵道工場がある善光寺参詣の乗降客が多い長野縣の自然は如何に人文に影響して居るか

圖解 天龍峽と輕井庄

管轄 佐渡

△別に新津油田・頸城油田がある  
\*土砂堆積し又風浪を避け難い無線電信局がある  
\*佐渡は鵜を産し名邑相川は金坑を控へて無名異境を産す

絲をも産する。信越線は、淺間山を右手にし、輕井澤(縣署)・上田・篠井・長野を経て新潟縣に入る。善光寺平の長野市(縣署・善光寺)は、交通の要地である。飯田(元・給永引)は伊那谷・福島(馬場)は木曾谷の中心で、それより南方に天龍峽・寢覺床の勝地を控へてゐる。新潟縣 阿賀・信濃の二川は、南部の山地を突破して、越後平野を開く。平野の越後米と、中部地方の石油とは、産額が多く、機業(羽二重)も盛である。信濃川口の開港新潟市(縣署・高橋所)は、鐵工業地で、米・石油の取引多く、佐渡の開港夷を補助港とす

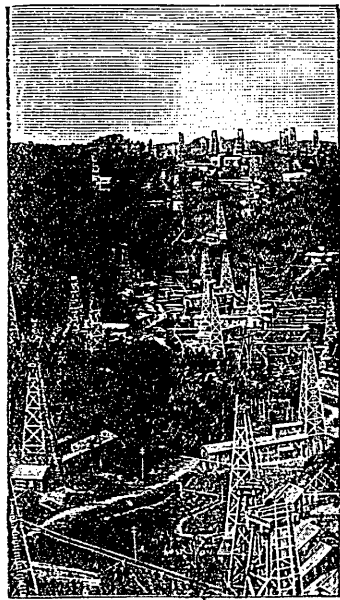
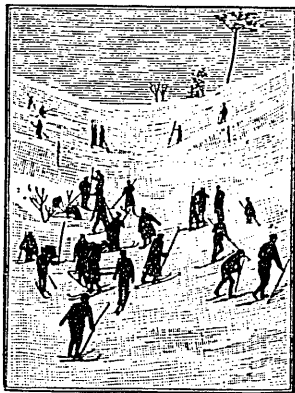


綫物・板紙を産し新發田と共に米の圖解 油井の高橋

取引地此の地方で上越北線・魚沼線・栃尾鐵道・長岡鐵道分岐し信濃川の汽船長岡・新潟間を通ずる  
加茂・五泉は機業地  
三條は羽物産地

圖解 スキー(次頁参照)  
羽越線上の村上は産地

る。交通の要地なる新津は、豊富なる油田を控へて、將來有望である。東山油田を控ふる長岡市は、水陸の便もよく、西山油田を控ふる柏崎と共に、中部の商業地である。



る。其の南の小千谷・十日町(以上越後)は、機業地として知らる。新潟に起る信越線は、新津で羽越線磐越線・長岡附近で上越北線・柏崎で越後鐵道・直江津で北陸線と相會する。北陸線は、親不知の崖岸を経て

△郊外の春日山は  
上杉謙信の舊城址  
管轄 越中

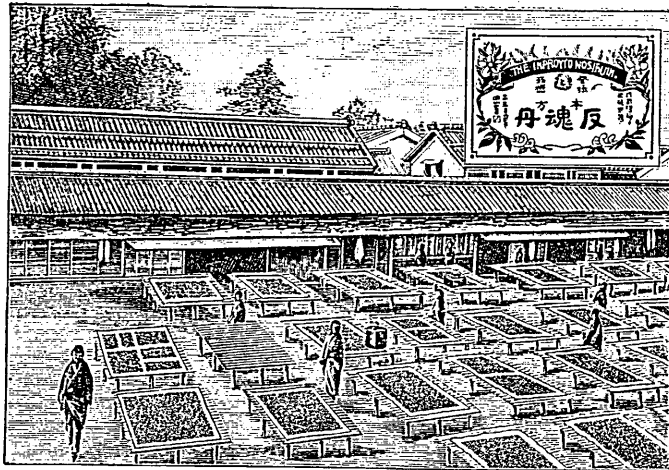
×峡谷に三奇橋の  
一の愛本橋がある  
新湊・水見・滑川は  
漁港  
富山は羽二重綾人  
造ラミー紡績が盛  
である  
富山・高岡二市の  
特色を述べなさい

●漁場で、辰氣楼・  
榮島殿が名高い  
△源平の古戦場  
管轄 能登・加賀  
×指先に緑明湖・  
珠洲湖がある

富山縣に入る。直江津は、上越北信に關する貨物の集散地  
で、<sup>△</sup>高田市は、深雪とスキーとで名高い。  
富山縣 三方に山を繞らし、殊に東部の日本アルプス中に  
は、雄大なる立山・劍嶽・大蓮華山・白馬嶽などの高山・峻嶽が屹  
立してゐる。

庄(本)神通常願寺・黒部の四大川は、越中米産地の越中平野を  
潤して富山灣に注ぐ。何れも急流で永害を起し易い。製藥  
地の富山市(縣廳所在地)は、神通川に跨り、縣の中樞地で、其の賣  
藥行商は、支那・南洋にまで及んでゐる。庄川下流の高岡市  
(高岡)は開港伏木(中米紙の産地、越中米積出港)を控へて、綿絲・銅器・新毛・斯友禪を  
産し、水陸交通の要地である。北陸線は、魚津・富山・高岡を經  
て、俱利伽羅峠の隧道に入る。

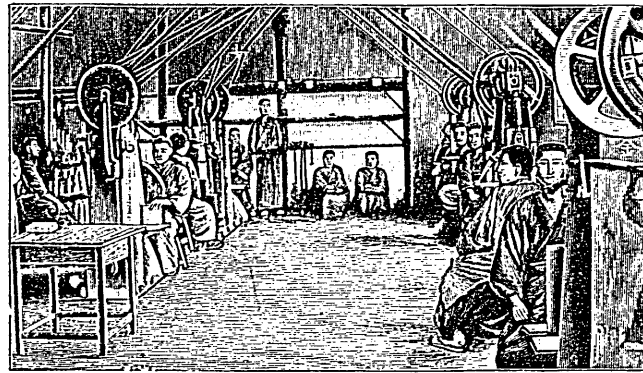
石川縣 南境の山地には、名高い白山がある。手首形の能



富山の製藥工場



第六公園



金澤の金工場



金の九谷焼工場

何故能登半島は發達が遅いか

○山代・山中(漆器産地・栗津の温泉もある)  
△會點は津幡

○安宅關址に近い

圖解 礪波神社と永平寺

\*金銀箔・漆器・銅器・通網・硬質陶器を産し、樺太・四萬・高工・無線電信局・鐵道工場がある  
金澤市の位置及び其の發達したる所以を述べなさい

管轄 若狹・越前

登半島(山代に類同)は、佐渡を招くが如く見える。手甲の輪島は、堅牢なる輪島塗を産し、掌中の開港七尾は、日本海の要津で、和倉温泉に近い。北陸線は、七尾線と相會し、

湯の多い海岸を西南して福井縣に入る。線上の金澤・小松・大聖寺は、何れも羽二重九谷焼の産地である。

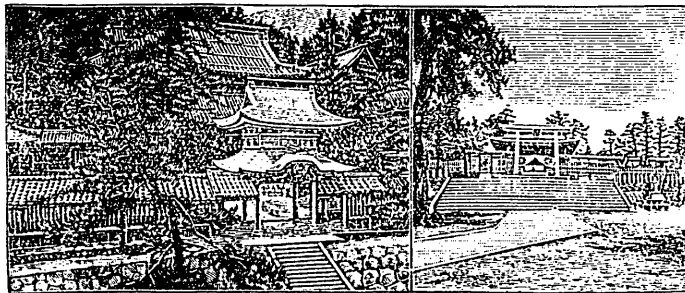
金澤市(縣廳・第九師團司令部)は、前田侯百萬石の

舊城下、裏日本の最大都、北陸文化の一中

心地である。金石を外港とし、米の取引が盛である。

福井縣

若狹は、出入の多い若狹灣を控へ、鯛・鰯と、小濱附近の若狹塗とを名産と



\* 川口の三國は米の積出港で附近に東家坊の寄勝がある

△ 曹洞宗の大本山

\* 北陸小濱二報の合點金時宮・氣比神宮がある

圖解 茶摘 (次頁参照)

する。

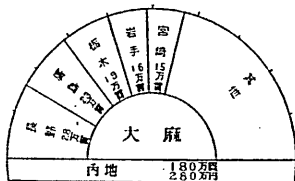
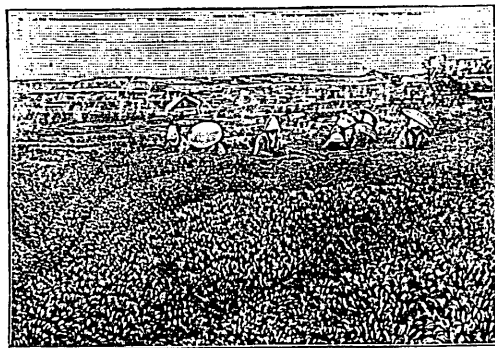
九頭龍川の本流と支流との開ける越前平野の福井附近と、山地にある大野とは、羽二重を産し、武生は、紙紮・紙蚊帳を産する。

福井市(縣廳・高工・藤島神社所在)は、足羽川に跨り、商工が盛大で、其の東方に、有名なる永平寺がある。

\* 敦賀は、日本海岸屈指の開港で、又浦鹽斯德に定期船(時四二)を通じて、大陸に到る北門である。

### 第三節 人文誌

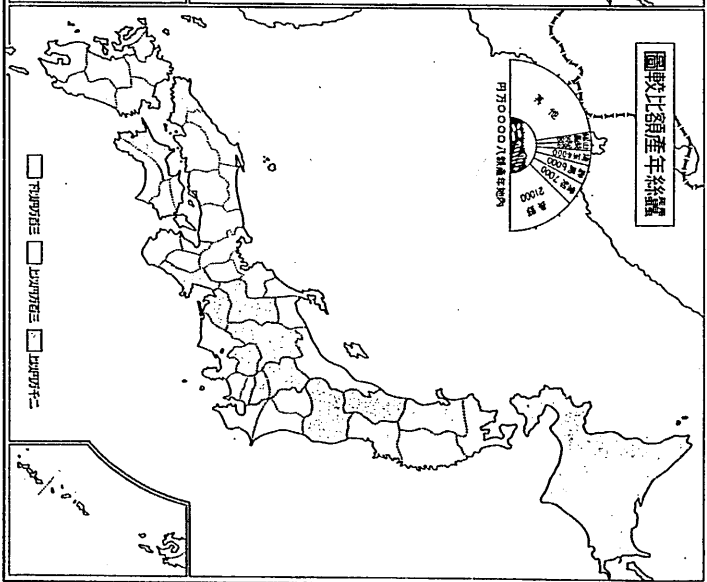
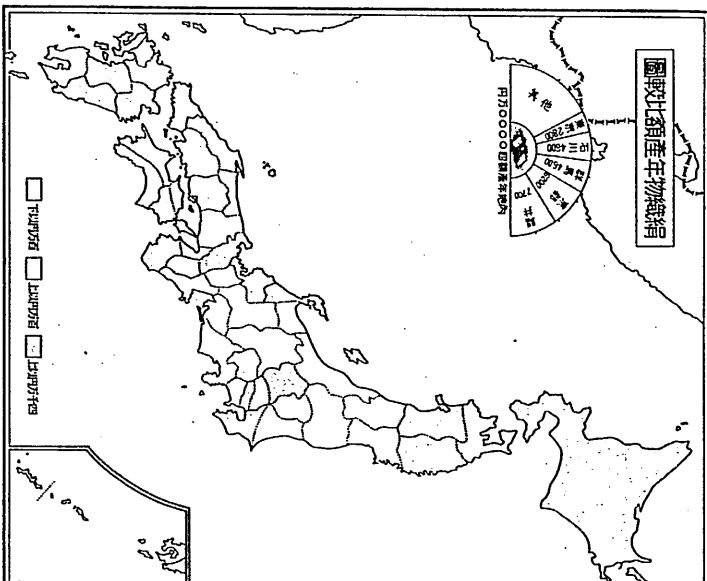
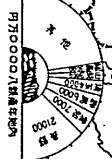
産業 農産は、越後・越中・濃



圖解 比叡産年終總額



圖解 比叡産年終總額

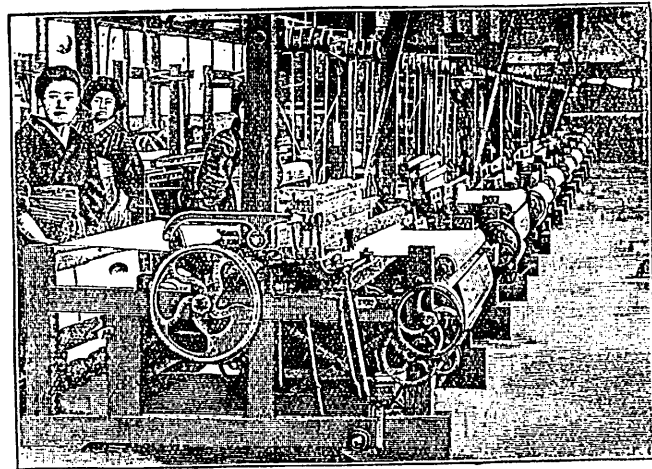


\*蜜柑・梨・桃・枇杷・柿  
木曾の名木椿にさはられずにあすひにけずにあすひにかうや横 但 諸  
富山縣にも多い  
濱名湖の鯉長良川  
の鮎根後諸川の鮎  
も著はる

下關解 羽二重  
織工場内  
上關解 製絲工  
場内

○其の他尾小屋・久根の銅神岡の銀・鈴・亞鉛金・紫山の水産  
本州中部の米・羽二重・漆器・紙金の重要産地を擧げなさい

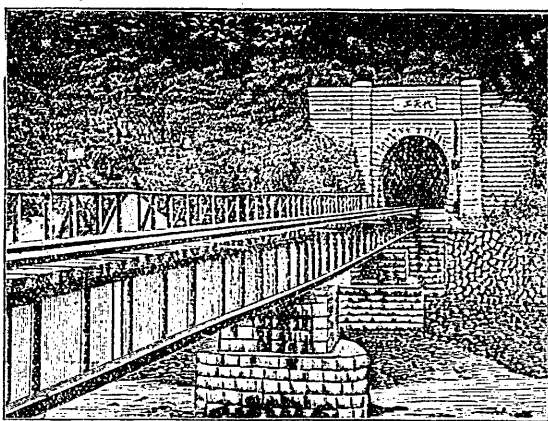
尾三平野等の米、静岡縣の茶果實、長野の大麻、長野・愛知・山梨三縣の繭、生絲を主とし、木曾、天城の木材、駿（機津）豆の水産等も著しく、新潟縣の石油、石と油、金、北陸縣の絹織



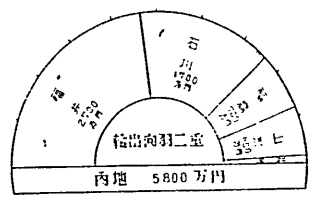
△岐阜石川二縣にも産する  
静岡・岐阜・福井三縣は製紙が盛  
長野縣には寒天製  
造が多い  
本州中部の開港場  
を縣別に擧げなさ  
い

圖解 笹子隧道

奥羽・北陸に於ける日本海岸の重要諸港を擧げなさい



物、愛知縣の綿織物、陶磁器、静岡・石川二縣の漆器は、屈指の産物である。  
商業は、名古屋附近が最盛で、其の港



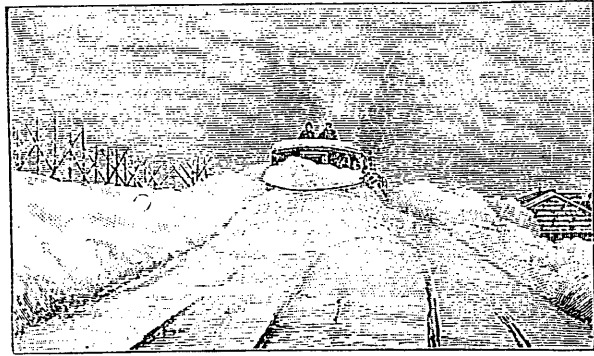
|    |          |
|----|----------|
| 内産 | 5,800 万円 |
| 輸入 | 230      |
| 輸出 | 422      |
| 消費 | 150      |
| 貯蓄 | 272      |

は、清水・武  
豊・敦賀・七  
尾・伏木・新  
潟・夷と共に開港である。  
交通 略、中央高地の周邊を繞れる東海道・信越・北陸の三線と、中部の高地を通じ、笹子峠等の隧道を有する中央線と、これ等と連絡する諸線とがあつて、各地の交通は、概ね便利であるが、北面の積雪と

名古屋附近は京濱・阪神・北九州地方と共に四大商工業地帯である

圖解 排雪車

何故近畿地方は有名な地域なるか



風浪とは、大に水陸の交通を妨げる。  
日本海岸の港は、多く河口にあるが、良港が乏しい。  
都邑 産業の繁榮に伴つて、都邑も相當に發達してゐるが、大都會は、名古屋のみで、これに次ぐのは金澤・新潟・濱松・静岡である。

第四章 近畿地方

第一節 地文誌

地域 本地方は、もと帝國の中樞文化の中心であつた畿内と、其の隣接地とを含んで、行政上、二府五縣に分れ、各府縣とも、面積の狭小、人口稠密の點が、よく關



圖解 明石市の  
 中央標準時子午  
 線通過地離標  
 圖解 近畿地方  
 地勢圖  
 別に淡路島の地盤  
 山脈がある  
 伊吹山は日本武尊  
 の功績地藥草多く  
 高層觀測所ありス  
 キーが行はれる

近畿地方

別に淡路島の地盤

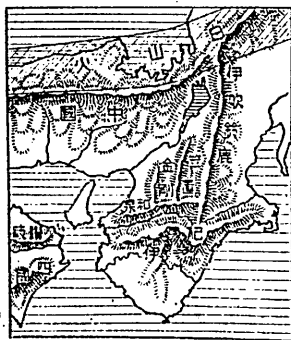
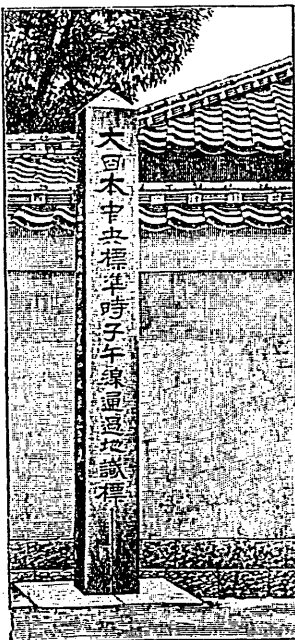
山脈がある  
伊吹山は日本武蔵

功績地藥草多く

高層觀測所ありス  
キーが行はれる

地勢

東西に亘れる北部の中國山脈(北支那、蒙古、大連、鞍山、遼陽、白山火山



東地方に似て

| 西暦<br>四三九六<br>方里 | 一<br>方<br>里<br>の<br>人<br>口<br>比<br>較 |        | 全<br>國           |
|------------------|--------------------------------------|--------|------------------|
|                  | ●                                    | ○      |                  |
| 一四九六             | ●●                                   | ●●     | 内<br>地           |
| 二二三七             | ●●●●                                 | ●●●●   | 近<br>畿<br>地<br>方 |
| 二六二              | ●●●●                                 | ●●●●   | 滋<br>賀           |
| 二九六              | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 京<br>都           |
| 二四二              | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 奈<br>良           |
| 三三七〇             | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 三<br>重           |
| 三〇七              | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 和<br>歌<br>山      |
| 一一一五             | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 大<br>阪           |
| 五四六              | ●●●●●●                               | ●●●●●● | 兵<br>庫           |

みて、共に、我が帝國の最も有力なる地域である。本地方の明石市は、中央標準時となれる東經百卅五度の子午線が通過してゐる。

[illegible]

× 近江・大和・山城  
(外に伊賀盆地)

圖解 紀伊山脈  
斷面圖

伊勢・大阪・播磨

近畿地方の平野

い (全北) を見つけた

日本郵政省

圖解 琵琶湖の水量を調節する

洗堰

× 大阪港の土砂堆

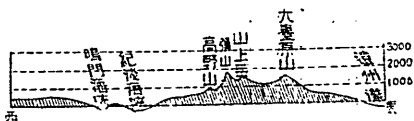
積や氾濫を防ぐた

施し長柄より新淀

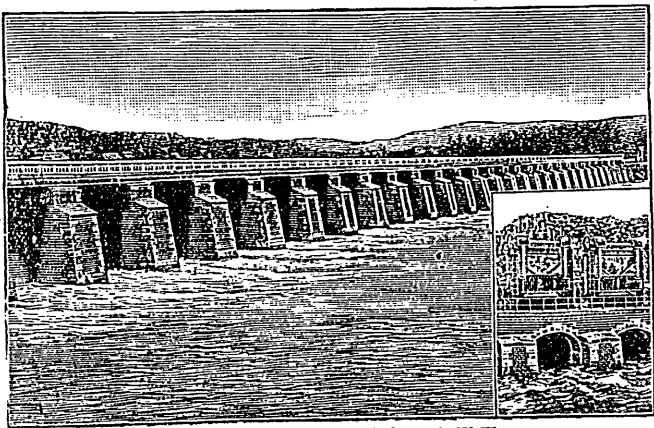
川を開墾した

す影響を述べなさ

い



脈と、南部の紀伊和泉の  
 笠置・金剛（生駒信貴城金剛）の四小  
 山脈が、略南北に走つて、  
 其の間に、三つの盆地と  
 平野とが、散在してゐる。  
 河流は縦横に流れてゐ  
 るが、水利に富めるは、水  
 産と風光とを備ふる琵琶  
 湖と、淀川の本支流とのみであ  
 る。海岸は、日本海に與謝半島（經時）  
 が斗出して、舞鶴・宮津の二小灣を  
 抱いてゐる。太平洋面には、紀伊  
 半島の外に、熊野灘と伊勢海とを



堰洗るす節調を量水の湖琵琶

紀伊・志摩半島  
と三陸の東岸とを  
比較しなさい

管轄 近江

\*竹生島がある  
\*瀬川夕照・栗津  
晴嵐・矢走崎・唐  
崎夜雨・堅田落雁・  
石山秋月・三井晚  
鐘・比良雲雪  
東部山地の森林・  
砂防工事を見事て  
ある

分てる志摩半島(大正時)がある。兩半島とも、其の海岸の地形や  
産業の狀態が、三陸地方の東岸に酷似してゐる。西面は、大  
阪灣と播磨灘とに沿ひて、其の海岸には、名勝地と漁鹽地と  
が多い。

氣候 南部は高温多雨で、北部は冬季に雨雪が多い。中部  
は、瀬戸内海海岸地方のみが溫和寡雨で、其の他の地は、寒暑  
の差が稍著しい。

第二節 處誌

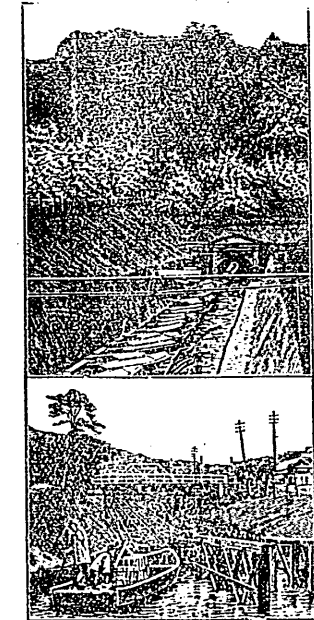
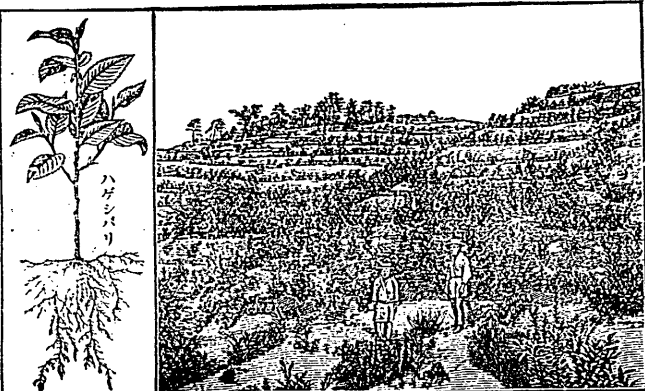
滋賀縣 山地四周し、其の中央には、帝國最大の琵琶湖を湛  
へて、湖畔の平野には、江州米・繭・茶・菜種等を産する。琵琶湖  
は、周回二五〇粍、砂防工事を發達せしめた多くの急流を容  
れ、名高い近江八景を控へて、廻遊汽船さへ備はり、舟運・灌漑・

琵琶湖に注ぐ川及  
び其の吐口を記し  
なさい

△日野と共に近江  
商人の郷土で近江  
蚊帳の産地  
湖東に近江富士  
(三土山)と安土城  
址とがある  
琵琶湖の人文に及  
ぼす影響を述べな  
さい

圖解 砂防工事  
とそれに用ゐる  
ハゲシバリ(前  
頁参照)

圖解 疏水の入  
口と出口(次頁  
参照)



水産の利多く、湖水は、疏水と勢多川との二吐口によつて排  
水せられ、末は大阪灣に注ぐ。  
北陸線は、賤岳の附近を過ぎ、濱縮・細  
で名高い長濱を経て米原に終る。  
之に接續する東海道線は、彦根(高瀬)  
八幡草津(以上鐵道)と大津とを経て京  
都に入る。

\*一名岡城寺  
湖西の青柳に藤樹  
寺院がある

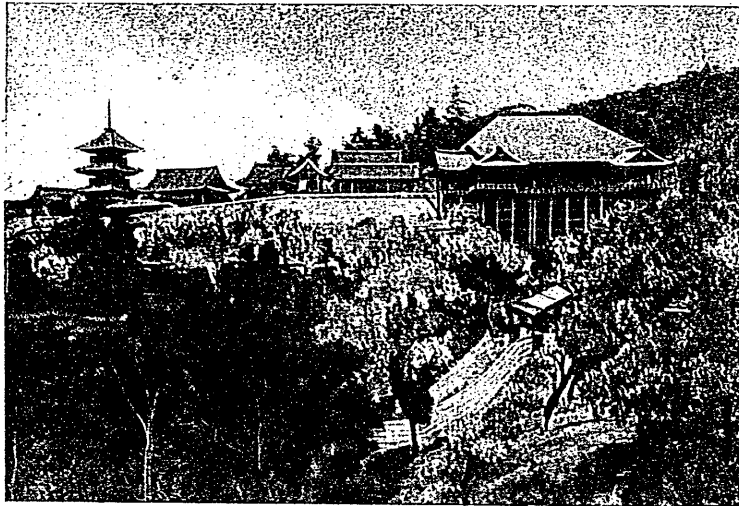
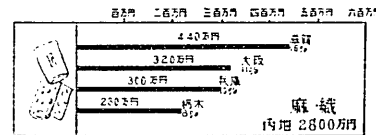
管轄 山城・丹波  
大部・丹後

舞鶴に無線電信局  
がある

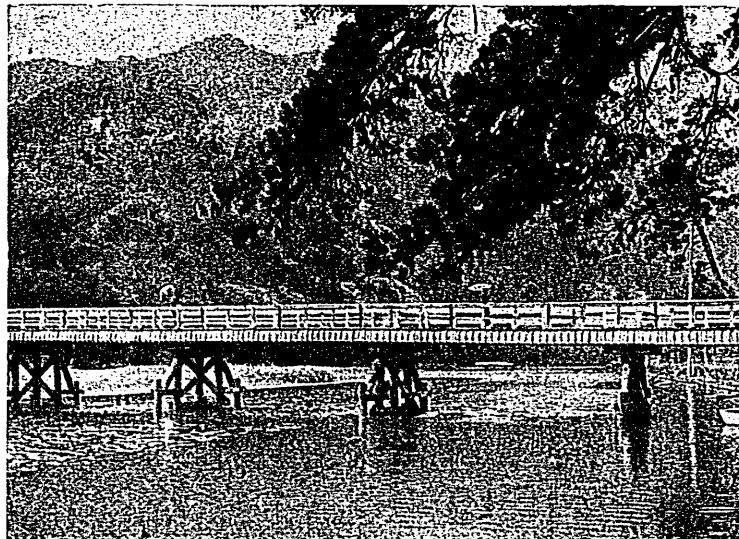
\*砂嘴の長さ約三  
軒で成相山から眺  
めるのが最もよく  
其の段眼鏡が面白  
い  
山河襟帯とは如何  
なることを云ふか

湖西の大津市(所轄在縣)は、製麻工場の所在地で、主要な湖港である。市の北部に起る疏水は、長等山ナガナガの隧道を過ぎて京都市に導かれ、水道發電などに利用せられて賀茂川に入る。長等山麓の三井寺と、比叡山上の延暦寺とは、天台宗の巨刹である。

京都府 由良川は養蠶業の盛なる兩丹諸盆地の水を集めて、日本海に注いでゐる。其の吐口の舞鶴灣附近は、要塞地帯で、舞鶴要港を控へ、西方の宮津灣には、白砂青松の天橋立と開港宮津とがある。與謝半島の峯山は、丹後縮緬の産地である。東南部は山河襟帯の山城盆地で、宇治賀茂桂(上流は川保)の三川と、笠置山附近を流れ来る木津川とは、相會して淀川となり、八幡山崎ヤマトの關門を突破して大阪灣に注ぐ。



寺 水 清



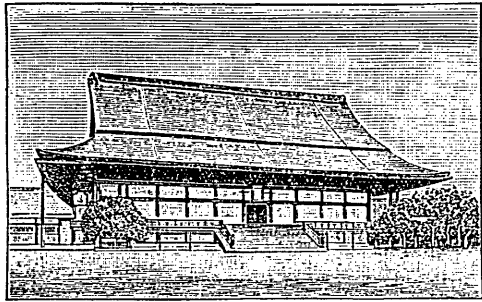
橋 月 渡 と 山 嵐

×淀川を隔てて京阪電車と並走する  
△下流を桂川、上流を大堀川といふ

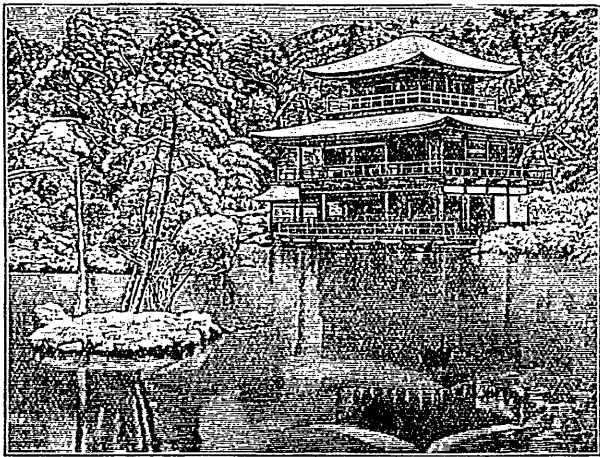
▲東京を距る五百五十軒 上京・下京の二區に分れ京都御所・二條及び修學院離宮・三十三間堂・平安神宮・豊國神社・圓山公園・  
圖解(上)紫宸殿  
(下)金閣寺

北野神社・嵐山・博物館がある  
學校：京大・三高・府立醫大・高等工務・同志社大學・大谷大學・他谷大學・立命館大學  
京都市の特色と史實とを述べなさい

東海道線は、淀川と並走し、京都に起る山陰線は、保津川岸を西北し、福知山にて福知山線綾部にて舞鶴線に會し、奈良線は、關西本支線に會する。



山城盆地の京都市(府廳京都府所在地)は、賀茂川に跨り、帝國第四の大都で、町筋正しく、一千餘年間の舊都、宗教・技術學術



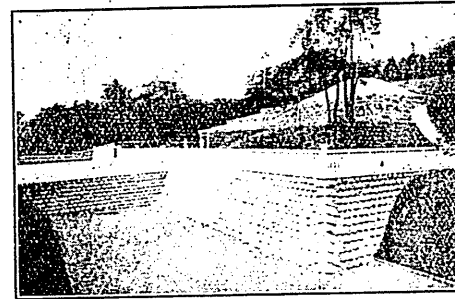
綾錦・金襴・綴子・縮緬等  
 \*尙ほ木竹類製品・綿糸・金屬製品・紙製品・糸物・袋物・扇子・團扇を産し、伏見と共に人形をも産する

圖解 刺繍と西陣織工場

圖解 桃山御陵  
 (次頁参照)

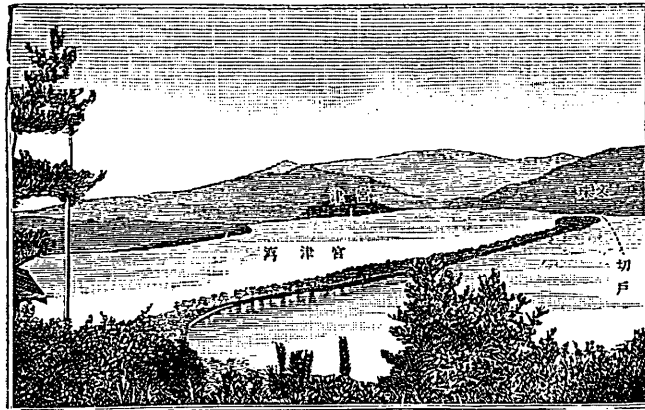
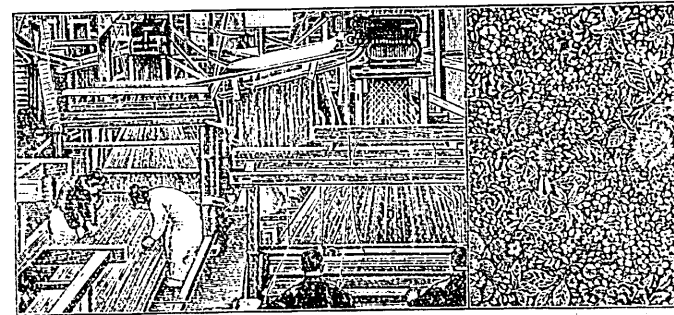
▲清酒の産が多い

交通政治軍事の大自然で、名所史蹟に富むこと、他に比類がない。西陣織・友禪染・被服類・刺繍・陶磁器(清水焼・京塗等)を産する。京都よりの略信 蒲團きて寝たる妻や東山(雲)其の

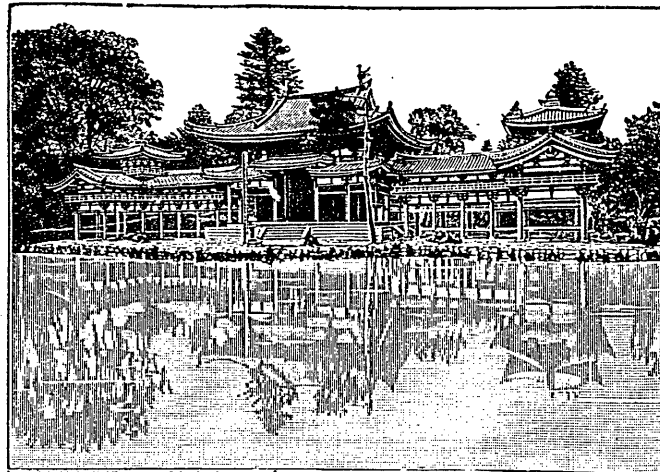


東山の麓即ち賀茂川以東には、泉涌寺・清水寺・祇園社・知恩院・銀閣寺などあり。又市の西北部にも、金閣寺等の社寺多く、賀茂川以西の市内には、本能寺・兩本願寺等あり。これ等は嵐山の櫻・高雄山の紅葉などと共に、諸國の人士を招く。

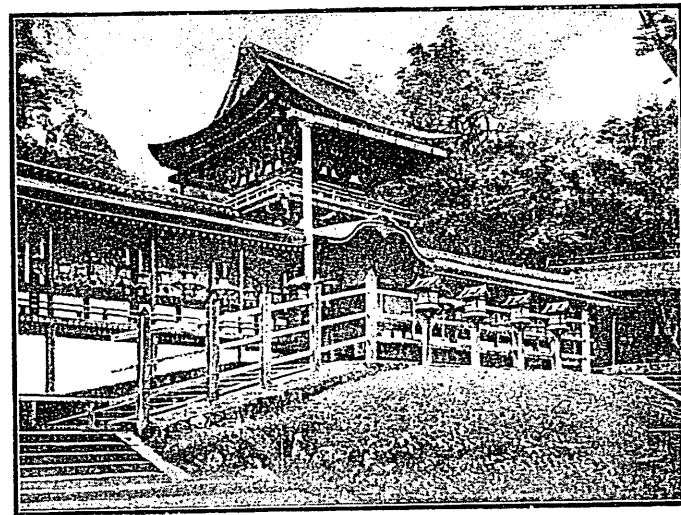
南隣の伏見は、淀川汽



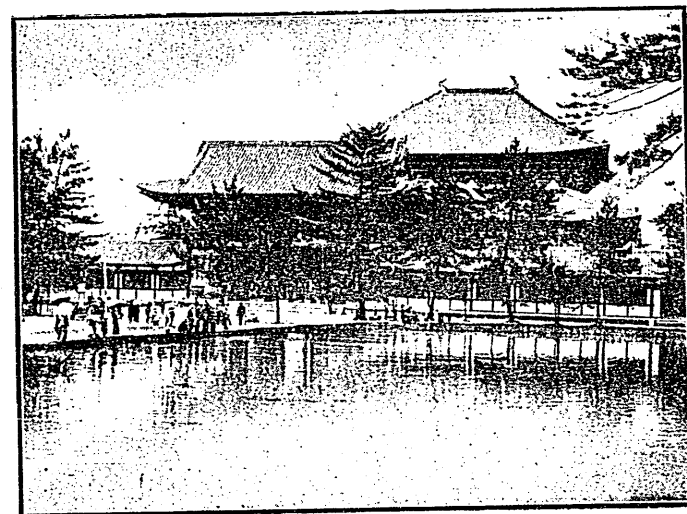
立橋天



空風鳳院等平の泊宇



社 神 日 春



殿 佛 大

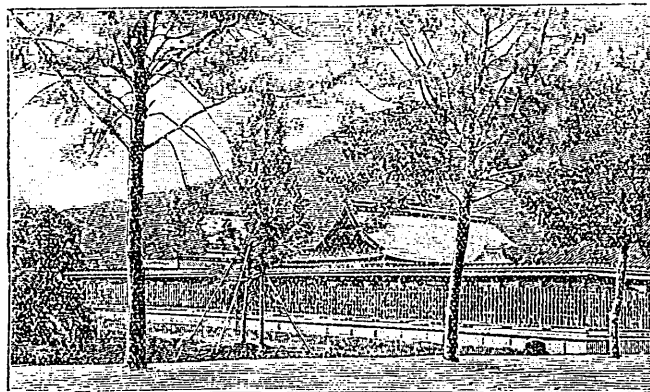
△平等院・宇治川  
古戦場  
宇治附近の史蹟に  
は如何なることが  
あつたか

管轄 大和

\*日本の最古木造  
建築物で聖徳太子  
建立

図解 橿原神宮  
と畝傍山

奈良名産 綿織  
物・犀・鹿・根来塗・  
鹿角細工・奈良人  
形・奈良漬  
\*春日神社・東大  
寺・正倉院・興福寺・  
嫩草山等此の地に  
帝室博物館・女高  
師がある  
△線上の高田附近  
は縮緬の産地



船の終點で、附近に工場多く、其の東に桃山御陵がある。螢

狩に名高い宇治附近は史蹟と玉露  
茶の産とが多い。木津は、三鐵道線  
(奈良・關西)の會點である。

奈良縣 大和川流域の大和盆地は、  
昔時、帝都であつた處が多いので、神  
武天皇を初め歴代の御陵や、橿原神  
宮・法隆寺等の社寺古蹟が多い。

奈良市(縣庭)は、七代の帝都の地で、史  
蹟頗る多く、遊覽地として發達して  
ゐる。關西線は、奈良郡山(綿織・金魚・法  
隆寺などを経て大阪府に入り、中途  
奈良にて櫻井線、王寺にて和歌山線

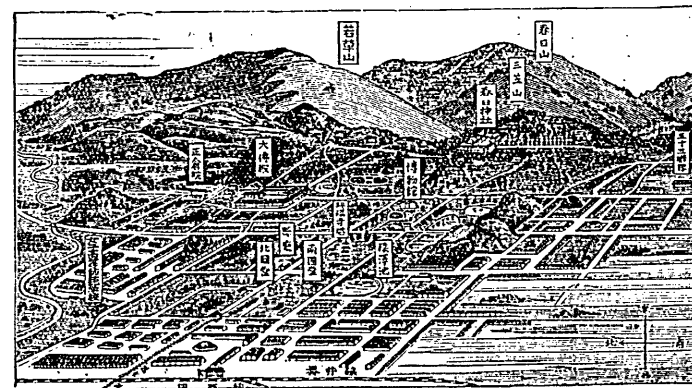
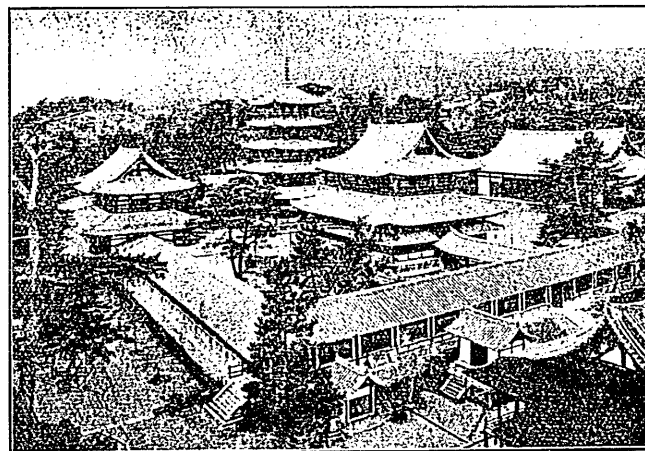


奈良大阪間の電鐵は長き生駒山の隧道を通じ山腹の寶山寺に鐵索鐵道を通ずる

上圖解 法隆寺  
下圖解 奈良鳥取岡  
(共に前頁參照)

談山神社は何人を祀れるか

を分つ。  
櫻井線  
上の櫻  
井附近  
は、綿紡  
織業地  
で、其の  
南方な  
る多武  
峯には、  
壯麗な  
る談山  
神社が

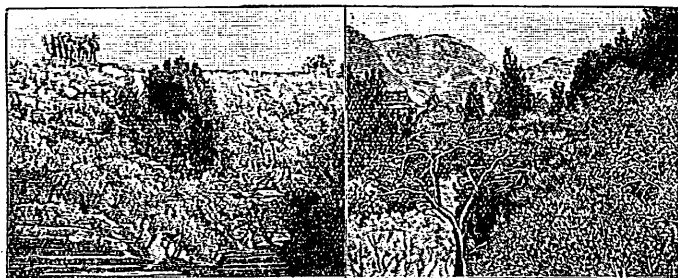


圖解 十津川の  
杉筏

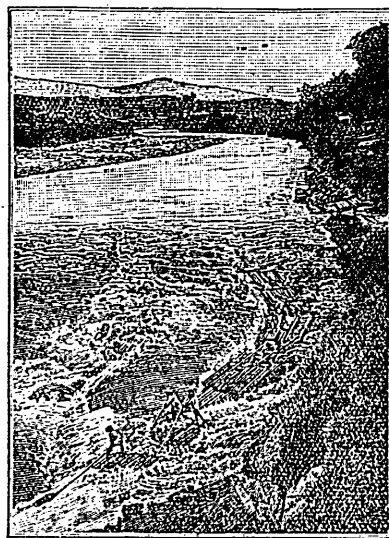
櫻井線附近田原本  
町は古より西瓜の  
多産地

圖解 月瀬の梅  
林と吉野の櫻  
(次頁參照)

\*此の一帶の山地  
は大和アルプスと  
も呼ばれる



|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 西 | 内 | 三 | 六 | 九 | 西 | 西 |
| 瓜 | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |
|   | 田 | 十 | 十 | 十 | 二 | 五 |



あつて、藤原鎌足の功績を偲ばせる。  
南部は、山上嶽・彌山・大臺原山等の名山が  
峙つて、土地が高く、林産殊に杉材に富み  
て、十津川(熊上流)・吉野川(和流)は、其の木材  
を運搬する筏流しが多い。





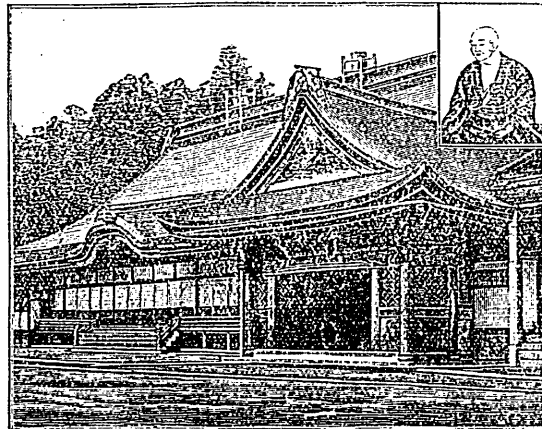
\* 瀑布多く俗に那智四十八淵といふ  
 瀨八丁と共に土地僻在するも年々観光客が増加する

熊野川の横谷を地圖により研究しなさい

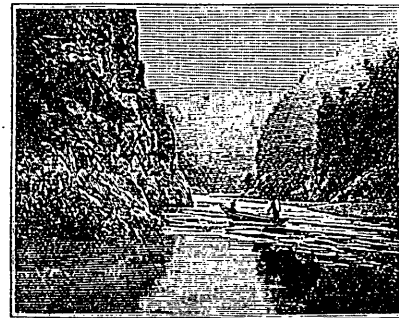
\* 山麓の橋本より大阪に南海鐵道高野線を通じ又登山鐵道もある

圖解 高野山金剛峯寺と其の開基者僧空海

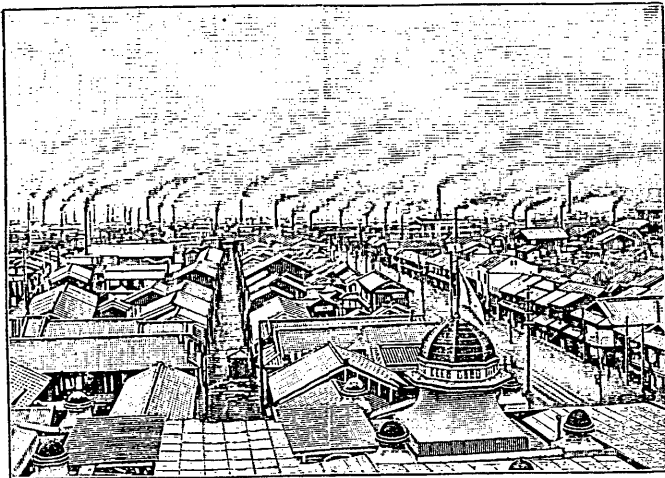
\* 徳川親藩の舊城下で指物・箱・樽をも産する  
 本縣は耕地の僅少と地勢上の關係等とて移民が多い  
 海岸に勝浦等を始め地方的小都邑がある



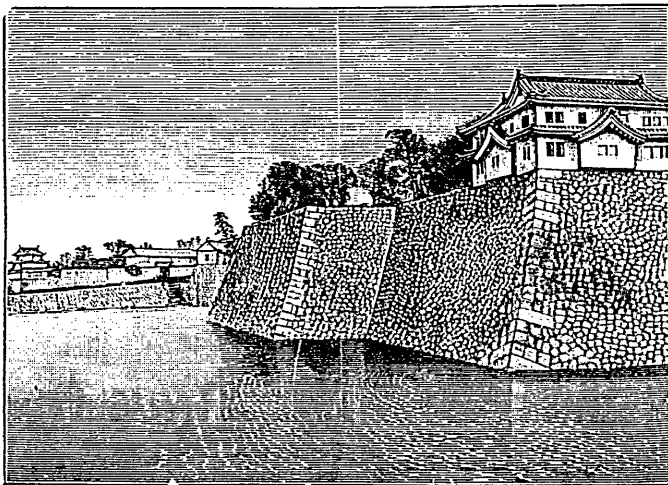
熊野川(北の合流)口の新宮は、熊野川下しの木材取引地で、那智山中には、壯大なる那智瀧、北山川の河道には、瀨八丁の深淵がある。



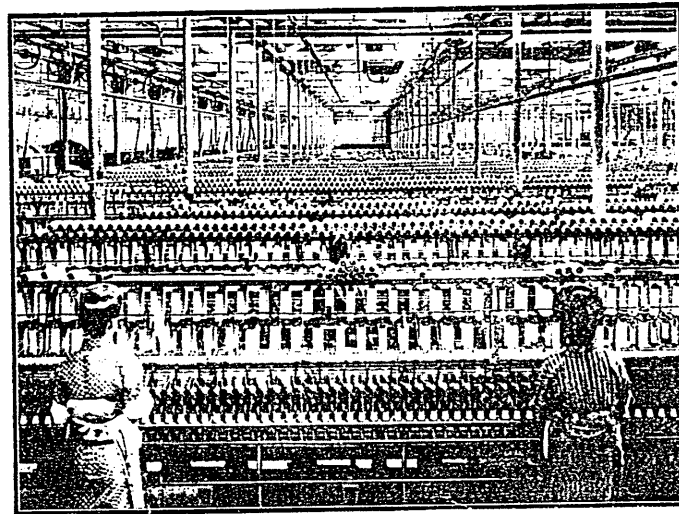
和歌山線は、運材の多い紀川に沿ひ、高野山を南にし、和歌山に至つて南海線と會する。  
 和歌山市(縣所在)は、紀川河口の商業地、勝地の和歌浦と漆器産地の黒江とに近く、木材・綿・ネルな



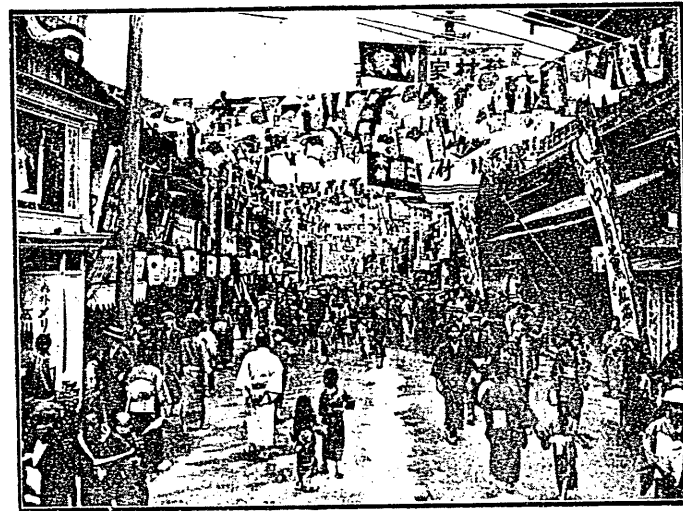
大阪の煙



大阪城



部内場工の社會紡洋京



堀須道るひ橋を閑静も最てに阪大

圖解 紀川の木綿  
綿晒しと和歌浦

管轄 河内、和泉、  
攝津東半部  
面積に比して耕地  
の廣いこと全國無  
比で平均五方軒に  
水田一町歩

楠氏の遺蹟地を述  
べなさい

×木綿・タオル・電  
車及び名産の製  
物・段通

どの市場で、莫  
大小綿絲の産  
も多い。

大阪府 小船  
形をして、卵形

の大阪灣を控

へ、三方の低き山地以外は、大

和川・淀川等の潤す大阪平野

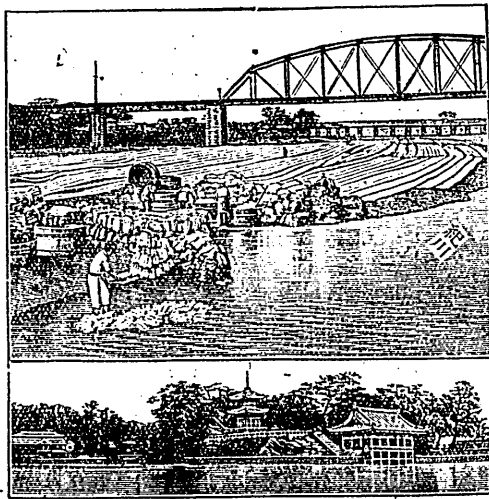
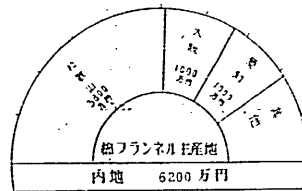
で、交通至便、産業よく發達し、

人口も頗る稠密である。東南境の金剛山は、四條畷・櫻井と

共に、楠氏の遺蹟地、池田は、清酒・薪炭の市場である。南海線

上の堺市は、足袋・綿絲・セルロイド等を産し、新進の岸和田市

は、綿紡織が盛で、マニラロープの生産も多い。



大阪市の十三區  
東・西・南・北・此花  
天王寺・港・浪速・西  
淀川・東淀川・東成・  
西成・住吉  
大阪市と東京市と  
を比較しなさい

\* 醫大・高等學校・  
高工・高商・外語  
市北の吹田は麥酒  
の産地

管轄 攝津・西・半部  
丹波・小部  
但馬・播磨・  
淡路

△ 排保川・千種川

\* 要塞地帯

圖解 伊丹の酒  
荷造り

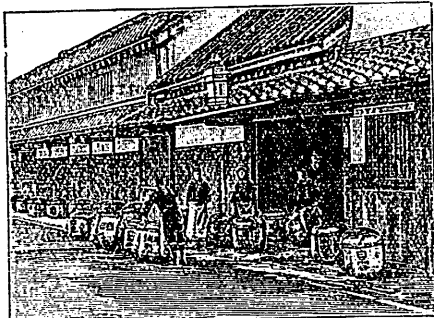
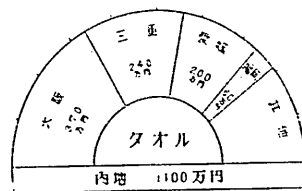
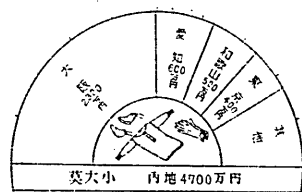
△ 西端は琵琶湖位  
○ 由其海峡に臨み  
紀淡海峡の鎮  
淡路島を中心とし  
た海の略図を描き  
なさい

\* 六甲・摩耶の南  
麓には別荘が多い  
● 平野水の産地

△ 東京へ六〇餘軒

大阪市は、淀川の本分流に跨つて、溝渠橋梁多く、水都の名さへある。近時、接續町村を併せて帝國の最大都となり、帝國第三の開港、第一の工業地、南日本商業の中心である。綿紡織機械類工業用藥品、莫大小砂糖肥料等の製造が榮え、百貨の取引が多く、市内に府廳大阪城（第四師團司令部所在）、造幣局砲兵工廠高等諸學校無線電放送局無線電信局がある。箕面寶塚（兵庫）濱寺などの保養地や運動場が程近くにある。

兵庫縣 中部山地の北側は所謂神戸牛の一產地で、又朝來川の流域は、農業が行はれる。南側の播磨灘に面する地方は、加古川市川等の下流に播磨平野が開けて、米・麥を産する。



| 酒類  | 内地     | 外洋      |
|-----|--------|---------|
| 米酒  | 600 万石 | 2400 万円 |
| 焼酎  | 100 万石 | 400 万円  |
| 啤酒  | 100 万石 | 400 万円  |
| 葡萄酒 | 100 万石 | 400 万円  |
| 果酒  | 100 万石 | 400 万円  |

大阪灣紀伊水道播磨灘は、明石・紀淡・鳴門の三海峡によつて限られてゐる。其の間に横はる淡路島は、人口稠密、農耕よく開けて、洲本（淡路）・福良・由良などの名邑がある。

尼崎市（綿・絹・板・硝子）は、阪神工業地帯の一部として、急速に發達した都市で、其の西の西宮市・御影地方（通稱）と、伊丹とは、清酒を産し、六甲山の北より東に點在する有馬・寶塚・平野には、炭酸泉が湧く。

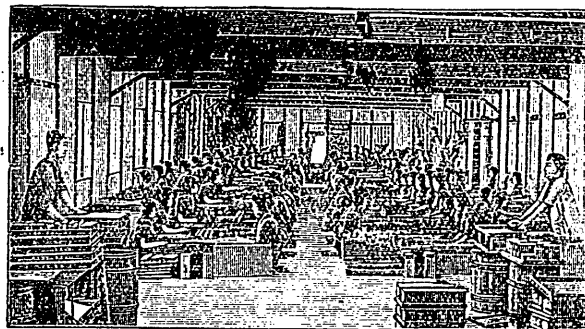
神戸市（縣廳・高商・高工・海）は、帝國第五の大都、第

| 燐寸 | 内地     | 外洋     |
|----|--------|--------|
| 燐寸 | 500 万円 | 200 万円 |
| 燐寸 | 500 万円 | 200 万円 |
| 燐寸 | 500 万円 | 200 万円 |
| 燐寸 | 500 万円 | 200 万円 |
| 燐寸 | 500 万円 | 200 万円 |

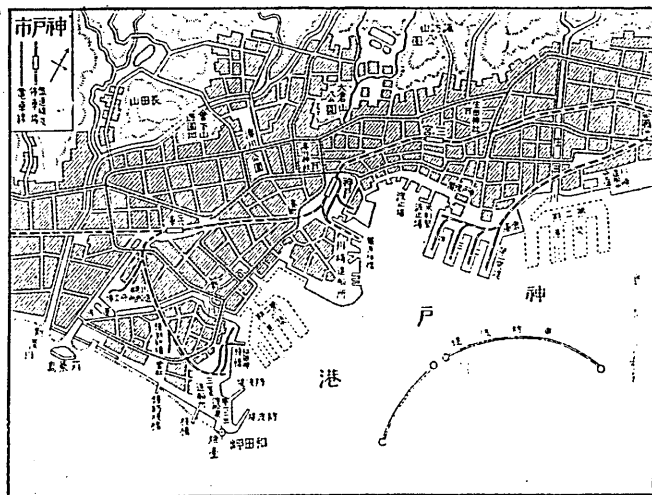
○北方に鴨越・一谷の古戦場がある

神戸港と横濱港とを比較しなさい

圖解 機寸製造所



一の開港場で、神戸・兵庫・須磨などより成り、内外航路の大半の中心で、日本の門戸である。生絲、綿織物等の輸出、綿鐵材、機械類などの輸入が頗る多い。また造船、燐寸、樟腦



絹干はセルロイドの産地

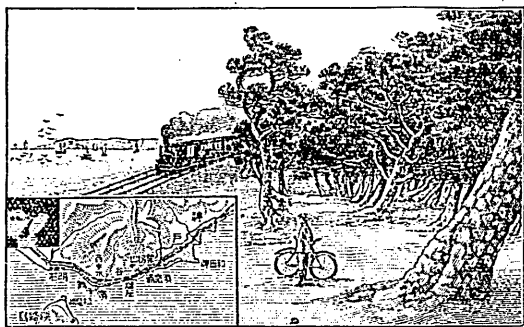
上圖解 舞子附近

△明石館の原産地  
○囃の浮船渠  
下圖解 神戸川  
時造船所の三〇〇

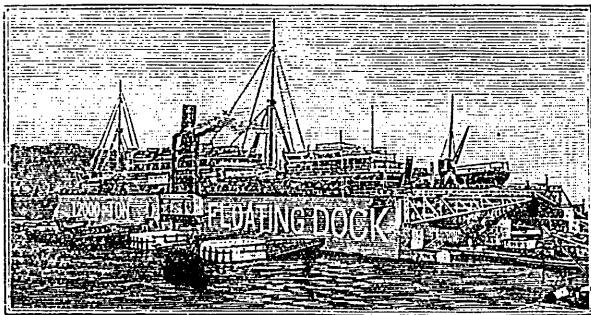
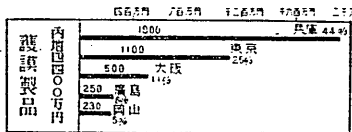
何故神戸附近には保養地多きか

\*川崎造船所(神戸)  
三菱造船所(兵庫)

精製綿紡織製粉・護謄製品等の工業が榮え、市内に、湊川神社・二大造船所などがある。



山陽線は、須磨・舞子・明石市(絲綢寸機)などの風光明媚な海岸を過ぎ、加古川・高砂(附近紡織・製紙毛織地)附近を経て姫路に赴き、更に醬油産地の龍野を右に、製鹽地の赤穂を左にし、舟坂峠、隧道に入る。



\*革細工、明珍鐵器の名産がある

播但線を説明しなさい  
△和田山

図解 餘部の陸橋 高さ四米餘 長さ三米

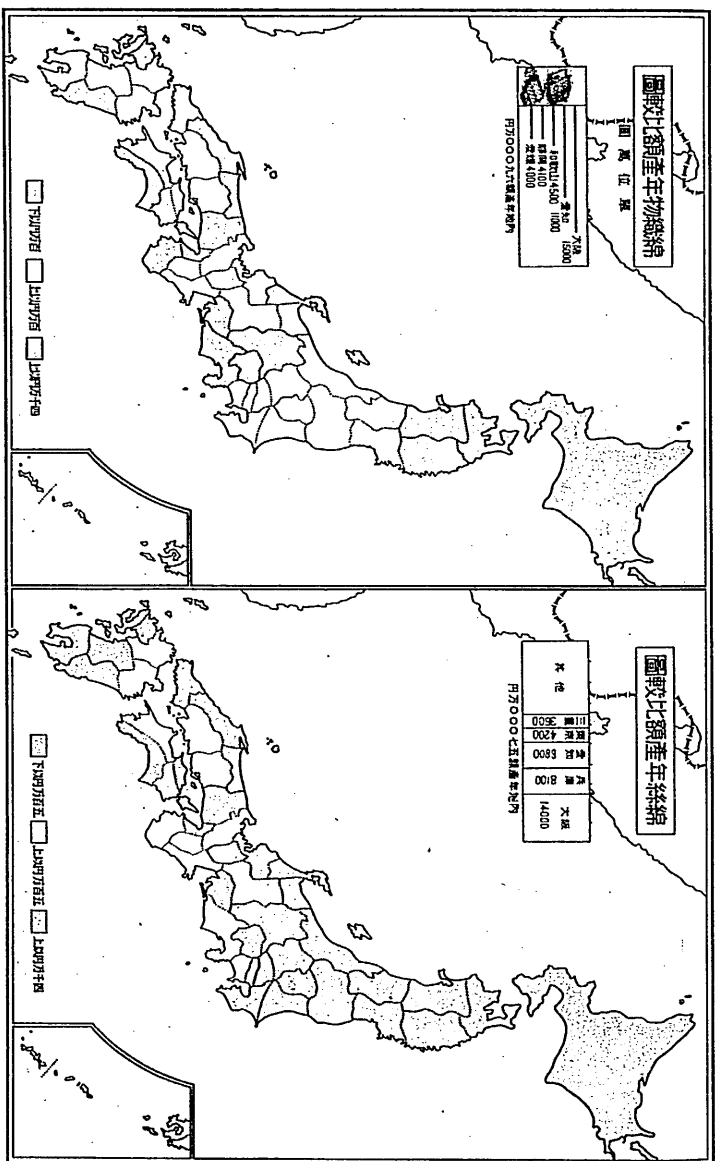
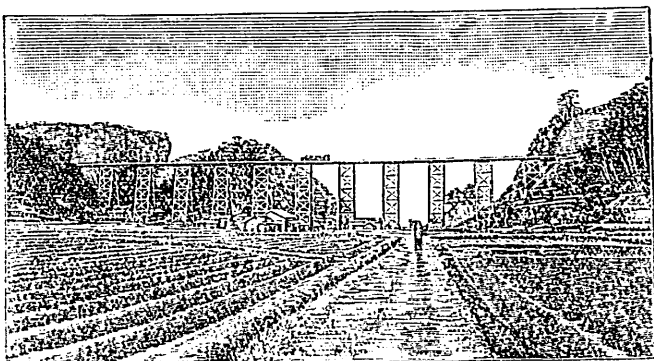
\*附近に玄武洞の奇勝がある  
豊岡、城崎地方は大正十四年五月二十三日激震があつて大損害を蒙つた

△一般に二毛作が行はれる

市川下流の姫路市(第十師團所在地)は、ト、プ、毛絲を産して、米の取引が多く、其の南の飾磨より來れる播但線は、銀銅産地の生野を過ぎて、山陰線に接續する。京都に起れる山陰線は、朝來川と並走し、出石の西方を経て、柳行李産地の豊岡と、温泉地の城崎とを過ぎ、餘部の陸橋を渡つて、鳥取縣に入る。出石は、出石焼の産地として、古より有名である。

### 第三節 人文誌

産業 農・牧共に開けて、西部山地の牧牛を初め、所々の盆地

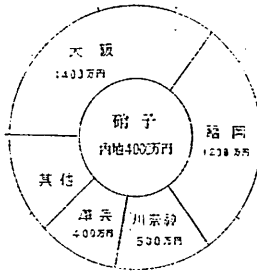


\*三重は煎茶京都  
(特に宇治地方)は  
玉露茶

折りて見せたや他  
國の人に組州蜜柑  
の枝なりを 俗語  
何故南部三縣に木  
材・柑橘が多いか  
×熊野の鯨・鮑・鰯  
瀬戸内海の鰯・鰺

關澤 美島の蜜  
柑園と蜜柑出荷

阪神工業地帯を説  
明しなさい



三縣に多く、沿海地方は、漁鹽の利が少

なくない。商工業は、京阪神  
地方に盛で、綿絲織物(絹・綿・毛)

清酒(伊丹地方)などの産多く、殊

に京都は美術工藝(西陣・織・京・染・

器・漆、大阪は機械工業の中心

で、阪神間は、一大商工業地帯

をなし、其の活動の目醒し

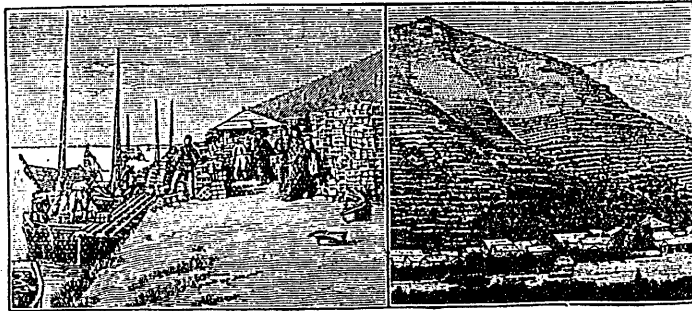
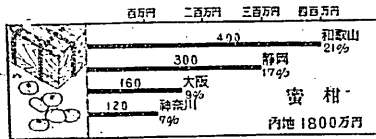
や平野は、米・麥・茶・桑種

(三賀)の栽培に適し、殊

に兵庫縣は、米・麥の産

地として名高い。木

材や柑橘類は、南部の





商業地としての大阪を説明しない

近畿地方に於ける鐵道の中心地を擧げなさい

北畠山に登山用のケーブルカーがある

\*大阪を中心として京都・大津・神戸・明石・奈良・和歌山等の方面  
無線電信局所在地  
舞鶴・大阪・湊・岬

人口一萬以上の都市約五〇

は、北日本の中心たる京濱地方の壘を摩しつゝある。神戸・大阪・四日市は、帝國樞要の港市で、神戸は、外國貿易總額に於て、遙に横濱を凌ぎ、殊に輸入が多い。大阪は、内地商業に於て、東京と共に帝國の二大中心をなし、特に支那との取引が多い。本地方の開港は、以上三港の外に宮津がある。

交通 鐵道は、關東地方に次てよく發達し、東海・山陰の二線並走し、且つこれ等に連絡する諸線も多く、中にも大阪附近は、最もよく發達してゐる。電車は、大阪を中心として、縦横に通じ、其の延長は、全國無比である。海運は、阪神二港と、四日市とを中心として、内外の諸港に航路を通じ、琵琶湖・淀川の水運も、亦よく發達してゐる。

都邑 本地方は、古來、長く帝都のあつた關係で、由緒ある都邑が甚だ多い。しかし大都市は、京・阪・神の三都で、之に次ぐ

は、堺・和歌山二市である。

甘問へば此處ぞ御階よ御垣よとむかしを語る奈良の里人  
何ごとのおはしますかは知られども黍けなさに涙こぼるゝ  
これはこれとはばかり花の吉野山  
ほのぼのと明石の浦の朝霧に鳥がくれ行く舟をしぞ思ふ  
見渡せばながむれば見れば須磨の秋

藤原伊平  
西行法師  
安原貞室  
柿本人丸  
松尾芭蕉

第五章

中國地方

境(日本海・近畿地方・瀬戸内海・下關海峡)  
隣(瀨戸内海・紀伊水道・太平洋)  
洋(豊後水道・遠明海峡)

第一節 地文誌

地域 中國地方は、本州最西部の半島地域で、北は日本海に

| 全國       | 内地      | 中國地方   | 鳥取    | 島根    | 岡山   | 廣島   | 山口   | 徳島   | 香川   | 愛媛   | 高知   |
|----------|---------|--------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 一万里の人口比較 | ●       | ●      | ●     | ●     | ●    | ●    | ●    | ●    | ●    | ●    | ●    |
| 面積(平方キロ) | 三九〇、九六六 | 二四、九六六 | 三、二七〇 | 二、二七〇 | 四、二九 | 四、五五 | 五、四八 | 三、九五 | 二、六八 | 一、二〇 | 三、七〇 |
| 人口(千人)   | 三九、〇    | 二、四    | 二、二   | 二、二   | 二、二  | 二、二  | 二、二  | 二、二  | 二、二  | 二、二  | 二、二  |

圖解 中國・四  
國兩地方地勢圖

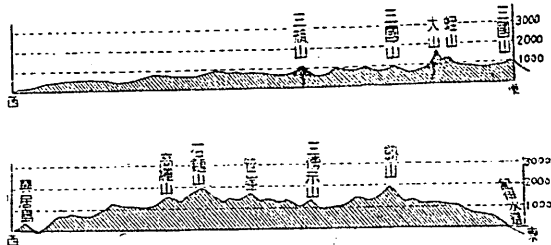
中國・四國の位置  
と人文との關係を  
考察しなさい。

圖解 中國・四  
國兩地方の東西  
隔面圖

中國山脈・四國山  
脈の南北の自然と  
人文とを比較しな  
さい。  
中國の主なる火山  
は何々か。



臨み、西南は九州に向つてゐる。これ  
と、瀬戸内海を挟んで、南北相對する四  
國地方は、瀬戸内海の  
南を限つて、東は紀伊  
水道、西は豊後水道に  
よつて、紀伊半島・九州  
島と離れ、南は太平洋に面してゐる。人口  
は、瀬戸内海沿岸諸國、特に香川縣に密で、南  
海に僻在する高知縣は、著しく疎である。  
地勢 中國・四國兩地方とも、幅狭く、前者は  
丘陵性の中國山脈、後者は稍高い四國山脈  
によつて、南北兩面に分れ、且つ北面に、それ  
ぞれ白山火山脈・阿蘇火山脈が東西に走つ



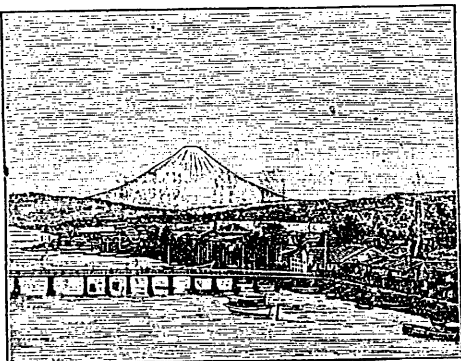
中國地方・四國地  
方の半島・港灣・岬  
崎・島嶼・海峡を舉  
げなさい。

圖解 大山

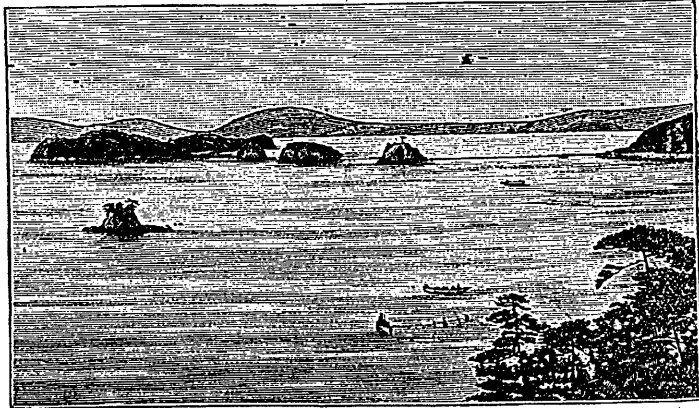
豊後・紀伊二水道  
は九州・四國・紀伊  
三山脈を切斷する

圖解 瀬戸内海

○●何れも海流の  
影響が少なくない



てゐる。従つて、  
大きな平野・河  
湖がなく、唯江  
川と吉野川と  
が著しい。海岸  
中、瀬戸内海面  
のみは半島(兒  
説岐・灘(兒島・備後・  
防・周)灣(兒島・岬  
崎)海峡が多く、島嶼も無數で風光が  
勝れ、水陸の交通も發達してゐる。  
氣候 日本海方面は、冬季に雨雪が  
多い。瀬戸内海は、溫和寡雨で、晴天が



管轄 因幡・伯耆

※伯耆富士又は出雲富士といひ其の裾野は牛馬の牧養が盛である

圖解 島根半島・夜見濱・大山

※生絲・耕の産地  
て三朝ラヂウム温泉に近い  
▲大天橋又は弓ヶ濱ともいひ長三軒幅四軒

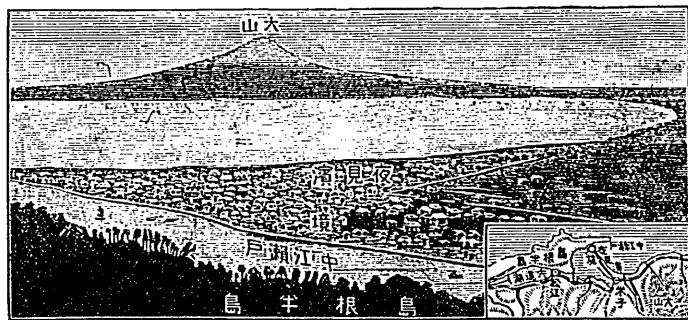
管轄 出雲・石見・隠岐

多く、太平洋方面は高温多雨である。

第二節 處誌

鳥取縣 中國山脈で岡山縣と背き、西部に、中國最高の大山と、更に名高い船上山とがある。縣内は千代天神日野の三流域(上流は砂が流れる)に分れ、各中心の都會がある。千代川(流域は紙の産地)下流の鳥取市(縣所在)は、因美線の起點で、繭・生絲紙を集散し、賀露を外港として居る市を過ぎれる山陰線は、天神河畔で倉吉に日野河畔(富む)の商業地・米子で、夜見濱北端の開港境に支線を分けて居る。

島根縣 中國山脈で、廣島縣と背き、北



隠岐諸島を地圖によりて研究しなさい

圖解 西郷の島・賊・鰯原料・漁船と鰯の乾製

日本海の孤島・竹島附近は日本海々戦の激戦地

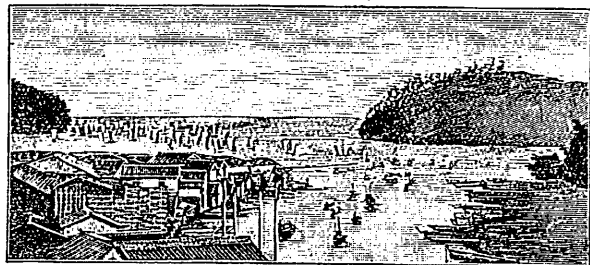
・石見半紙・薪炭の市場

津和野は西部の名邑

松江市と鳥取市とを比較しなさい

△出雲・出雲・出雲・出雲

碧玉細工



て開港濱田に赴き、中途(今市)で、大社に支線を分つて居る。

部の島根半島は、中海と海跡湖なる宍道湖とを抱いてゐる。其の沖の隠岐諸島は、後鳥羽後醍醐二帝の遷幸し給ふた處で、鰯を名産とし、島後の西郷は、それを集散する。

山陰線は、安來・松江を経

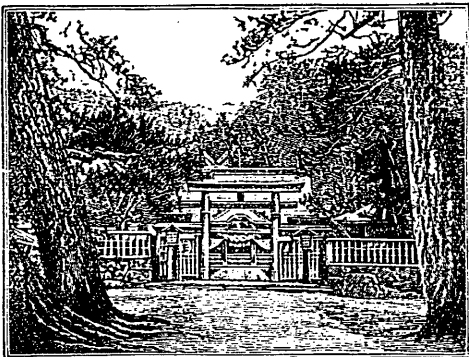
宍道湖口の松江市(縣所在)は、大橋川に跨り、遠く大山・三瓶山を望みて、風光よく、山陰の最大都で、生絲・雜貨を集散し、また

＊米・蘭、生絲を産する

○七 榦原牧場等  
みよしと其の  
名はよいがみよし  
は茗荷でかはばか  
り 俚 諺

管轄  
長周防門

圖解 長門峽(次  
頁參照)



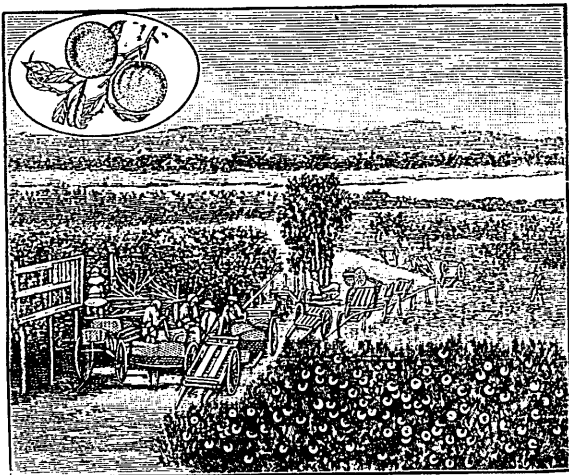
清酒を主産物とする。神代史に關係の深い斐伊川の下流に、出雲平野がある。其の中央の今市は、交通の要地である。西端の大社には、名高い出雲大社がある。江川は、中國の最大河で、大麻作牧牛の盛な三次（廣島縣下）盆地の水を集めて、中國山脈を横ぎれる中國唯一の河川である。



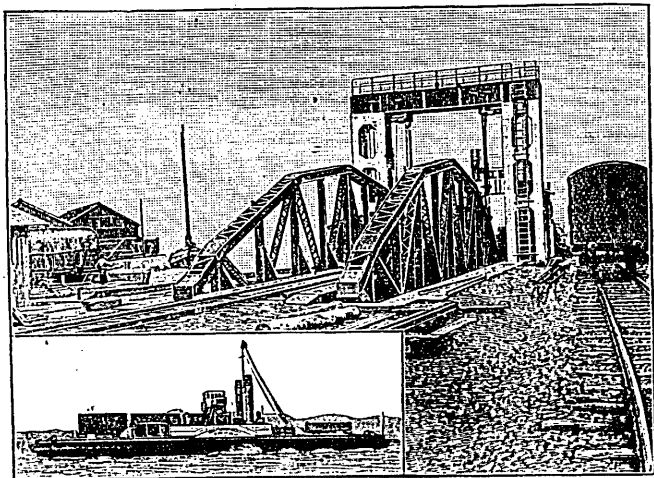
山口縣 本州の西南端にあつて、防長半島ともいはれ、三方は海に臨み、水産業(漁業)が盛である。日本海岸

△長門・秋吉を縣内の三奇勝とする  
×漆器・産具を産する  
日本海上の見島附近は日霧海戦地  
角島は無線電信局の所在地

圖解 夏橙園  
圖解 閩門列車  
積載船の構造と  
船(次頁参照)



の萩は、上流に長門峽の奇勝あ  
を産し、山口（縣廳所在校）と共に、毛利



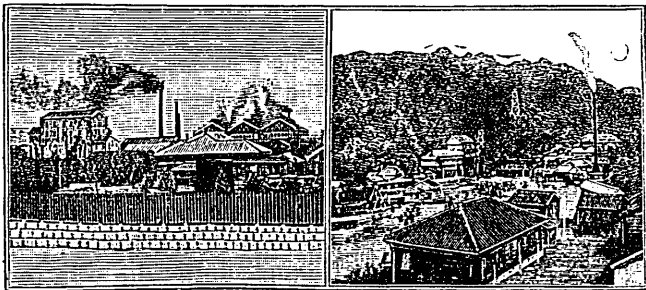
\* 名産は赤間關  
下關東京間急行列  
車行程約一晝夜  
關門連絡船は一日  
二十七回、十五分  
で達する  
何故下關は重要な  
るか

圖解 大嶺炭坑  
と徳山の海軍燃  
料廠

何故宇部市は急速  
に發達したか  
\* 防府の一部

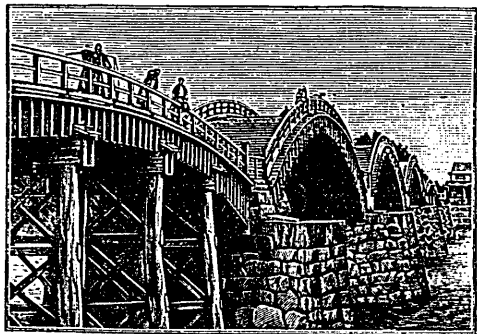
圖解 錦帶橋

\* 無烟炭坑の所在  
地で北方の秋吉峯  
に大嶺乳洞がある



を過ぎり、中途で、大嶺(美濃)及び島根縣

氏の城下であつた。開港下關市(馬關名)は、  
下關(門關)海峽に臨み、形勝の地點を占む。關  
門、關釜二連絡船のある處で、防長米、肥料、  
鮮魚を集散し、附近に、壇浦古戰場と要塞  
とがある。市に終  
る山陽線は、小野田  
(トメノ)宇部市(石炭地)の  
附近、製鹽地の三田  
尻、海軍燃料廠のあ  
る徳山(港開)、柳井(木油)  
地、錦帶橋で名高い  
岩國(岩國紙の市場)、附近



管轄 備後・  
安藝

圖解 嚴島神社

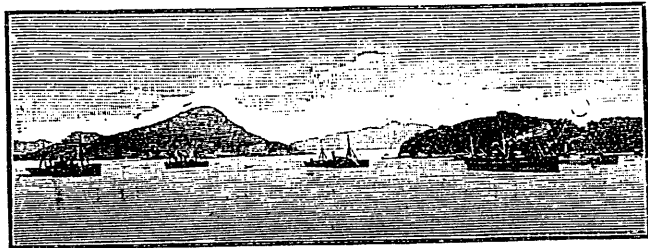
北部に毛利氏發祥  
地の吉田と帝釋の  
奇勝とがある

圖解 宇品(次  
頁參照)



(山口)に支線を分つてゐる。  
廣島縣 北部は山地な  
るも、南部は、瀬戸内海に  
面して島嶼が多く、就中、  
江田島は海軍兵學校、嚴  
島(宮島)は嚴島神社(日本三)  
の所在地として、世に名  
高い。

嚴島よりの略信 満潮を待ち、小舟に乗りて、樹皮を剥  
ぎたるまゝの大華表をくぐりて社殿に詣づ。其の社  
殿は莊嚴限りなく、潮満つれば、恰も全殿水に浮べるが  
如し。島頂即ち彌山に攀づれば、島嶼點々星の如く、東  
西に起伏せる中國山脈は、蜿蜒として一眸に集り、眞に  
壯快謂はん方なし。



●雨傘、牡蠣を名産とする  
 ●四鐵道相會する其の蒸備鐵道は早晩山陰線に連絡するであらう  
 何故廣島市は發達したか

●線上の西條附近は清酒産地  
 ●多度津との間に連絡航路がある  
 ●清酒(金)を産する  
 △廣村にもある

●保命酒を産し仙酔島の勝がある  
 新市は備後線の集散地

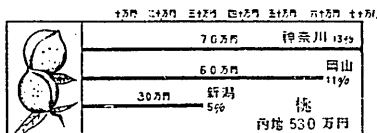
●管轄 美作・備前・備中  
 ▲西部の下津井は無線電信局所在地

●桃梨葡萄等  
 岡山縣の重要産物を擧げなさい

●下圖解 岡山港  
 海と花建機

●上圖解 後樂園

●宇野線を見島半島に中國鐵道を津山と總社とに西大寺鐵道を西大寺に三條鐵道を三條港に通ずる  
 岡山市と廣島市とを比較しなさい  
 ●燧石耐火煉瓦の産地

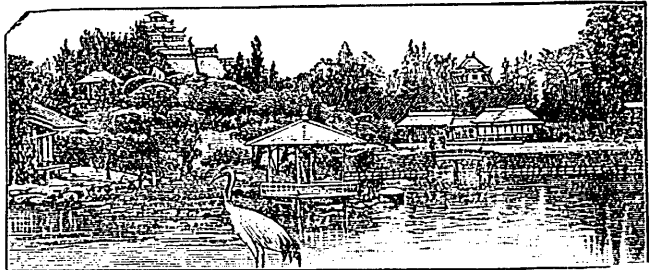
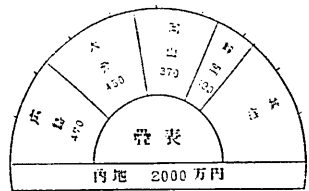


●廣島市(縣廳・第五師團司令部)は、大田川の三角洲に跨つて、宇品(陸軍運送部)を外港とし、軍事・交通上の要地、中國の最大都て、綿紡織・牛肉罐詰製綿が盛大である。

●廣島灣は、忠海附近と共に、瀬戸内海の中部を扼する要塞地帯である。

●山陽線は、廣島・絲崎(尾道市)・尾道市(肥料・松永・福山などを通じて、海田市で吳線を分つ。軍港・呉市には、第二海軍鎮守府と、東洋一の海軍工廠とがある。蘆田河畔の福山市は、交通の要地、機業の中心で、尾道・鞆と共に、鹽表の市場である。

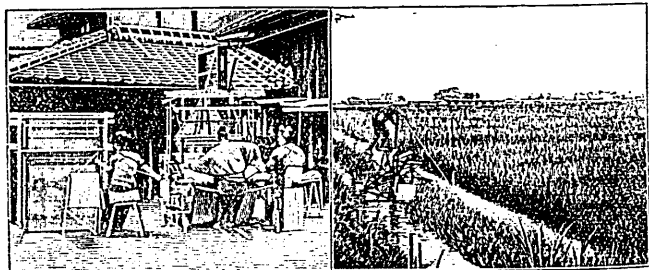
●岡山縣 兒島半島は、其の北方に開墾中の兒島灣、南部に四國との聯絡港たる宇野を控へ、又、鹽田が



よく發達してゐる。吉井(梁)旭(高)

●梁(三河)の下流地方には、平野が開けて、米・蘋果・實・煙草(高梁)等の農産、綿・絲・綿織物・眞田・板紙(大寺)等々の工産が多い。

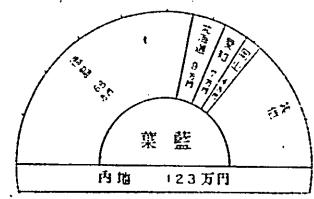
●旭川下流の岡山市(縣廳)は、交通の中心で、綿紡織・製粉・足袋製造等の工業が盛大である。市以西の倉敷・玉島・笠岡地方は、綿・絲・花筵・眞田(本經)の産地である。山陽線は右の四都と三



管轄 阿波

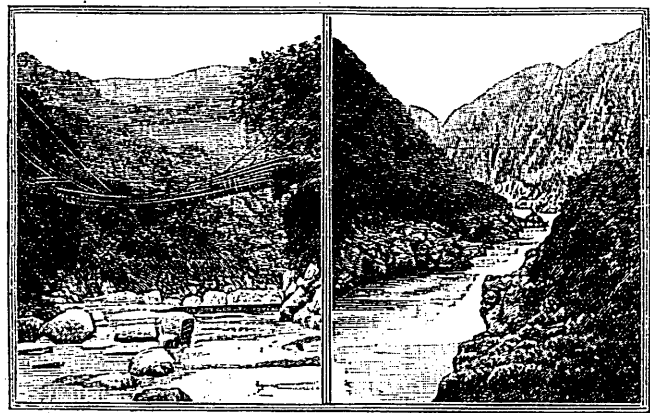
△吉野川の支流で橋が多く近時まで菱橋があつた

圖解 大崩壊と祖谷川の舊菱橋



石とを経て兵庫縣に入る。伊部は備前焼を産する。津山は、美作の中心で商況が活潑である。

徳島縣 西南部は山地が多く、殊に劍山は、四國の最高峯で、那賀川、祖谷川の水源となる。吉野川(四國)は、高知縣から來る四國の最大河で、大崩壊(小崩壊)の峽谷を作りて東流し、下流に徳島平野を開き、紀伊水道に注いでゐる。其の中流の脇町附近は藍(産額全)の池田(徳島縣の起點)附近



徳島平野の産物を擧げなさい  
何故徳島市は大阪市と取引が多いか

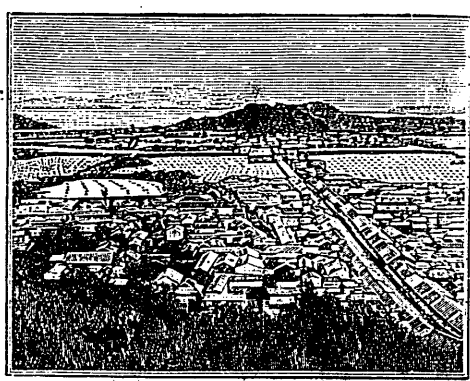
圖解 撫養の鹽川

富岡は那賀流域の貨物集散地  
\*足袋を産する

管轄 讃岐  
小面府縣順位  
大阪香川東京沖  
總神奈川佐賀  
人口稠密府縣順  
位 東京大阪神奈川福岡愛知香

\*醬油の多産地  
何故香川縣は人口が稠密なるか

引田は漁港



近は煙草の栽培地である。四國の最大都徳島市(縣廳在)は、本縣の門戸で、特に大阪との取引が多く、綿絲綿織物(阿波縮)・藍を集散し、其の外港の小松島(工業)に、小松島線を通じてゐる。鳴門海峡は、潮流の渦動で名高く、附近の撫養は齋田鹽を産する。

香川縣 讃岐半島の地で、屬島が多く、小豆島に寒霞溪の勝がある。五劍飯野(讃岐)の二名山が、東西に對峙してゐる。面積狭小、人口稠密であつて、土地がよく開け、砂糖鹽麥稈眞田などを産する。但し地勢雨量の關係で、北部の平野には、小溪流のみなれば、灌漑用の池溝が頗る多い。



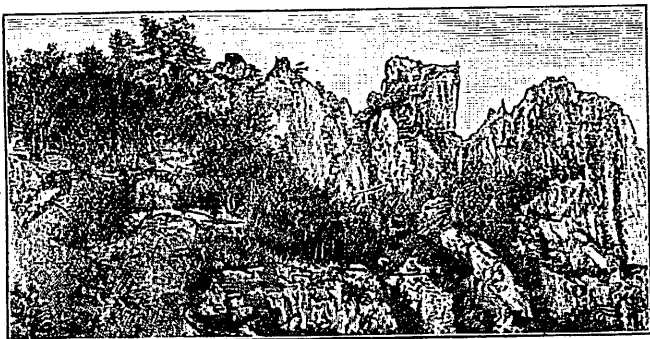
\*源平二氏の古戦  
場で焙岩釜地

圖解 栗林公園

圖解 寒霞溪(前  
頁参照)

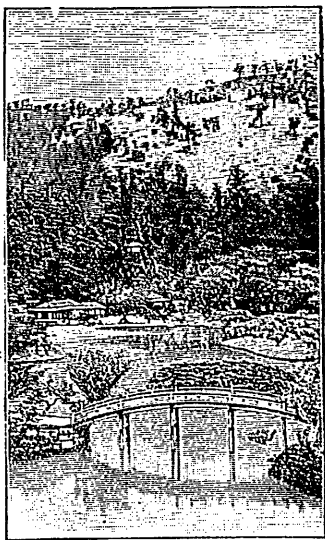
\*宇野・高松間一  
時間  
中國四國の連絡地  
を述べなさい  
\*染料・陶扇を産す  
る

△金刀比羅宮・水  
難救済會本部所在



在の善通寺及び象頭山麓の琴平を経て南走する。

屋島  
(半島)に近い  
高松市(高松市  
所在)



は、宇野と共に、四國・山陽を連絡する交  
通の要地で、綿絲漆器・綿織物・眞田を産  
し、四國第一の名園栗林公園がある。

茲に起る讃豫線は、阪出(中興の中心)・丸龜市  
多度津の要津、名邑觀音寺を経て、愛媛  
縣に入り、支線は、第十一師團司令部所

管轄 伊豫

\*吾料

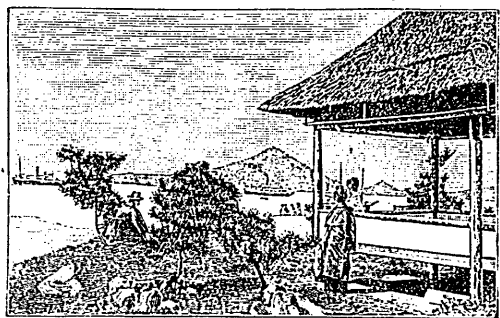
上圖解 別子の  
運搬鐵索と新居  
濱・四國島間の  
運搬船

△銅鑛は鐵索・鐵  
下圖解 三津濱  
と前面の興居島  
(次頁参照)

道にて新居濱に送  
り海上の四國島で  
製鍊する  
\*綿ネル・ノール  
産地  
\*附近一帯は鳴門  
海峡と同じく要港  
地帯  
\*赤川・重信川流域  
につきて述べなさい



門に次で潮流が急である。中部の重信川



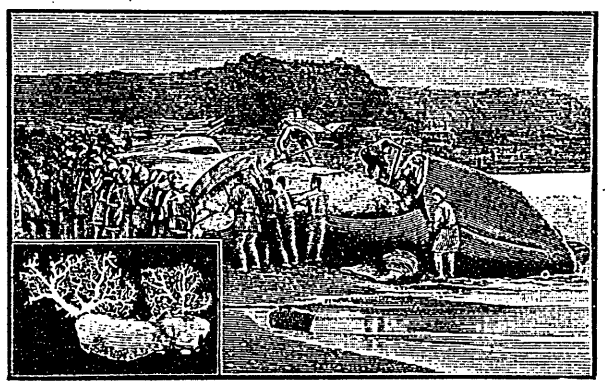
×貨より木蠟を採取する

圖解 縣内切取りと紅珊瑚

管轄 土佐

土佐はよい國南をうけて年にお米が二度とれる 俚語須崎は本縣の最良港安藝は東部中村は西部の名邑高知縣の特産物を擧げなさい

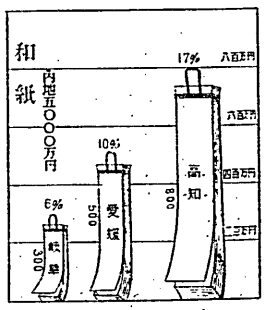
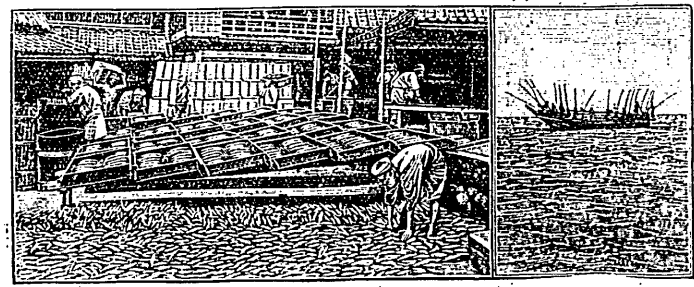
流域は、縣の主要生産地で、其の中心の松山市(縣校高等)は、伊豫緋・綿絲・綿ネルを産して、道後溫泉に程近く、伊豫鐵道によつて、外港の三津濱・高濱と連絡する。南部の肱川流域には、樺の栽培が多く、東部(附近)と共に、和紙を産し、大洲は、其の集散地である。高知縣 愛媛縣と相背いて、一望萬里の太平洋に面する。室戸足摺二岬に挟まる土佐灣は、鯨・鰹の漁獲が多く、西南海上の沖島附近は、紅珊瑚の産地である。本縣は、一般に森林多く(七割餘)、また楮



×山内氏の舊城下で高知線(高知・須崎間)の起點、セメントを産する

圖解 鯉漁船と土佐節乾製

△防長米・備前米は殊に名高い 鐵山・吹屋・別子大嶺等 中國の山地に砂鐵沿岸・島嶼に石村が出る ×天候・地形・潮汐の干満差等の爲、鹽が隆盛である



仁淀河畔の伊野は、製紙地である。

第三節 人文誌

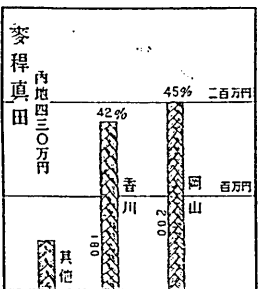
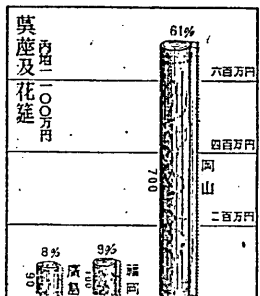
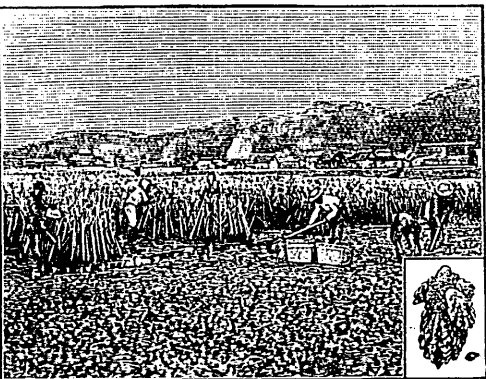
産業 米・麥・果實などの農産が多く、中國は、一般に牧牛が盛で、愛媛縣は銅を産する。水産業は盛大で、瀬戸内海の鯛・鱈・牡蠣・鹽(鹽田)・日本海の烏賊・太

Table with 2 rows and 6 columns. The first row is a header: '食糧 内地 80000万円'. The second row contains data: '合計 22000', '山 14000', '大 12000', '小 8000', '中 5000'.

圖解 養殖牡蠣  
採取(前頁参照)

中國地方鐵道の重なる分岐點を擧げなさい

何故四國は鐵道の發達が後れたか



平洋の鯨・鯨鰯等は、殊に名高い。

工業は、岡山・廣島二縣に榮えて、花筵・

疊・表・麥稈・眞田・綿絲等を産する。

交通 鐵道山陽線は、山陽地方の幹

線で、汽船によつて四國・九州・朝鮮の鐵道と連絡する。山陰

方面には、山陰線が通じてゐる。其の他、南北に亘るものに、

山口線・美禰線及び藝備中國二鐵道などがあるが、未だ南北

の連絡は不充分である。四國地方には、徳島線・讃岐線・高徳

下津井・角島に無線電信局がある

人口一萬以上の都邑が島根には二つ、高知には唯一つあるのみ。何故瀬戸内海岸地方は産業が發達したか

九州地方の八縣十二國を記しなさい

線・高知線・伊豫鐵道等あるが、一局部の交通を助けるのみで、一般に鐵道の發達が後れてゐる。海運は日本海面は良港灣に乏しく、殊に冬季には、風浪が航海を妨げる。瀬戸内海は、船舶の往來が繁くて、海運が頗るよく發達してゐる。

都邑 瀬戸内海岸地方は、一般に産業が發達して、人口も稠密であるから、岡山・廣島・吳などを始め、中都邑がよく發達して居るが、日本海・太平洋の兩方面は、文化に浴することが遅く、従つて都邑も少なく、其の發達も後れてゐる。

### 第六章 九州地方

隣國(日本海・太平洋・朝鮮海峽・瀬戸内海)

#### 第一節 地文誌

地域 本地方は、行政上、八縣十二國に分れ、東は、下關・速明の兩海峽によつて本州と四國とに向ひ、北は、朝鮮海峽によつ

九州南部山脈の名  
山を挙げなさい

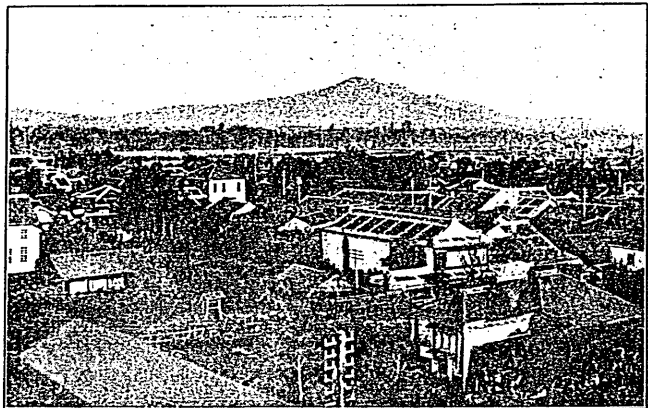
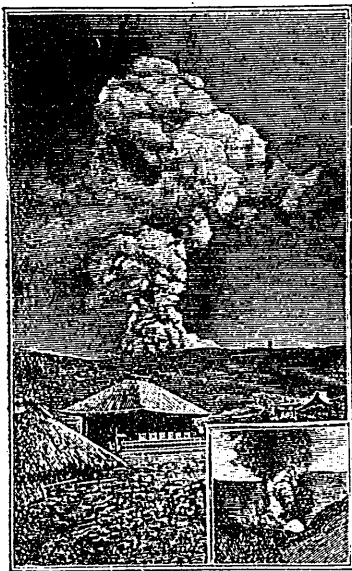
●外輪山の直徑南  
北約廿里中に三町  
十一ヶ村四萬餘の  
人口を有し中央火  
口丘の阿蘇五岳  
(根子・高嶺・烏  
子・杵島)がある

●外輪山の直徑南  
北約廿里中に三町  
十一ヶ村四萬餘の  
人口を有し中央火  
口丘の阿蘇五岳  
(根子・高嶺・烏  
子・杵島)がある

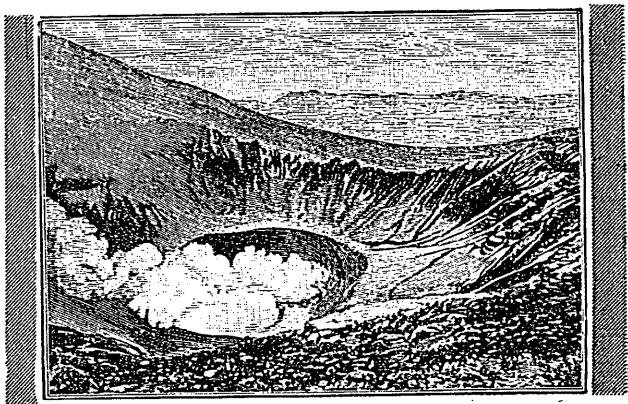
て朝鮮に對し、西南には薩南琉球の二列島が、太平洋と東支  
那海とを限つて、臺灣との鍵鎖をなしてゐる。人口は、炭田  
地方を控へて、商工業の盛なる北部三縣に最も密で、南部に  
僻在する宮崎縣が、最も  
稀少である。

地勢 丘陵性の九州北  
部山脈(統系)と、高峻な九  
州南部山脈(九州)との間  
には、阿蘇火山脈(阿蘇山・鶴  
嶺・湯島)が、東西に斜走して、

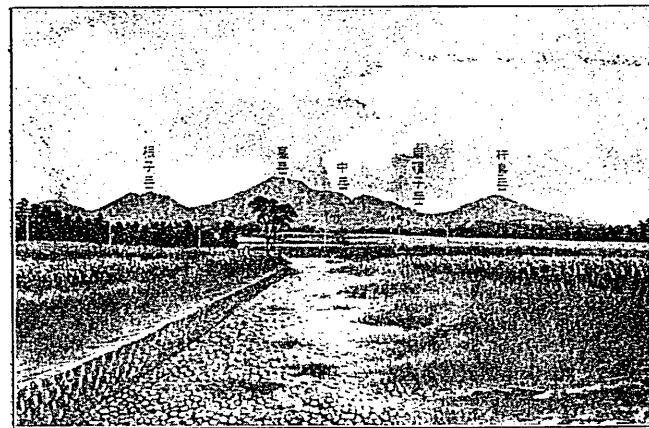
| 面積<br>平方里 | 人口<br>比較 | 全<br>國 | 内<br>地 | 九<br>州<br>地<br>方 | 福<br>岡 | 佐<br>賀 | 長<br>崎 | 熊<br>本 | 大<br>分 | 宮<br>崎 | 鹿<br>兒<br>島 | 沖<br>縄 |
|-----------|----------|--------|--------|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|
| 一〇、〇〇〇    | 一〇、〇〇〇   | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇           | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇      | 一〇、〇〇〇 |
| 二、四九六     | 二、四九六    | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六            | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六  | 二、四九六       | 二、四九六  |
| 二、八六七     | 二、八六七    | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七            | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七  | 二、八六七       | 二、八六七  |
| 三、一九      | 三、一九     | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九             | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九   | 三、一九        | 三、一九   |
| 一、五八      | 一、五八     | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八             | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八   | 一、五八        | 一、五八   |
| 二、六七      | 二、六七     | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七             | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七   | 二、六七        | 二、六七   |
| 四、八二      | 四、八二     | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二             | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二   | 四、八二        | 四、八二   |
| 四、〇四      | 四、〇四     | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四             | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四   | 四、〇四        | 四、〇四   |
| 五、〇二      | 五、〇二     | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二             | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二   | 五、〇二        | 五、〇二   |
| 五、九二      | 五、九二     | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二             | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二   | 五、九二        | 五、九二   |
| 一、四四      | 一、四四     | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四             | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四   | 一、四四        | 一、四四   |



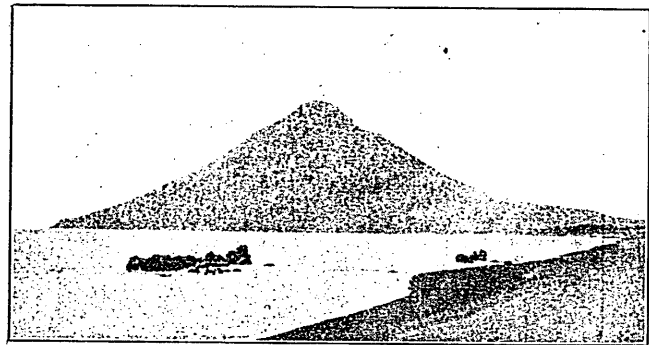
山島霧るた見りよ城郷



口火の山島霧



北万阿り五嶽鐵(何れも火口丘を望む)



開闔嶺

圖解 九州地方  
地勢圖

九州の主要なる河  
流を擧げなさい

圖解 球磨川と  
九州地方南北斷  
面圖

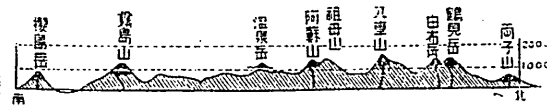
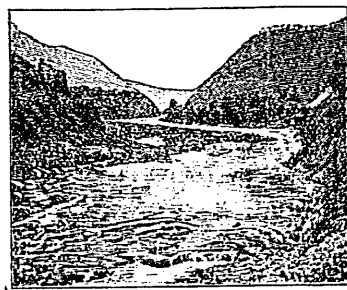
九州西北の半島及  
び屬島の主要なる  
ものを擧げなさい

×約五米半



本地方を南北に分ち、別に霧島火  
山脈は、霧島山(高千穂峰)から西南に  
延びつつ、櫻島(御開闔岳)を起して、  
遠く薩南諸島に連つてゐる。

河流には、筑後・球磨川<sup>ヒゲナシ</sup>内、遠賀など著名なものが多い  
が、就中筑後川は、其の流域に、本邦  
屈指の筑紫平野を開き、南方の肥  
後平野と續いてゐる。西北は、海  
岸線も最もよく發達して、大半島  
や屬島が頗る多い。肢節に富め  
る肥前半島は、北に唐津灣・伊萬里  
灣、西に大村灣を入れ、東に潮汐干



\*志布志(有明)灣もある  
北部に博多灣がある

圖解 干潮時の有明海

九州の主要なる平野を擧げなさい  
何故日向灘海岸は發達が後れたか

圖解 琉球の榕樹(次頁参照)

中部の熊本附近は稍大陸的である



は、屈曲多き豊後水道があり、其の北に、風光明媚な別府灣がある。  
氣候 北部は山陰・北陸の氣候に似、南



沖繩では氷點以下に降ることがない

管轄 統前・統後・豊前・生部・瀬戸内海方面・遠賀流域・統後流域・福岡地方

\*河身改修工事終り、運炭・灌漑・工場用水に利用される  
福岡縣の八市・四開港・一軍都とは何々か

部は、溫暖多雨である。殊に沖繩縣は、霜雪を知らぬ程で、芭蕉・榕樹等の熱帶植物がある。

第二節 處 誌

福岡縣 玄海灘・周防灘有明海に面し、平野が散在してゐる。  
筑後川(統前)は、九州の最大河で、大分縣から來りて、佐賀縣境を流れ、筑紫平野を開いて有明海に注ぐ。  
其の平野の米・菜種・榎(木蠟)は、遠賀川上流の筑豊炭田及び三池の石炭と共に、産額が頗る多い。本縣は、一般に農工商が發達して、人口が多く、八市・四開港・一軍都がある。殊に關門海峡(彦島を)より洞海(トビノカミ)に亙る一帯の地方は、一大工業地帯をなして、其の活動が目醒ましい。

|    | 五十万坪 | 百万坪 | 百万坪 | 二百万坪 | 三百万坪 |
|----|------|-----|-----|------|------|
| 内地 | 230  | 400 | 400 | 400  | 400  |
| 筑  | 150  | 150 | 150 | 150  | 150  |
| 種  | 90   | 90  | 90  | 90   | 90   |
|    | 80   | 80  | 80  | 80   | 80   |

以下關に貨物積載  
船を通ずる

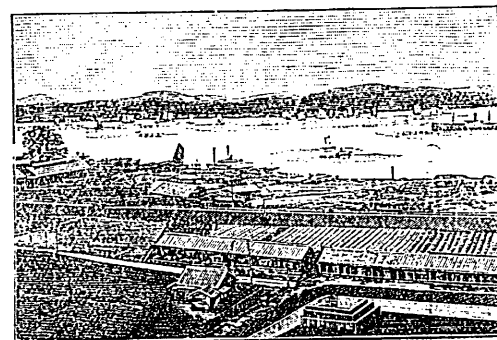
\*大里に製糖所、  
製粉所がある

△鹿兒島線・日豊  
線・小倉鐵道

圖解 門司附近  
より見たる關門  
海峡

▲精糖・硝子・諸機  
械等の工場がある  
\*硝子洋釘・炭炭  
精製ナフタリン  
耐火煉瓦を産する

○直方飯塚伊田  
後藤寺・添田等は  
其の地方の中心  
北九州の工業地帯  
を説明しなさい



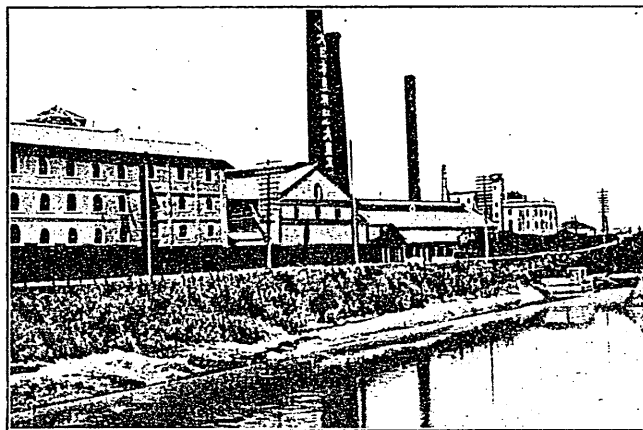
田地方に、筑豊線を通じて石炭を輸出する。

門司市は、下關と相俟つて瀬戸内海の西門を扼し、帝國第四の開港、水陸交通の要地で、精糖・製粉・麥酒・セメント等の産が多い。小倉市は、工業地帯の中に位し、交通の要地で、鋼材・電球・紙を産する。洞海入口の開港若松市は、對岸に工場地戸畑市及び八幡製鐵所の所在地たる八幡市を控へて、鐵礦(内支那)の輸入多く、又遠賀川上流の炭。

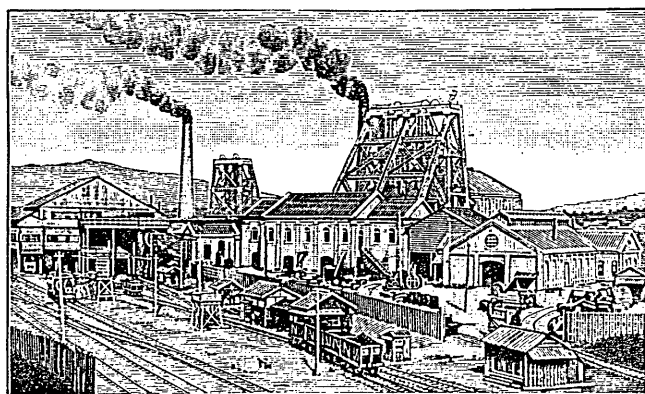
八幡製鐵所よりの略信 東洋第一の稱ある八幡製鐵所の最

大偉觀は、烟突の林立と大熔鑛爐とである。爐は、高さ約廿五米

| 西暦 八四〇年 八五〇年 八六〇年 八七〇年 八八〇年 八九〇年 |      |
|----------------------------------|------|
| セメント                             | 1900 |
| 内 七〇〇 方 円                        | 1200 |
|                                  | 200  |
|                                  | 600  |
|                                  | 500  |
|                                  | 400  |

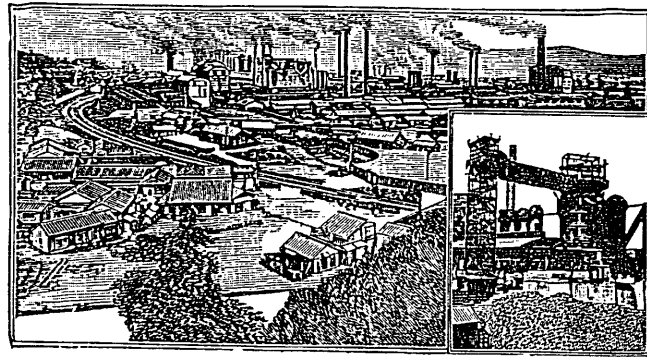


大里の製糖・製粉工場

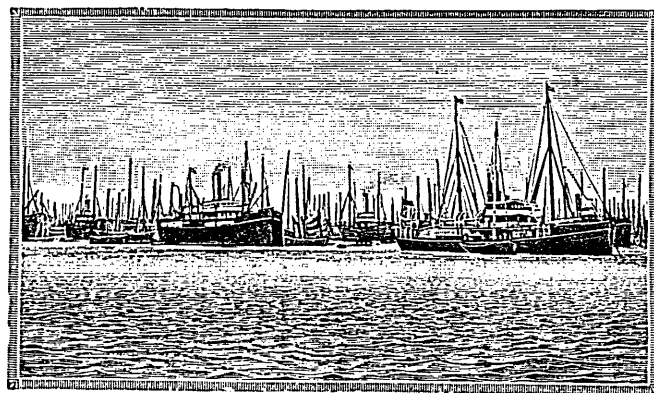


三池の炭坑





八幡製鐵所の軋機と煉鐵爐

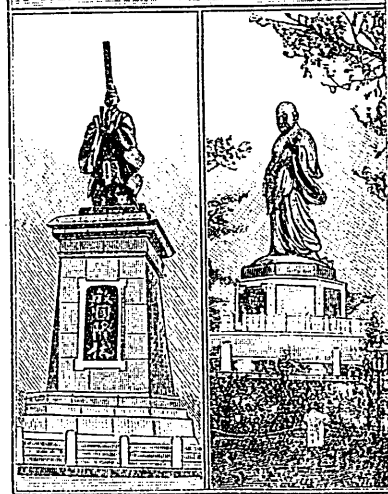


若松港

圖解 福岡の東公園と公園内の二銅像（左龜山上皇右僧日蓮）

福岡は博多人形・高取松を産し近郊より麥酒を産する  
\*海の中道は玄海灘の荒浪を避ける防波堤

\*東南に太宰府址東に香椎宮・宮崎八幡宮西に千代松原



で、底部の火床附近に送風孔・溶鐵流出孔・渣滓排除孔などがある。其の爐の上孔より鐵・鍍炭・石灰及び骸炭を混入して火を點じ、送風孔より劇しく送風すれば、こゝに銑鐵が得られる。斯くて此の操業は爐の改築を要する迄繼續せられるのである。

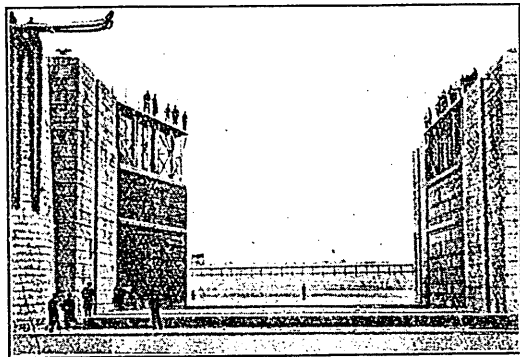
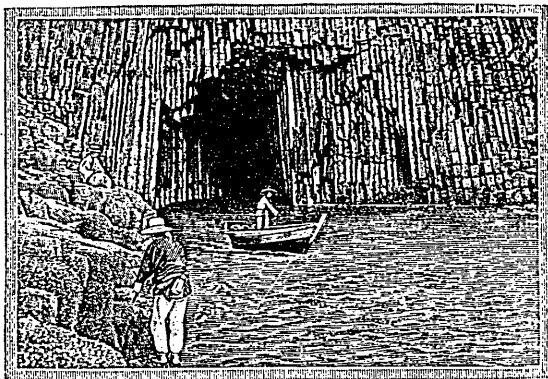
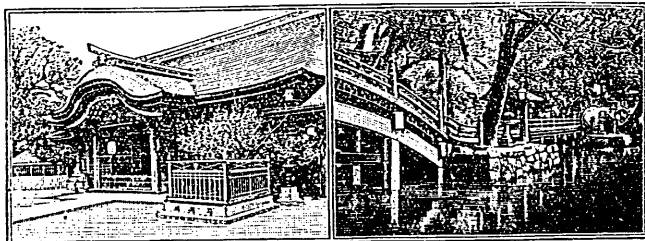
福岡市  
（縣廳所在）  
は、博多

灣頭に位して、博多（門）福岡を重要部とし、九州北部の商業地、學術の中心で、博多織・綿織物を産し、附近に、太宰府神社等の名勝史蹟が多い。門司に起る鹿兒島線は、日豊（分岐點）筑豊二

福岡市發達の要素を考察しなさい

上圖解 太宰府  
神社(前頁参照)  
中圖解 筑前芥  
屋大門(玄武岩  
の柱狀節理)  
下圖解 三池港  
閘門(次頁参照)

●長崎線の起點で  
東北の太刀洗は陸  
軍飛行隊隊所在地  
糸崎半島西岸に芥  
屋大門がある



線を分つて、福岡鳥栖(佐賀)・久留米・大牟田を通ずる。筑後川下流の久留米市は第十二師團司令部の所

管轄 肥前東北部

\*唐津炭田

圖解 有田焼土  
繪作樂

△綿絲(綿織物、絨  
力細工を産する)  
炭坑線ともいふ  
べき線で各驛に炭  
車が行列してゐる  
佐賀縣は九州地方  
中沖繩縣につきて  
面積小なるに一縣  
を置く所以を述べ  
なさい

在地、足袋・久留米・緋木蠟の産地、米の市場である。三池炭坑を控ふる大牟田市は開港三池(閘門)を控へ、石炭綿絲の取引が多く、亞鉛製煉、電氣工業も盛である。佐賀縣 有明海方面は、筑紫平野の一部で、米・麥の産が多く、開港佳江を控へ、牡蠣を産出する。筑紫(北部)山脈には、石炭が多い。唐津・伊萬里二灣間の東松浦半島附近に、名護屋(鷹島(長崎)の史蹟と、呼子(海底)七釜(勝奇)とがある。長崎線は、鹿兒島線上の鳥栖に起つて、佐賀市(縣廳、高校所在、米、市場)・溫泉地の武雄、製陶地の有田を經、中途で唐津・伊萬里の二線を分ける。唐津は、石炭の輸出港で、近傍に虹松原の勝地がある。



管轄 肥前西部、  
長崎、對馬、  
○平戸島、五島列  
島等、北松浦、西彼  
杵、島原

長崎縣の島嶼・半  
島を述べなさい

×開港古く水深深  
いが土地僻在の爲  
割合に振はぬ綿  
絲・電気機械を産  
する

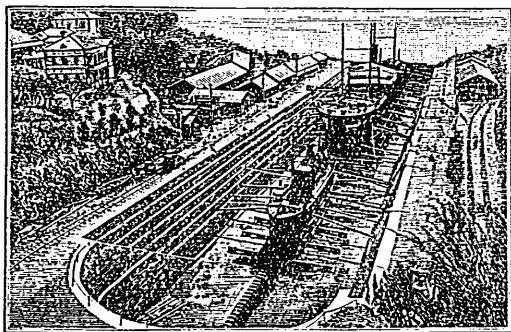
長崎・佐世保附近  
は共に寒地帯で  
前者より上海に後  
者より大連に海底  
電線を通ずる

圖解 長崎造船  
所の船渠

△分岐點は早岐

\*は諺早

\*西端の大瀬岬は  
無線電信局所在地



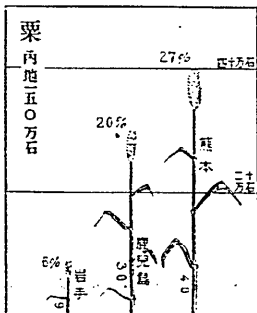
長崎縣 本縣の大部は島嶼と半島とて、海岸線が頗る長く、  
漁業が盛である。大村灣口附近の佐世保市には第三海軍鎮  
守府・無線電信局がある。彼杵半島南部の開港長崎市(神戸以西  
の最大都府)  
は、内外の航路に當り、縣廳控訴院・長崎  
造船所・醫大の所在地で、海産物の輸出  
多く、沖合に、高島炭坑がある。  
長崎線は、佐世保線と島原鐵道とを分  
ち、大村を経て、長崎に終る。島原半島  
には、中央に溫泉岳、東岸に名邑島原、南  
岸に開港の口津がある。五島は、五島  
鰯を産し、平戸島と共に、捕鯨等の水産  
業が盛大である。  
壹岐對馬は、日本海の西門にあつて、朝

長崎縣島嶼部の重  
要産物を記しなさい

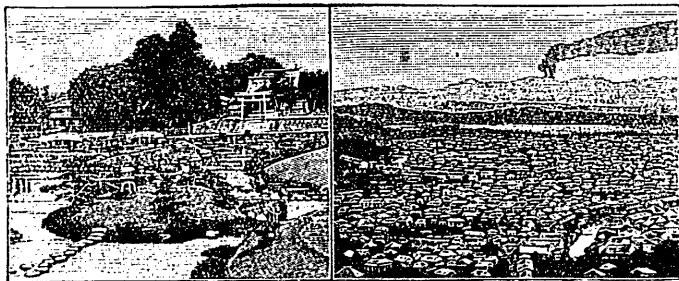
管轄 肥後

圖解 熊本(阿  
蘇火山見ゆ)と  
本前寺

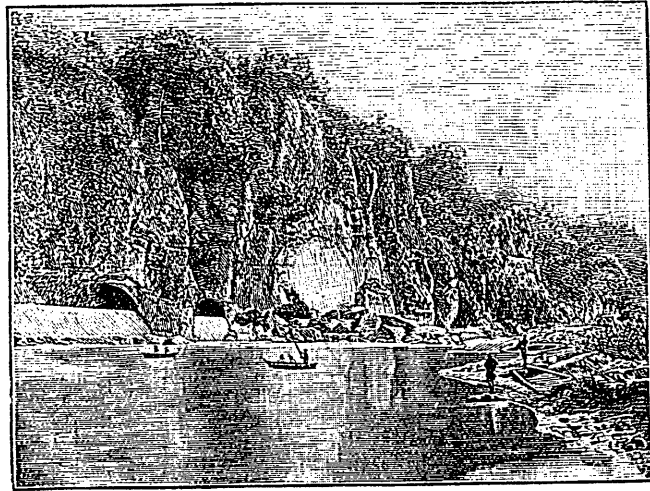
\*市内に九州の名  
園・成徳園(本前寺)  
がある附近に植  
木・山原坂等、西  
役の戦場が多い宮  
地・鐵道・無電氣  
の各線が起つて居



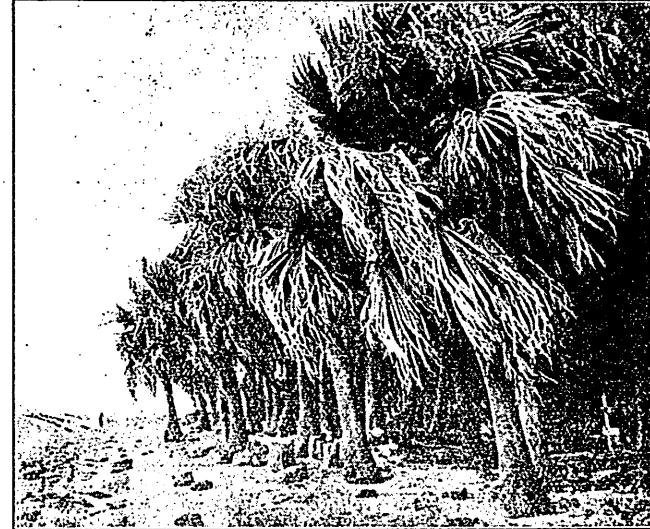
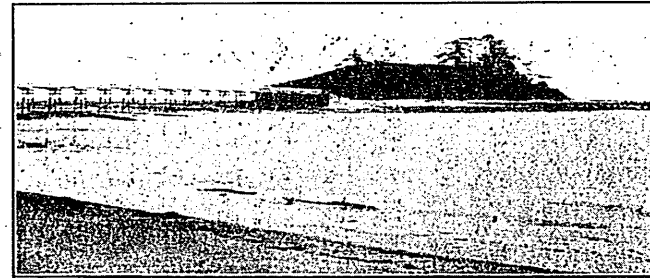
鮮に渡る飛石の如く、對馬海峡(東水東方  
の沖島(縣下)の近海は、日本海々戰の始ま  
つた處として名高い。對馬は、鰯の産が  
多く、都邑に、竹藪と、開港の嚴原・鹿見・佐須  
奈とがある。  
熊本縣 東南は、山地が多く、土地が高峻  
で、阿蘇山地方には、栗作牧馬が盛である。  
阿蘇山に發する白川は、下流に、肥後米の  
産多き肥後平野を開  
き、熊本を経て有明海  
に注いでゐる。  
熊本(縣廳)は、九州中  
部交通の要地で、米の







耶馬溪

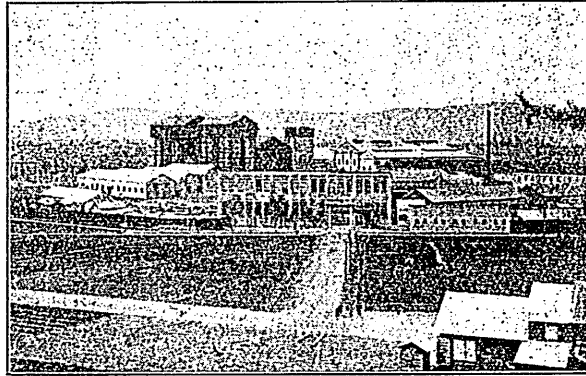


青島と其の蒲葵

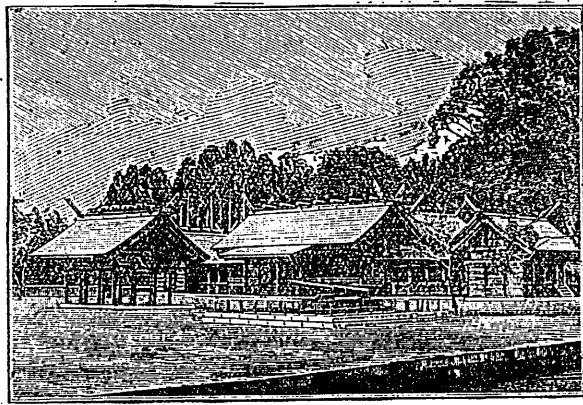
表九州と裏九州とを比較しなさい

\*木村新炭・椎茸・竹村等

上圖解・延岡室  
素肥料工場  
下圖解宮崎神宮  
(次頁参照)



る。面積が廣くて、裏九州の大部を占めてゐるが、祖母山・市房山・霧島火山などが相重つて、山地が多く、林産銅、鐵に富むも、人口が少なく、未墾地が多い。殊に南部に僻在して、陸の交通が不便なる上に、海岸の出入も少ないの



× 海産の水産が多い。  
▲ 窒素肥料工場がある。

△ 製絲・製材行は、東南方に熱帯植物で名高い青島がある。  
日豊線上の重なる都邑を挙げなさい。

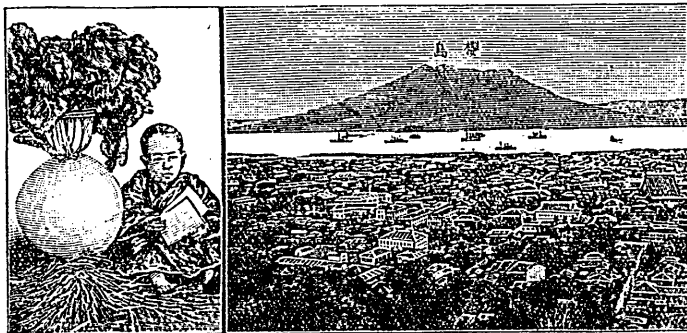
圖解 櫻島・鹿兒島市と櫻島大根(次頁参照)

管轄 薩摩大隅

\* 大正三年の噴火で大隅半島と陸つづきになつた。

× 牛尾山・野芹・野中木野等

で、文化が遅れた。日向灘に臨める延岡・細島・油津等は、本縣の門戸であるが、畢竟一漁港に過ぎない。日豊線は、鹿兒島線上の吉松に起り、大淀川上流の名邑小林・都城(生絲の産地)と河口の宮崎市(縣廳・高等農林)とを過ぎ、海岸に沿ひ總太郎峠を經、北上して大分縣に入る。  
鹿兒島縣 薩摩大隅の二大半島が突出して、鹿兒島灣を抱き、灣内には、大根と近年の噴火とで、名高い櫻島がある。河流は、川内川のみが有名で、平野は少ないが、甘諸(第一地)・砂糖(第二地)・葉煙草(第三地)・薩摩節(第一地)・山金(西部・北部)等を産し、牧畜(馬・豚)も亦盛である。



△ 西部の出水、南部の掛箱地方にも産する。

\* 無線電信局所在

\* 西郷隆盛最後の地

\* 薩摩餅・薩摩上布・大島紬

谷川は錫を産し鹿兒島は錫器の名産

河久根は焼酎産地

附近に鶴の渡來地がある

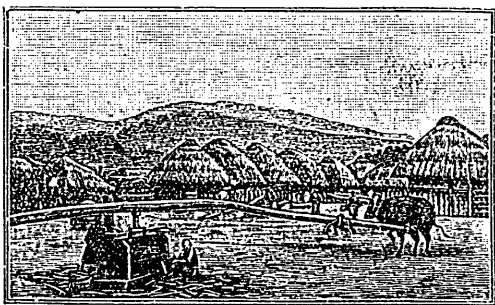
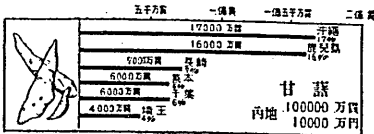
圖解 甘蔗搾汁

△ 要塞あり名瀬は島嶼所在地

九州に於ける陶磁器・織物の産地を挙げなさい。

管轄 琉球

も亦盛である。  
鹿兒島線は、葉煙草産地の一中心をして居る國分・加治木を經て鹿兒島に終り、こゝから更に川内線が起つて、西薩地方に通じてゐる。九州島南部の開港鹿兒島市(縣廳・高等農林)は、後に城山を負ひ、前面に櫻島を望み、島津氏の舊城地で、織物・肥料の産が多い。薩南諸島の種子島(鐵砲物の産地)は、甘蔗、屋久島は杉・鯉節、大島は大島紬・黑砂糖を産する。  
沖繩縣 薩南諸島に連なる五十有餘の島嶼で、沖繩先島(宮古・石垣)諸島に分れ、恰も臺灣に渡る飛





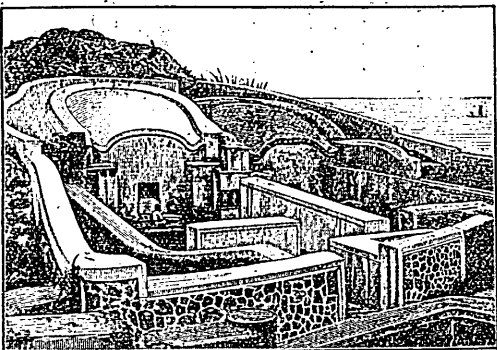
★住民の主食物

圖解 祖先に厚い琉球人の墳墓

圖解 宮古島婦人上布原料芋麻の絲に撚をかける(次頁参照)

△南支那の如く墳墓を壯大にする

沖縄縣の他府縣と著しく異なる諸點



石に似てゐる。氣候は、高温多雨であるが、晝夜四季寒暖の差が少ない。甘蔗、甘藷、芭蕉などの熱帶性植物がよく生育し、また養豚が盛である。夏秋の候には、暴風が屢襲來するので、家を低くし、石垣を高くする習慣がある。今は、内地との交通が開けて、教育も日に進み、言語、風俗なども、殆ど内地と異ならない。



久米島は久米綱の本拠

△無線電信局あり

琉球産を産する

沖縄縣の重要工業

砂糖・絨物・泡盛

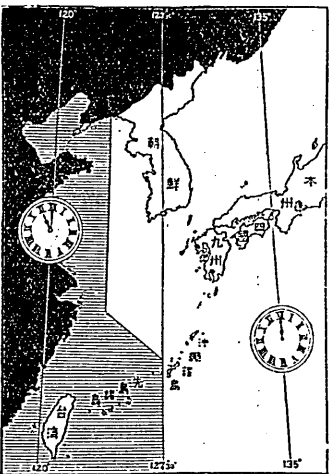
圖解 中央西部

兩標準時

★東經一二〇度の

西部標準時による

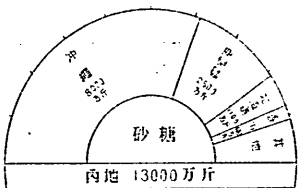
南大東島に無線電信局がある



産し、無線電信局がある。

### 第三節 人文誌

産業 西北部は、米・麥・菜種・樺などが多く、特に筑紫・肥後の兩平野には、良米を産する。南部には甘藷・甘蔗・煙

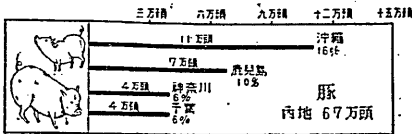
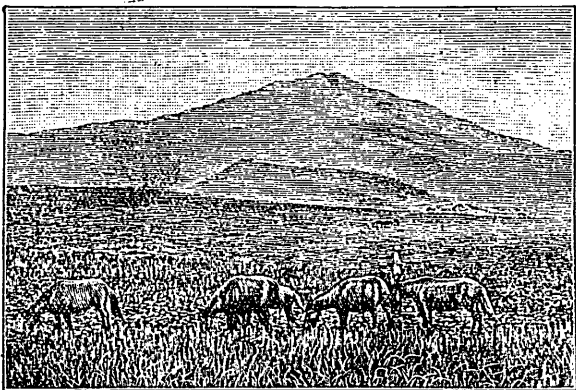


|   | 三千万 | 六千万 | 九千万 | 一億二千万 |
|---|-----|-----|-----|-------|
| 木 | 110 | 130 | 150 | 170   |
| 蠟 | 30  | 40  | 50  | 60    |



上圖解 阿蘇火  
口原の牧馬  
下圖解 長崎の  
石炭産地

九州の炭坑及び其  
の中心地並に石炭  
輸出港はどこで  
か  
\*林産物亦多い



| 石炭 内地2600000円 (28002噸) |       |      |       |       |
|------------------------|-------|------|-------|-------|
| 種                      | 北九州   | 福岡   | 佐賀    | 長門    |
| 噸                      | 15000 | 4000 | 12000 | 10000 |
| 月                      |       |      |       |       |



の牧馬と、沖繩縣の養豚とは殊に名高い。九州北部山脈は、内地産炭額の大部を出し、九州南部山脈は、金錫を産する。

九州の近海を流る  
海流を述べなさい

何故九州の西北部  
は大工業が行はれ  
るか  
九州の開港場を舉  
げなさい

九州北部には電氣  
鐵道發達し、就中門  
司・折尾間・福岡・久  
留米間のは比較的  
重要である

九州に於ける鐵道  
會社の重なる地を  
挙げなさい

長崎・鹿兒島二縣は、帝國有數の水産地方で、鰹・鰯・鰺・鯨などの漁獲が多い。工業は、石炭に富める西北部地方に盛大で、製鐵・造船・紡績・製糖等の大工業が行はれてゐる。開港場は、殆ど皆西北部にある。門司・長崎は對外貿易、福岡は内地商業の中心をしてゐる。

交通 交通は、西北の半面に最もよく發達してゐる。海運は、門司・長崎を二中心として、内外諸港に通ずる。鐵道は、鹿兒島線と、日豊線とが南北に縦貫して、長崎川内などの諸線を分岐し、更に筑豊炭田地方には、筑豊線などが、蛛網狀を呈してゐる。海底電線は、近海諸港を始め、朝鮮・臺灣・關東州・上海・浦鹽斯德等に通じてゐる。

都邑 長崎は、九州中最初に開けた最大都であるが、新進有望の都市なる福岡・門司に比しては、發達上遜色がある。

第七章 臺灣地方  
第一節 地文誌

地域 帝國の西南端にあつて、南半は熱帶に入り、支那や米

領の比律賓群島に近い。

行政上、臺北、新竹、臺中、臺南、

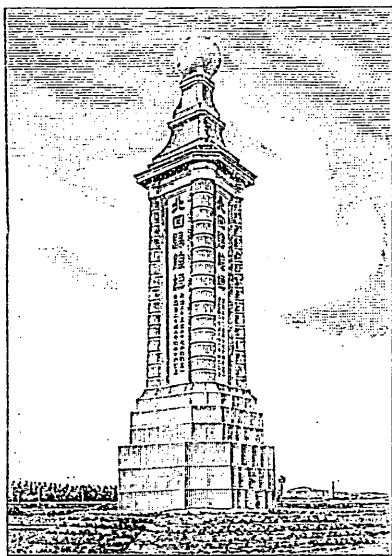
高雄の五州と、臺東、花蓮港

の二廳とに分れてゐる。

我が國南方の要鎮で、寶庫

の一であ

る。



地勢 帝國中、最も雄大なる臺灣山脈



上圖解 嘉義附  
近の北回歸線標

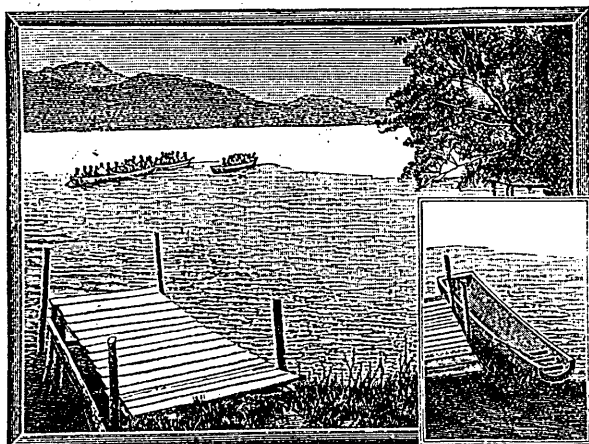
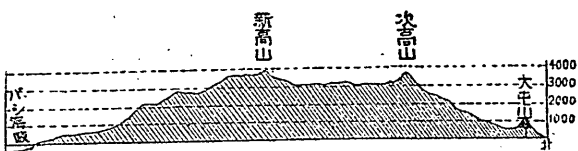
下圖解 臺灣地  
方地勢圖

※臺東山脈界嶺  
を合すれば山地は  
本島の約三分二

新高山は明治天皇  
の御命名で三九五  
〇米  
※攝政宮の御命名  
で舊名はシルビア  
山高き三九三一米

上圖解 新高山  
中圖解 臺灣地  
方南北斷面圖  
下圖解 日月潭  
(濁水溪の上一  
流) (次頁參照)

が、東部に偏つて縦走する。脈中の新高山は、帝國の最高山で、  
次高山なども、亦富士山より高い。其の東に臺東山脈、北部に  
大屯火山群がある。  
臺灣山脈の西側には、



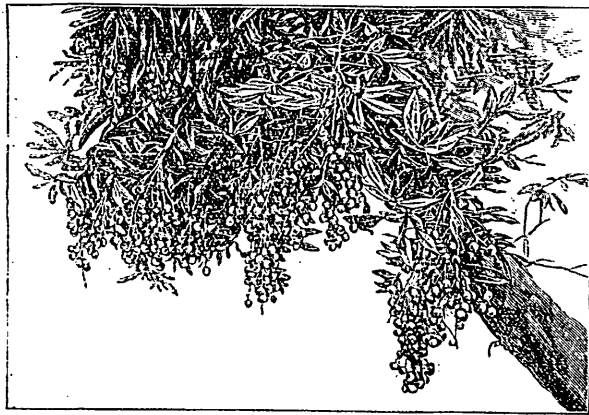
△全島に電力を供給する工事は中止

臺灣の河の特色を述べなさい

圖解 龍眼肉(赤貢參照)

圖解 東岸の崖

廣い臺灣平野が開けて、淡水河・濁水溪・淡水溪等が流れて居るが、概ね急流で、殊に季節によつて水量の増減が著しく、上流は深い峡谷、下流は廣い礫(カワ)をして居るので、水運の便が少ない。湖沼は、日月潭のみが著しい。海岸は、出入に乏しい。東岸には數千尺の斷崖が多く、西岸には、遠淺の



臺灣の東西海岸を比較しなさい

何故臺灣の西部は特に發達したか  
暑期が長く、稲・茄子は年中絶えることがない  
中部以南では三月末に白地の單衣を着又茶が出る

圖解 基隆埠頭

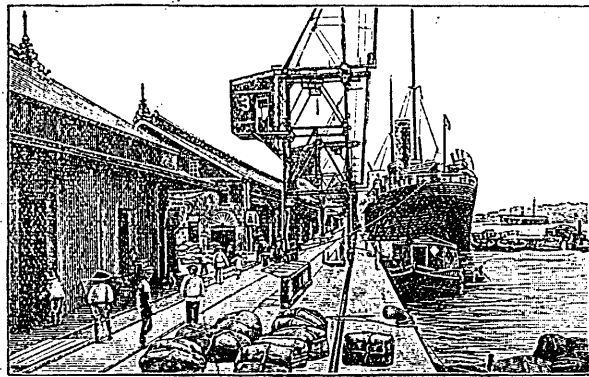
基隆・門司間汽船行程約五時間

甘蔗・米の内地移出が多い

沙濱や沙嘴がよく發達してゐる。群島・紅頭嶼などが著しい。氣候 乾季・雨季に分れ、南部と北部とに依つて、其の季を異にする。概ね高温多雨で、竹・檳榔・樹榕・龍眼・肉樹・籐・紗・羅・甘蔗・鳳梨・木瓜が生育し、颱風が屢襲來する。

第二節 處誌

東北岸の基隆は、築港が略大成して、今や世界的航路の要地に當り、出入船舶が多く、貿易が盛で、北部水産業の中心である。淡水河畔

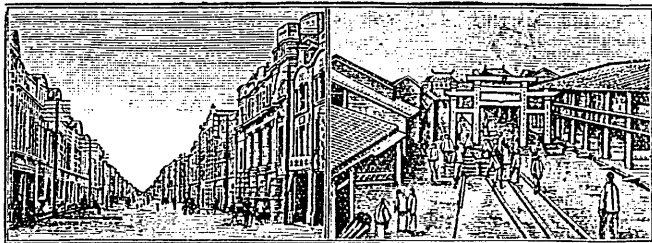


屬島は、臺灣海峽の澎湖

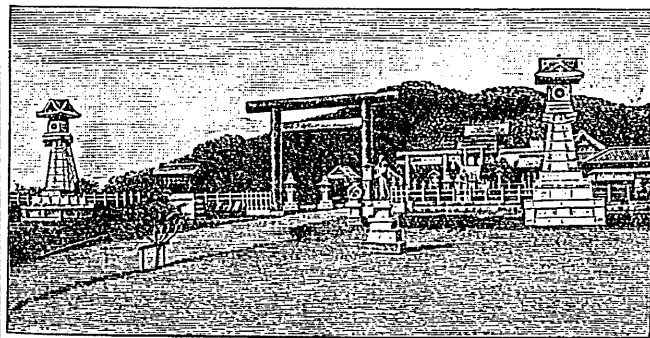
大溪は蕃地に對する要地  
● 高校・高商・陸軍・農林專

臺北の城壁は破壊せられたが尙ほ城内城外の名がある  
上圖解 清領時代と現在の臺北比較  
下圖解 臺灣神社

臺北・臺中・臺南の特色を擧げなさい



と共に、米産地の中心である。嘉義は、

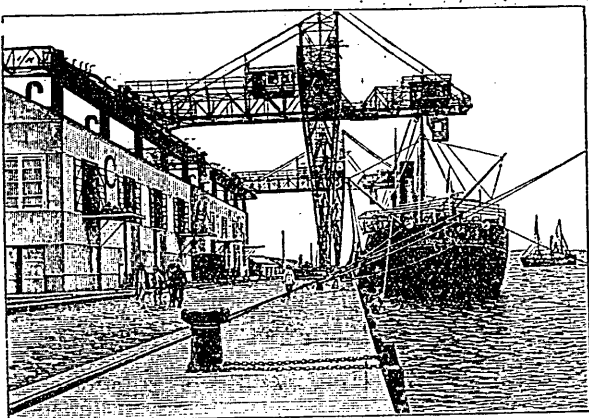


（總督府・覆審法院・陸軍司令部・臺灣神社の所在地）

＊外港の安平は支那船をいゝに足るのみである

基隆・高雄二港を比較しなさい

△基隆地方と共に要港地帯  
● 圖解 高雄埠頭  
● 特別開港場  
● 舊港・後龍・鹿港・梧棲・東石・馬公



製材・製糖が盛大で、舊都の臺南市（臺南神社・開山神社の所在地）は、南部に於ける文化の中心で、商業が榮え、大體、支那風の市街になつてゐる。埔里は、蕃地に對する要地で、日月潭に近く、鳳山・屏東（阿）は、製糖が盛大である。高雄市（阿）は、基隆市と南北の要門をなし、米・砂糖を輸出し、前途が有望である。恒春は、帝國最南の都邑で、澎湖群島にある馬公は、海軍の要港で、帝國南門の鎮である。東岸の花蓮港と臺東（阿）とは、臺東平野の門戸である。宜蘭は、宜蘭平野の中心で、蘇澳を外港とする。

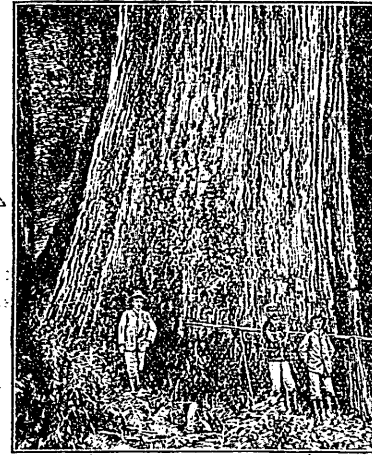
圖解 阿里山の  
檜

米・甘蔗・砂糖・茶・  
甘蔗は臺灣の五大  
農産物

\*年に二回收穫

△粗糖のまゝ内地  
に送つて精製され  
る 糖蜜からは酒  
精を採る

臺灣の主要産物は  
何々か

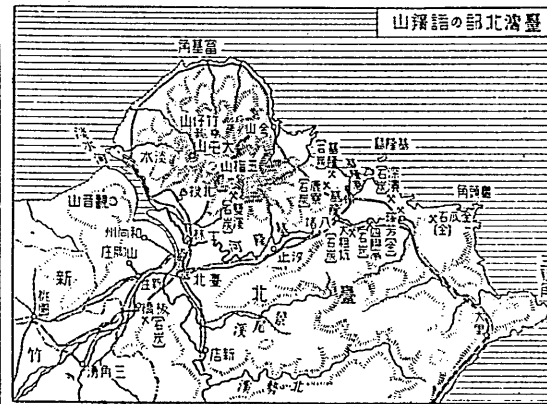


甘蔗、南部は砂糖の産が多く、甘藷  
は何れの地方にも産する。樟腦は、  
中部高地の樟樹より製して、茶と  
共に多く海外に輸出し、各地の林  
投樹の葉は、琉球の産の如く、夏帽  
子に作られる。其の他、阿里山、

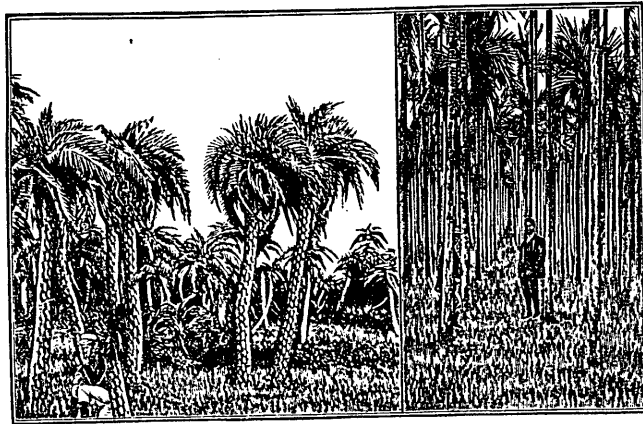
産業  
は茶  
(烏龍  
茶等)  
中部  
は米

第三節 人文誌

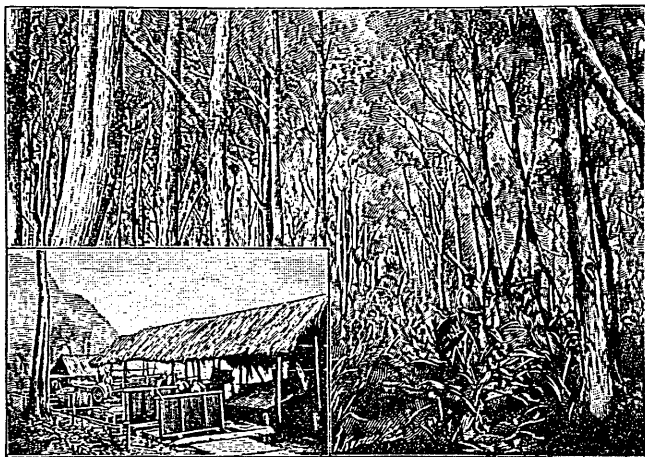
農業が盛で北部の丘地



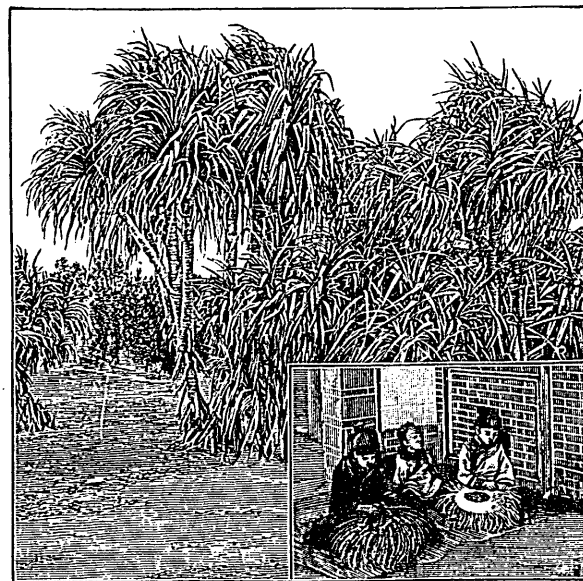
林竹と搬運檜の山里阿



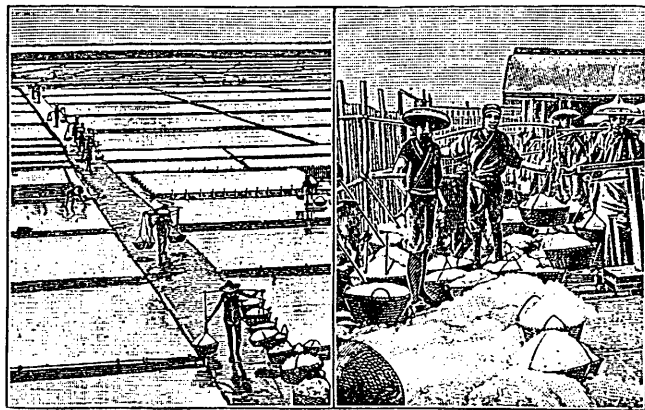
麻抄と樹籐籐



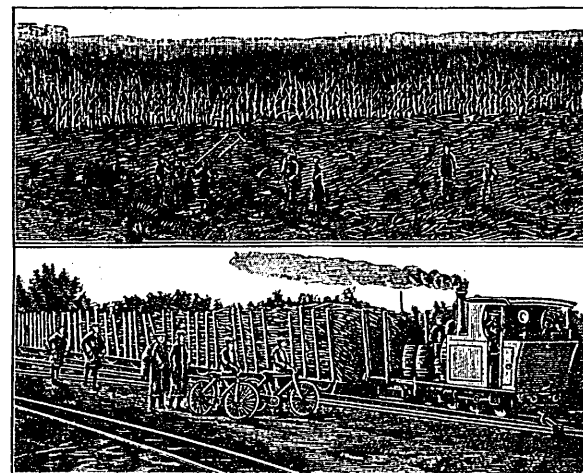
所製粗腦樟と林樟



帽製るよに葉の其と樹役林

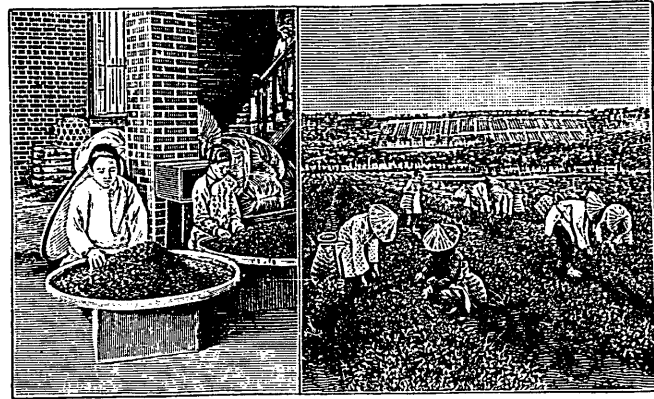


鹽製日天

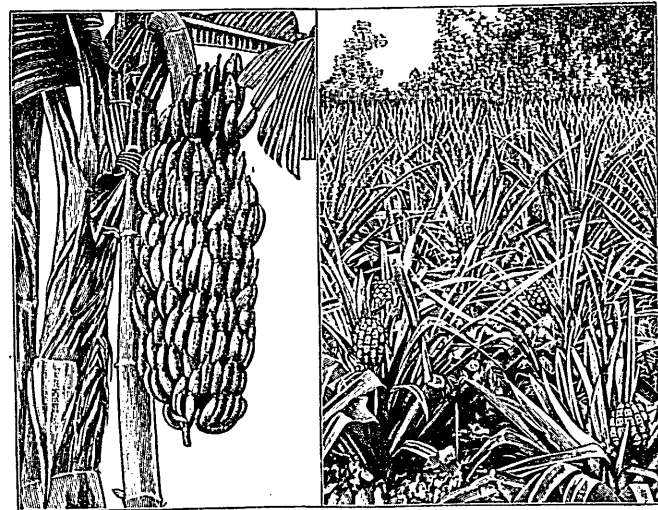


車ハ搬運と園耕の蔗甘





茶製とみ摘茶



ナナバと梨風

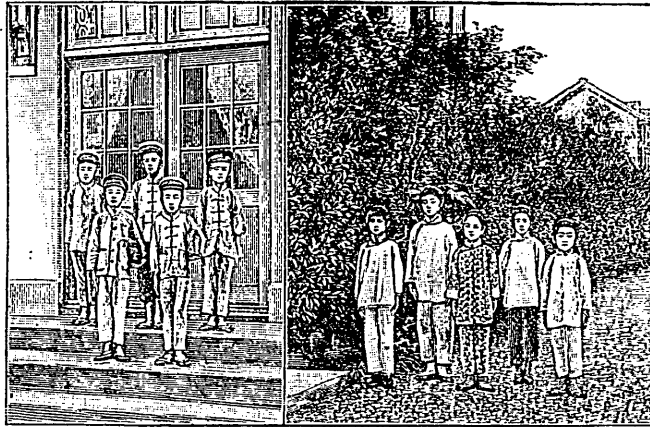
●金瓜石瑞芳等  
○其の他麻類蓮  
草等

水牛は角が大きく  
色が黒い往々人を  
追ひかけて来るし  
かも臺灣の小童は  
よく之を牧する  
耕作運搬に利用す  
る黄牛は體が小さ  
く黄色で肉は内地  
牛よりはまづい  
臺灣人が一本の棒

圖解 漢族の公  
學校男女生(次  
頁参照)

て鷺を指揮し數百  
羽の行列をさせて  
牧するは實に奇觀  
である

×基隆・高雄間  
臺北・淡水間等に  
支線を通ずる  
基隆・鳳山に無線  
電信局がある  
何故臺灣は西岸の  
み交通が発達した  
か

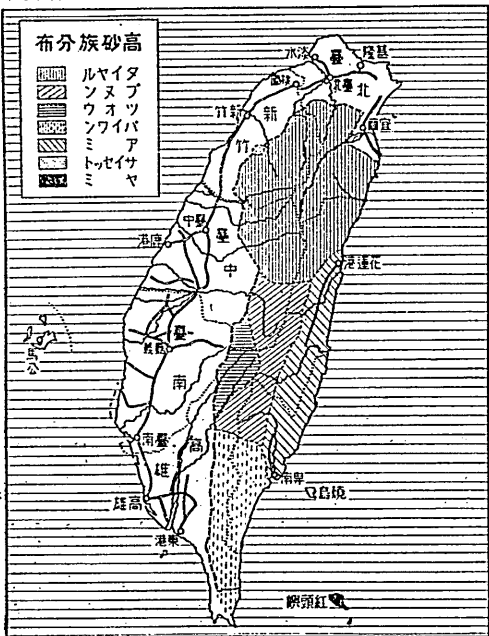


大山等の檜、西岸の天日製鹽、北部  
の金・石炭、硫黄は、著しい産物であ  
る。家畜は、豚、水牛、黄牛、<sup>アヘン</sup>鴉が多い。  
工業は、相當に發達しつゝある。  
交通 日本領となつて以來、著し  
く交通が発達し、鐵道は平地の稀  
なる東部にさへ漸次延長し、西部  
の縦貫線、南部の甘蔗運搬鐵道及  
び私設軌道<sup>(車)</sup>は、特に著しい。汽  
船は、本島諸港間を始め、内地、本島  
間、本島・南支間を連絡する。臺車、  
竹筏<sup>チヤウ</sup>は、臺灣の特殊交通機關であ  
る。彼の輪<sup>ワ</sup>は今は少なくなつた。



住民 住民は漢族が主で、内地人と共に、概ね平野に住みて、農商に於ける勢力が大である。

人口 約四百萬  
内地人 十八萬二千  
高砂族 八萬四千



高砂族は、馬來種に屬し、一時山地に據りて、兇暴を逞しうしたが、次第に内地の文化と勢威とに畏服して、今は一般に平穩になつた。

| 一万里の人口比較         |       | 全國 | 内地 | 臺灣 |
|------------------|-------|----|----|----|
| 同積四、三九〇、五五二、四九九六 | 二、三三二 |    |    |    |
| ●                | ●     | ●  | ●  | ●  |

\* 渡島後志右衛門  
天鹽・北見・釧路  
日高・十勝・釧路  
根室・千島

北海道の位置と人文との關係はどうか

下圖解 北海道  
本島東西斷面圖

上圖解 北海道  
地方地圖

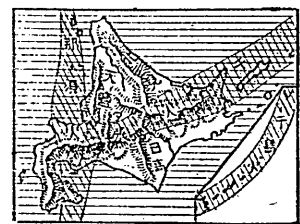
\* 渡島・檜山・後志  
膽振・石狩・知上  
川・留萌・宗谷・網走  
根室・釧路・國河・西・浦河

## 第八章 北海道地方

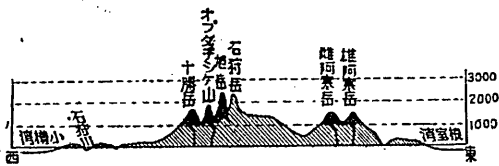
（オホーツク海・千島海峽・太平洋・津軽海峡・日本海）

### 第一節 地文誌

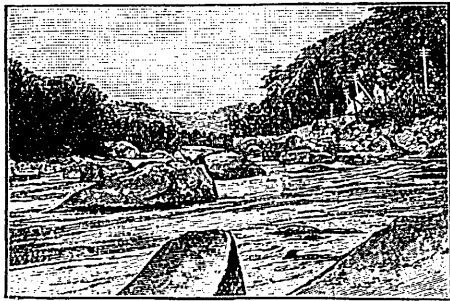
地域 太平洋・オホーツク海間の千島諸島は、露領勘察加半島に向つて、國後・擇捉・樺太などの島々が、魚列の如くに連り、赤鯔形の北海道本島は、帝國第二の大島で、津軽海峡を隔て、本州に、宗谷海峡を隔て、樺太に對し、軍事上、經濟上重要な地方である。行政上、六市（函館・小樽・札幌・旭川・室蘭・釧路）十四支廳に分れてゐる。



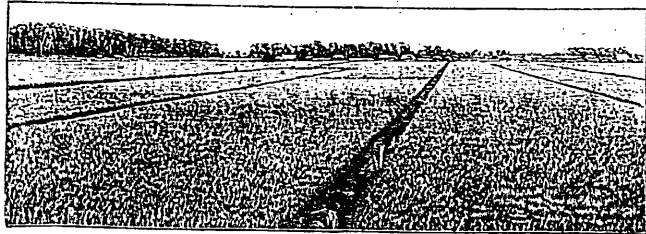
地勢 並列して縦走する北見・天鹽・日高・夕張の山脈と、横走する千



島火山脈とは、本島の中央部で十字形に交り、そこに旭岳・石狩岳等が峙つて居る。石狩・天鹽・十勝・釧路の



四大川も、此の附近に發し、各平野を開いて、植民の來るを待つて居る。



中園澤 北海道  
角田村 開墾水  
下園澤 西北山  
地より見た十勝  
平野  
上園澤 石狩川  
中流の神居古潭  
\*中流に神居古潭の峽流がある  
石狩川の人文發達に及ぼした影響

西別川は雄の産地

上園澤 マツカリ  
下園澤 國後島の爺岳と大沼附近の胸岳

\*蝦夷富士又は後方羊蹄山

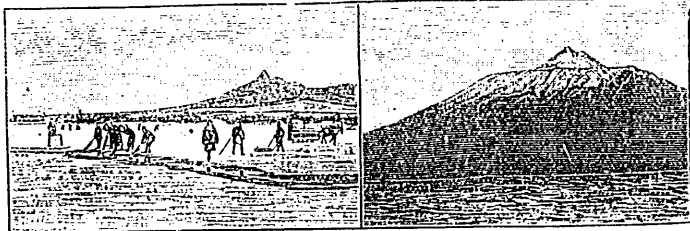
\*登別定山溪等

北海道の海岸線を描き重なる岬角、港灣を記入しなさい



い。海岸は出入が少なく、西南の半島部以外は、概ね弓形の沙濱をなし、東部には砂嘴や澤

狩川は、帝國屈指の長流で、流域の石狩平野は、廣大肥沃にして能く開拓されて居る。西南部の内浦灣附近には、那須火山脈中の樽前嶽・マツカリ嶽・有珠嶽・駒岳等の火山が聳えて、支笏洞爺の二湖を湛へ、温泉も多



△函館内浦二灣  
間は本道の最狭部

北海道の東南部の  
比較的寒冷なる所  
以を述べなさい

湖(氷湖)が多い。宗谷襟裳二岬は、赤鱈の兩鰭をなし、頭部の知床(知床)花咲(納沙)二半島間に根室灣、尾部(半島)に、内浦函館の二灣がある。島嶼は、千島列島以外に、奥尻利尻禮文等がある。

氣候 一般に寒氣が稍強いが、雨雪は、羽越地方よりも少ない。中部は、寒暑の差が多く、西北岸は、東南岸に比して、割合に溫和多雨である。

第二節 處誌

本地方の門戸たる函館市(港開)は、水産物の輸出が多く、要塞があつて、大湊と共に、津輕海峡の鎮である。明治維新史に名高い五稜廓の外濠では、北方の雄大な大沼公園と共に採氷が行はれる。

×港灣の設備が  
稍整つてゐる

函館と小樽とを比較しなさい

西岸の福山・江差・  
海都岩内・余市増

毛留別・能内等は  
漁港殊に余市・増

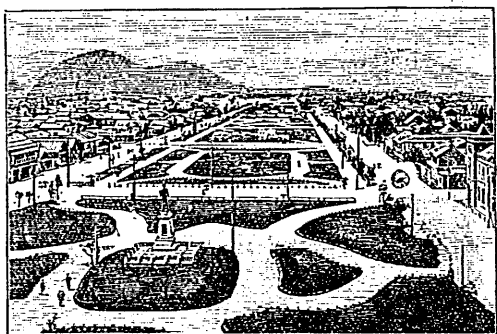
毛は鱈の大産地  
△市街は自然の形

勝を占め、アカ  
蘭解 冬季の室

蘭港 シア・楡樹等があ  
つて歐米の都市を

夢見せしめる

×北海道炭礦汽船



江差照るく、函館くもる間の福山花が咲く

(館誌)

開港小樽市(高商)は、石狩平野の門戸で、商業が盛である。船舶の出入、物貨の集散が多い。

石狩平野西部の  
札幌市(道廳所在地)は、  
豊平川に跨つて、  
街衢がよく整ひ、

麥酒・麻布製粉煉乳製材の工場がある。石狩平野の東方山地には、夕張・幌内等の炭坑が多い。内浦灣岸の開港室蘭市は、多く其の石炭を輸出し、又日本製鋼

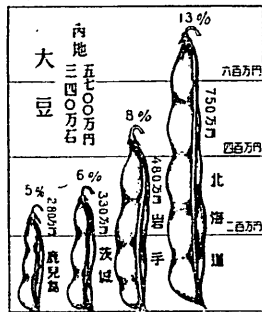


アイムストロング  
兩社等合同事業  
苦小牧に製紙場が  
ある

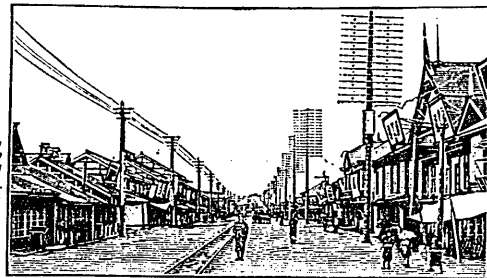
上國解 旭川の  
師岡通 根室の  
下國解 根室の  
昆布乾燥

△石炭・水産物の  
移輸出港

所の所在地である。  
旭川市(第七師團司令部)は、上  
川盆地の中心で、醸造  
製材・木工品などの諸



工場がある。宗谷海峡附近の稚内は、樺太に渡る要津で、鴻  
舞は砂金を産する。帯廣は、大豆産の中心地である。釧路  
川口の釧路市は林産物、厚岸は牡蠣、昆布の集散地である。  
根室は、花咲を補助港として、水産物の製造取引が多く、千島



千島列島の地理上  
の価値はどうか

南瓜・甜瓜・落如・  
大根・牛蒡百合・人  
参・除蟲菊等の産  
が頗る多い

△宮内省新冠牧場  
日高種馬牧場

に對する要地である。千島列島は、水産(魚類)が多く、樺  
に、紗那の漁港がある。千島海峡附近の占守・阿頼度(アイヌ)の二島は、  
臺灣の花嶼・七星岩と共に、各、我が領土の四極の一である。

### 第三節 人文誌

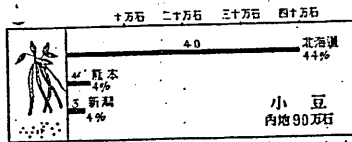
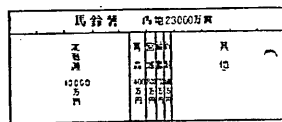
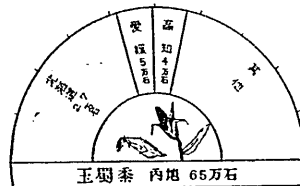
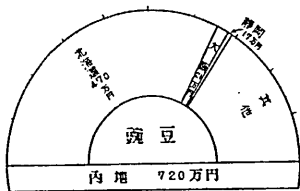
産業 米・麥・豆類・主蜀黍・黍・蕎麥・馬鈴薯(原粉・酒・菜種)・玉葱・甘藍・亞

麻・薄荷・櫻桃・林檎  
を産することが

多く、日高・石狩の  
原野は、牧畜が盛

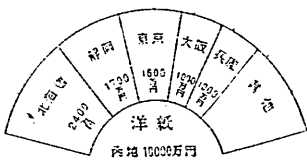
である。山地の  
蝦夷松・榎松・白楊

(北東)石炭・硫黄は、



冬季は樺の利用が鐵道である。鐵道の延長港灣の修築折衝の經營は本道發展の根本何故濃霧・流氷が生ずるか旭川・釧路に鐵道工場がある北海道の主要なる鐵道線路を擧げな

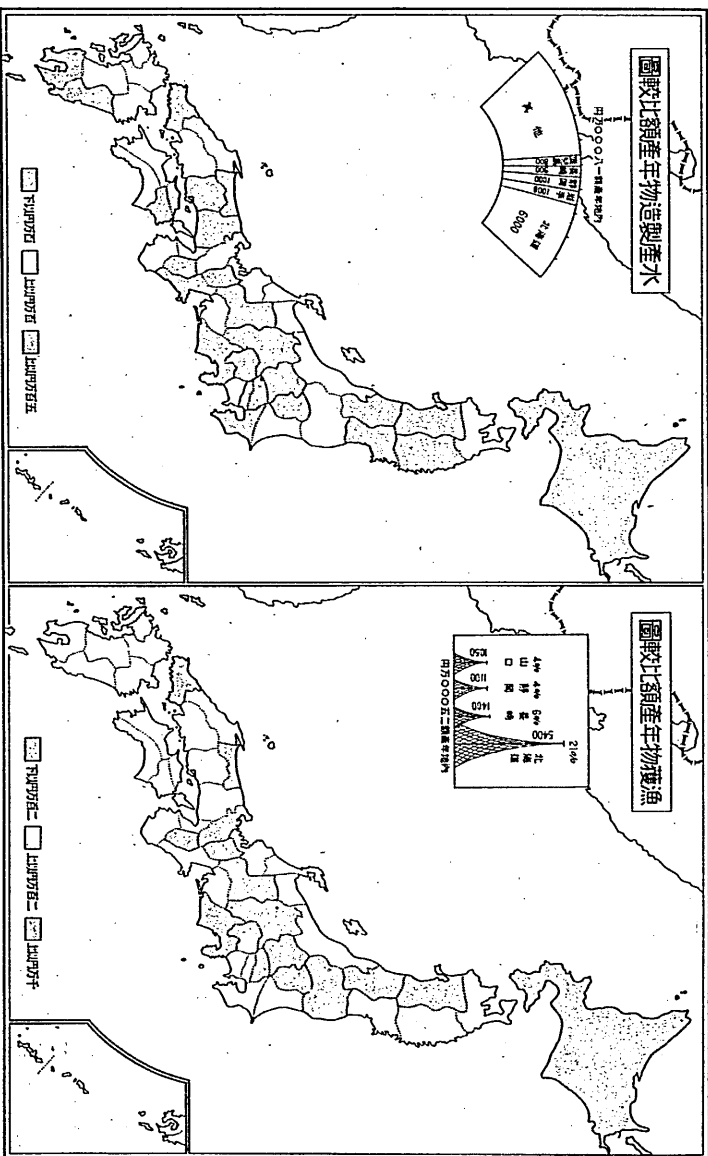
落石・稚内・石狩・幌筈に無線電信局がある北見・天鹽方面は新進の都邑が多い。

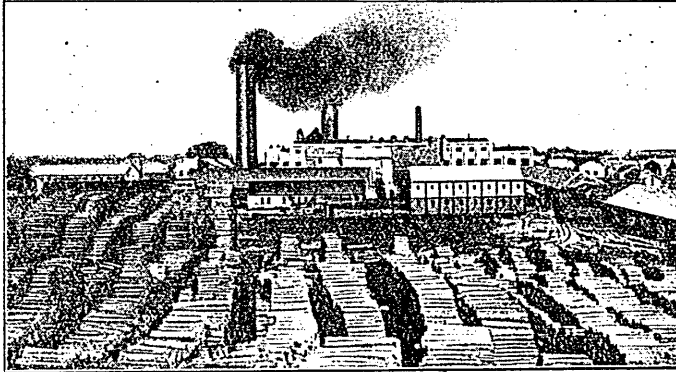
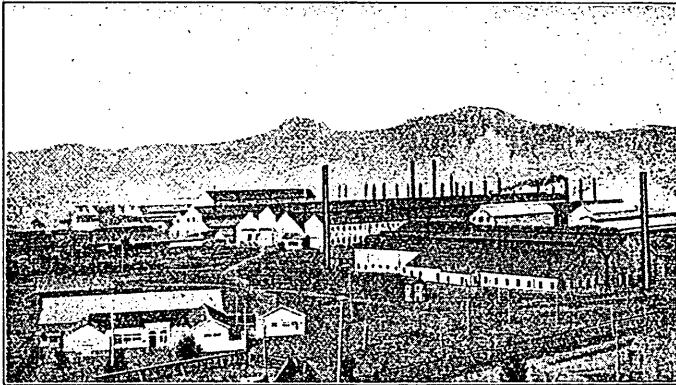


る。

蘭釧路根室の五開港を中心として、稍發達したが、濃霧(ノリムラス)（夏季）と流水(春)（春季）とは、航海者の苦しむものである。函館に起る函館線は、旭川に達して宗谷線と接續し、中途岩見澤(四鐵道會點)で室蘭線、瀧川で根室線、深川で留萌線と接續し、又根室線は、網走線と、旭川に至る支線とを分岐してゐる。

住民 政府は開拓の根本として、内地人の移住を奨励し、今





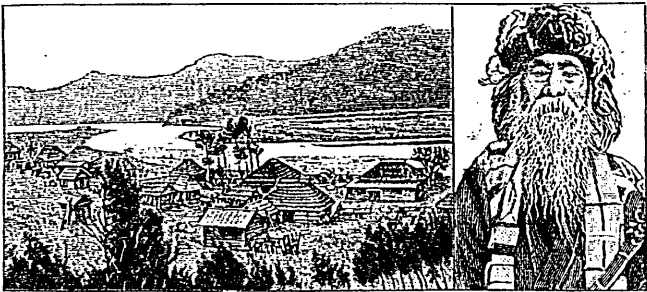
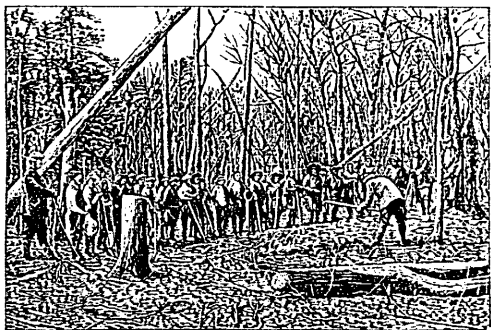
場糖製菜甜廣帶(下) 場紙製別江(中) 所製製本日の爾室(上)

× 松に似た木の樹皮で縫つたもの

|           |    |    |     |
|-----------|----|----|-----|
|           | 全國 | 内地 | 北海道 |
| の人口比較     | .  | .  | .   |
| 一里の方      | .  | .  | .   |
| 面積四、三九八方里 | .  | .  | .   |
| 二、四九九六    | .  | .  | .   |
| 五九八七      | .  | .  | .   |

や人口は二百萬を起ゆるに至つたが、在來のアイヌ人は、二萬人に満たない。

アイヌは蝦夷の子孫で、日高國沙流川附近の平取に多く、一般に骨骼は逞しいが、性質は温和である。男子は、多くの頭髮鬚髯を蓄へ、有夫の女子は、口邊に黥する遺習がある。衣服は、アツシで作られ、筒袖で裾が短く、概ね脚絆を穿ち、熊を射、鮭





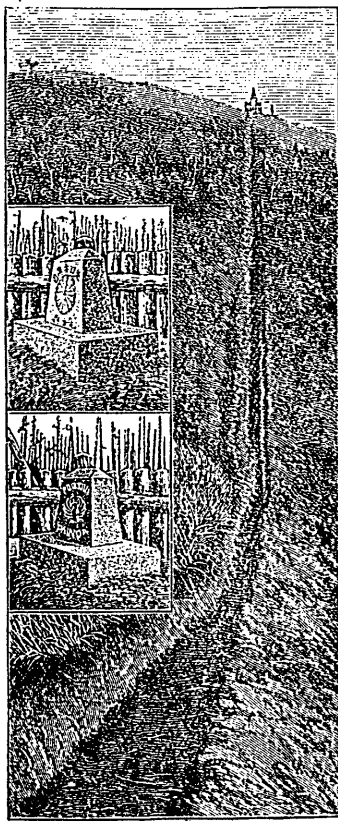
鯨等の魚類を捕へ、粟稗等を作りて、わびしい月日を送つて居る。

第九章 南樺太地方 （露領オホーツク海、  
樺太海峡、宗谷海峡）

第一節 地文誌

△國境 樺太の間に幅九米の林空を造り境界石が置かれてある

圖解 樺太の日露境界に於ける林空作業と境界標石



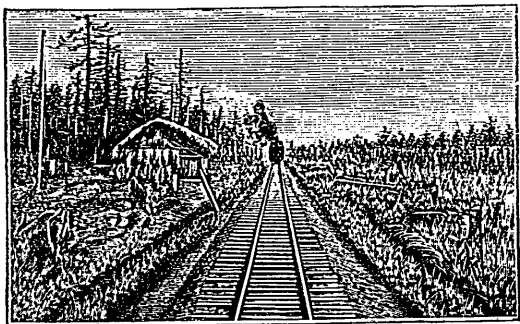
地域 北海道本島の北にあつて、南北に長く、北緯五十度線で露西亞領と境し、西は、露西亞領の西、比利亞に對して居る。林産・水産が多く、將來發展すべき有望の地方である。地勢 低夷なる東部（東樺太山脈、鈴谷山脈）、西部（西樺太山脈）の二山地が縦走し、

圖解 樺太地方地勢圖

南部に鈴谷・内淵二河域の鈴谷平野がある  
\*多來加・富内などの澤湖が多い

上圖解 南部の鈴谷平野（林相にも注意せよ）  
下圖解 海狗島と鯨豚歌群棲

樺太の地勢を示す略圖を作りなさい



る。海岸は、屈曲少なく、中知床・西能登呂・二岬間に亞庭灣・北知床岬の西に、多來加灣がある。島嶼は、海獸産地の海狗島（鰐虎鰐）・海馬島（鰐鰐）のみが著しい。氣候 冬季は、長



\*不凍港は真岡・本斗  
何故樺太は氣候が  
寒冷なるか

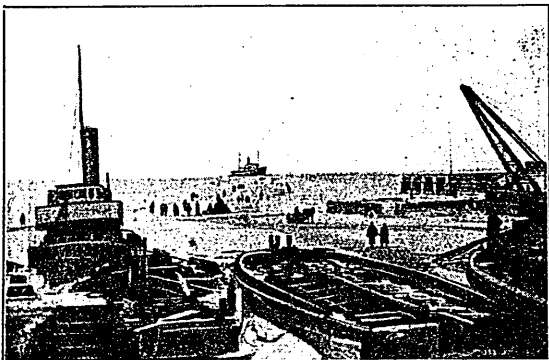
圖解 氷結せる  
大泊

\*大泊・稚内間の  
連絡航路は八時間

圖解 樺太神社  
より見た豊原

豊原は幌内平野の  
門戸で鉄道を集散  
し銚子の中心年  
平均温度零下一度

久春内・北名好は  
間宮海峡の要津

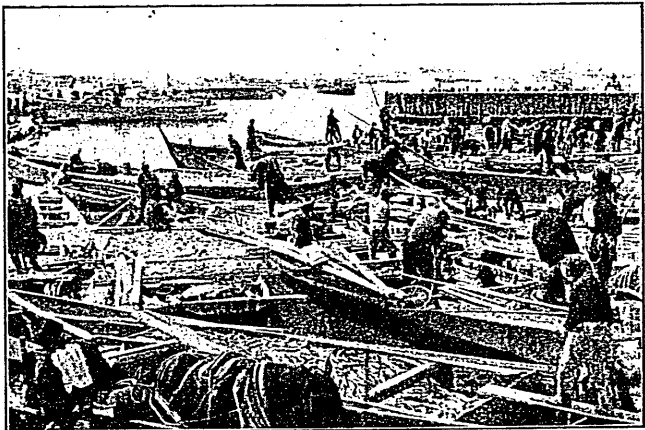
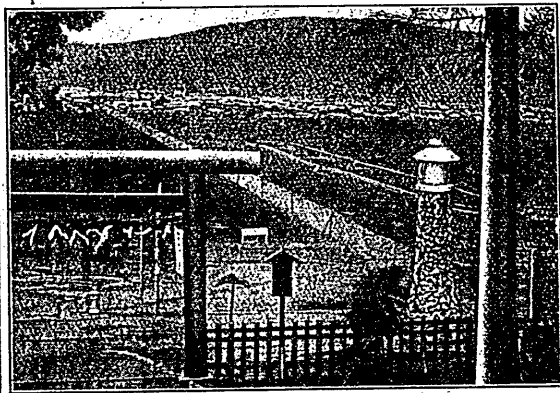


くて寒氣が強く、海灣は概ね氷結し、  
海底電信碎氷船によつて漸く内地  
と音信する。但し雨雪の量は少ない。

第三節

處 誌

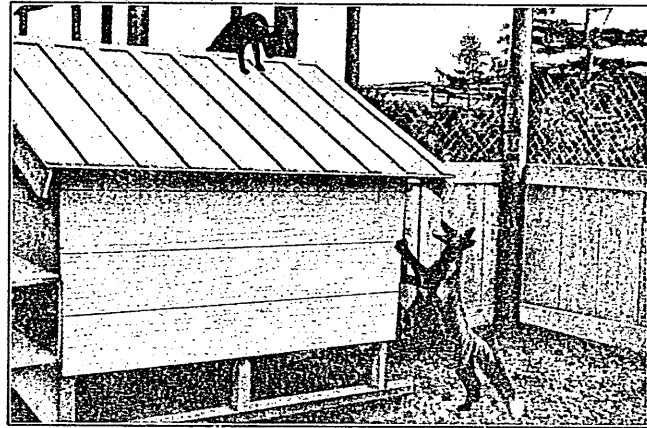
亞庭灣頭の  
開港大泊は、  
内地より本  
島に入る要  
地、鈴谷川  
上流の豊原は樺太廳の所在地であ  
る。大泊に起る鐵道は、ここを過ぎ  
て北方の榮濱に達する。眞岡は、不



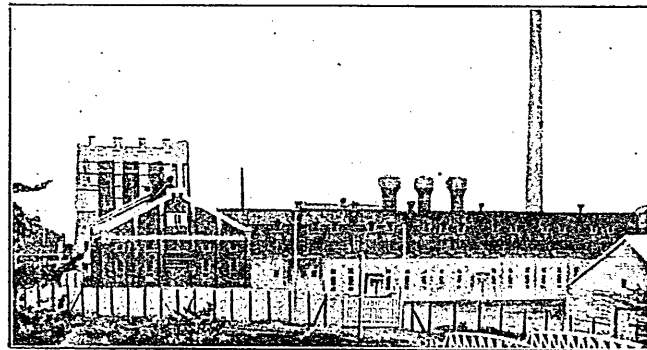
げ 揚 陸 卸



登 洗 の 材 木



狐 養



場工パルバの田野

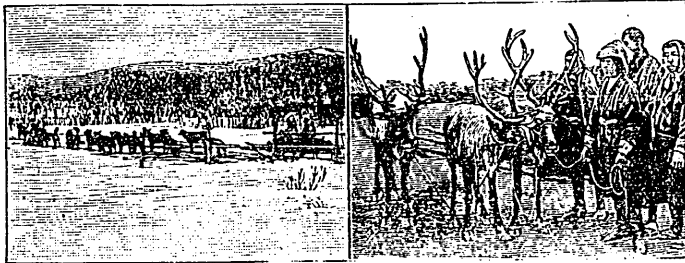
東港で、本島第一の漁業地、鯨漁が盛である。  
本斗は、將來、築港成らば、本地方唯一の良港  
とならう。野田は、海岸線の終點で、最新式  
のバルブ工場がある。

### 第三節 人文誌

根松最も多く、帶  
地を除き、到處に  
密生する蝦夷松は  
山麓の傾斜地に多  
い。  
圖解 馴鹿と犬  
松  
バルブ工場は大  
泊・豊原・落合・野  
田・泊居・内路・敷  
香・東知取・真岡な  
どにある。

＊全島沿岸を約二  
百漁區に分ち、毎年  
入札して貸下げる。  
＊樺太鐵道本線  
（小沼・川上・炭山地  
方間大泊・築港間）

産業 氣候の關係上、農産は少ないが、蝦夷松、  
蝦夷松落葉松の所謂原生的自然の密林も  
ある。鯨、鯔、鮭、鱒、昆布、海獸（熊、鹿等）等の水産は、  
無盡藏といはれるほどで、漁期には、内地か  
ら出漁する漁民が多い。鑛産は、石炭、石油  
が有望である。  
交通 道路、鐵道は、漸次發達し、土人は、犬、樺



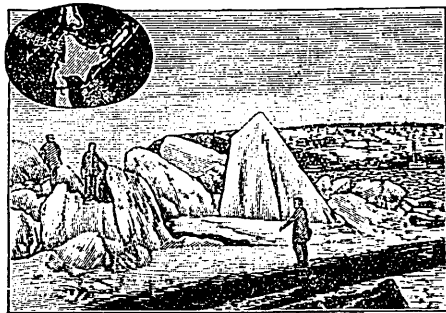
樺太鐵道海岸線  
(本斗・野田間)等  
大泊に無線電信局  
がある

大樞、馴鹿樞につ  
き知れることを語  
りなさい

圖解 吹きよせ  
られた流水

大泊本斗・真阿・翌  
原泊居・元泊敷香  
の七支座がある

住民約二十萬  
樺太の住民につ  
き述べなさい



馴鹿樞を使用する。内地との航通は、稍盛であるが、近海は、冬季に氷結し、春季に流水の漂ふ缺點がある。

沿革 樺太は、はじめ日露二國の共屬地であつた。我が國は、明治八年に、露國と協議して、千島大部と、本島全部とを交換したが、明治三十八年、本島南部を、再び我が領土とし、今は更に、北部にも勢力を及ぼして居る。

住民 今や露國人は、殆ど退去し、土人も、北部にギリアーク・

オロコ、南部にアイヌ(阿伊努)が、少數居るのみ、内地人は、漸次移住し、殊に夏季には出漁者が多い。

| の比較        |       | 全 國   | 内 地   | 樺 太 |
|------------|-------|-------|-------|-----|
| 一 万 里      | 一 人 口 |       |       |     |
| .....      | ..... | ..... | ..... | 45人 |
| 面積四三六〇万平方里 |       | 二四九六  | 一一四〇  |     |

第十章 朝鮮地方  
隣國 露國 西比利亞 日本海  
朝鮮海峽 黄海 滿洲

第一節 地文誌

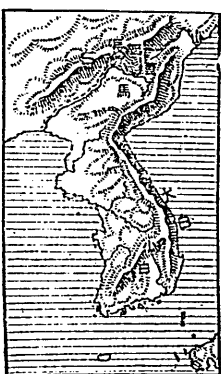
朝鮮の位置と人文  
との關係はどうか

圖解 日露支境  
上の豆滿江

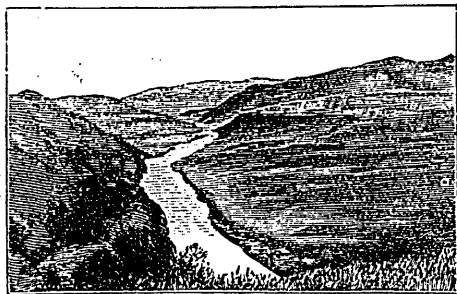
圖解 朝鮮地方  
の地勢圖

地境 亞細亞大陸東部の兎形(ウサギガタ)の一大半島で、東より東南にかけては、本州(中國)九州に向ひ、北は豆滿江、白頭山、鴨綠江によつて、露領西比利亞又は支那領滿洲と境し、面積は、本州のそれに近い。

地勢 南部は、名高い金剛山のある大白



山脈が、東海岸を走り、日本海に向つて急斜するのて、河流は、概ね山



朝鮮の地勢を表示する略圖を描きなさい

＊長白山脈・妙香山脈などて熔岩の蓋馬臺地もある

鴨綠江 永結した

朝鮮の主要な島嶼港灣を挙げなさい

△無線電信局あり

脈の西側を流れ、漢江・錦江・榮山江等は西流し、洛東江は南流して居る。北部は、大同江域に平野があるが、東北より西南に向へる數條の山脈があつて、概ね土地が高峻で、就中長白山脈中の白頭火山は、本地方の最高峰である。これから發源する鴨綠、豆滿二江の上流地方には、森林がよく茂つて居る。日本海岸は、出入に乏しくて、永興・迎日二灣と、鬱陵島とがあるに過ぎないが、朝鮮海峽・黃海の方面は、屈曲・島嶼に富み、殊に西南海上は、朝鮮多島海とさへ呼ばれ、最大なる濟州島などがある。又黃海岸は、潮汐干満の差



△七八月の候は雨量が多い  
三寒四溫とは如何なることか

概要なる官吏は概ね内地人である

道と道廳所在地

慶尙南道 釜山

全羅南道 大邱

忠清南道 全州

忠清北道 公州

京畿道 京城

平安南道 海州

平安北道 新義州

江原道 春川

咸鏡北道 成興

＊内地の町村に相當する

朝鮮の政治區劃を表示する略圖を描きなさい

釜山・新義州間汽車行程二二時間

が多くて、十米に及ぶ處がある。

氣候 南部は、海洋の影響を受けて、溫和であるが、一般に、寒暑が強くて、雨量が少なく、北部の河川は、冬季に氷結して、車馬を通ずる。又氣候が激變して、三寒四溫の語さへある。

### 第二節 處 誌

政治 朝鮮總督は、民政全部を統べ、政務總監それを補佐する。地方を十三道に分つて、各道に知事を置き、其の下に二府(京城仁川、蔚山、大邱、釜山、海州、元山、清津)に府尹、數多(三郡)の郡に郡守、郡の下に面に而長、島に島司が置かれてある。

明治四十三年朝鮮總督府設置以來産業の振興、交通機關の發達、教育の進歩衛生狀態の改善、司法制度及び警察の整備等に力を盡し、庶民をして永く治平の處に領らしむることを期してゐる。

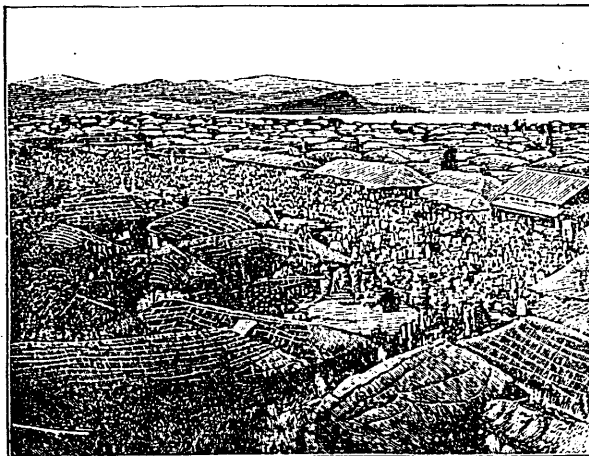
都邑 朝鮮海峽岸の釜山は、本地方第一の開港内地との交

\* 要港部は佐世保  
のそのの産物  
\* 要港地帯

圖解 大邱の大  
市(民屋にも注  
意せよ)

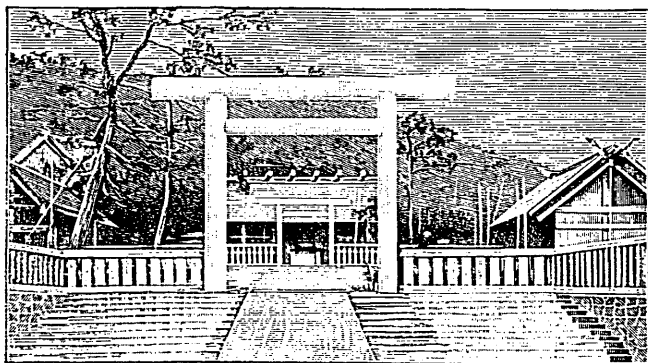
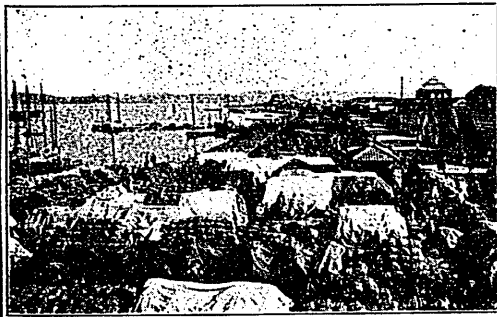
圖解 群山港

△無線電信局所在

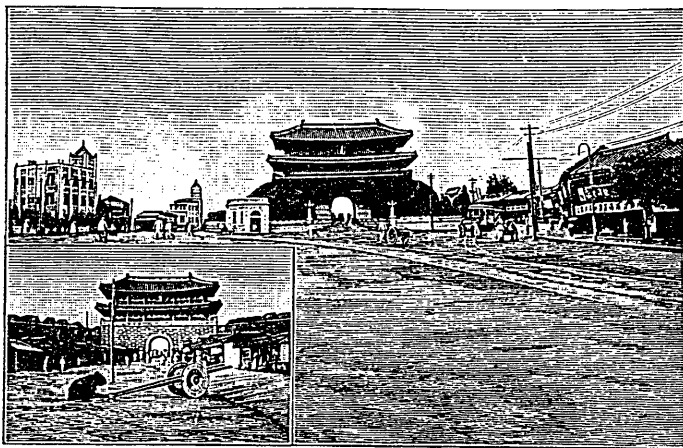


ある。榮山江口の開港<sup>△</sup>群山は、米の積出が多  
物、又錦江口の開港

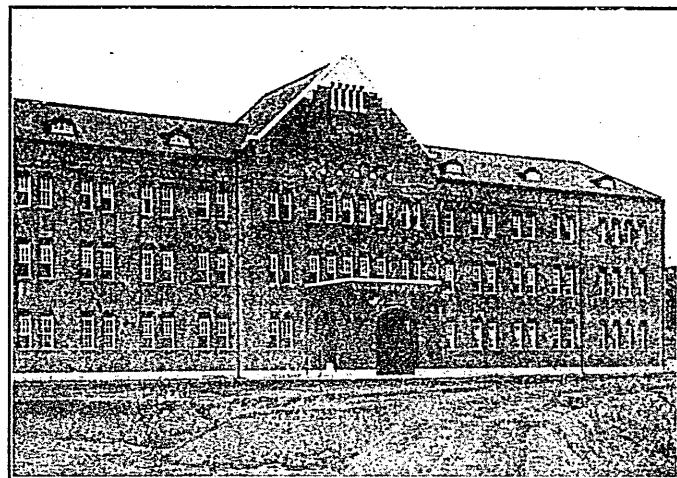
通商業の要門である。鎮海灣岸  
に、馬山と海軍の要港なる鎮海  
とがある。洛東江平野の開市場  
大邱<sup>(舊法院所在地)</sup>は、春市秋市の開張  
地として名  
高く、また農  
産物の集散  
も多い。  
大田は米産  
地方に興つ  
た新市街で



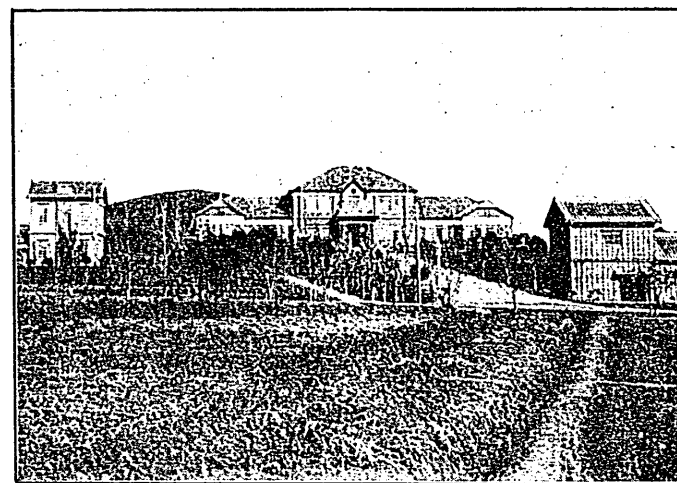
朝鮮神宮



南大門附近の昔



朝鮮大學



朝鮮大學の水源

東京・京城間汽車  
行程約四七時間  
△無線電信局所在  
×大學・高商・高工・  
醫專

圖解 人參の耕  
圃と葉と根

△飛行第六聯隊の  
所在地  
釜山・京城・平壤の  
特色を述べなさい

く、共に相俟つて湖南地方の門戸をなし、且つ近海漁業の二  
中心である。黄海岸の開港仁川は、京城の咽喉なるも、港口  
水浅き爲、閘門船渠式の築港成り、米・人參・牛皮等の取引が多  
い。漢江岸の京城(李王宮、朝鮮總督府、高等法院)は、半島の中央にある  
最大の都市、開市場で、朝鮮に於ける  
政治・經濟・學術の中心地である。西  
南部の龍山(京城の區)は、交通上、軍事上の  
要地(第二十師司令部)である。

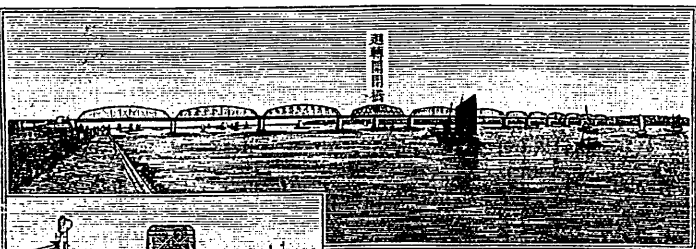
南方の水原は、勸業模範場の所在地、  
北方の開城は、人參を産する。沙里  
院は、農産物の取引が多く、大同江岸  
の開市場たる平壤は、形勝の地位を  
占めて、文祿・日清の兩役に名高く、東





上圖解 鴨綠江  
の鐵橋  
下圖解 清津港  
(次頁参照)

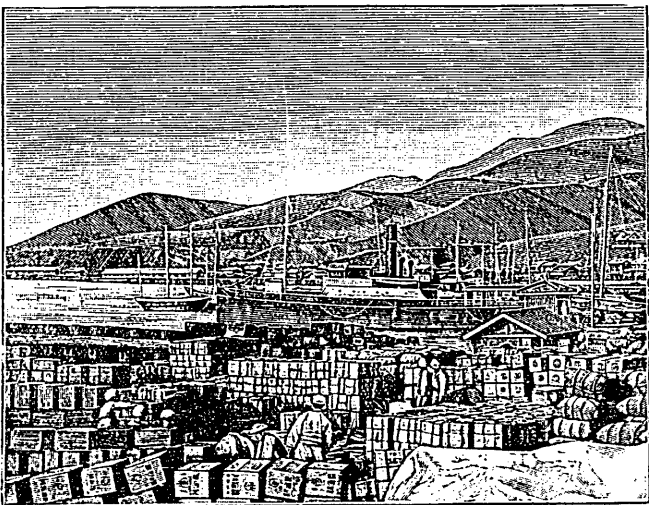
\* 東京より鐵道の  
延長約一千哩  
(東京・下關間七百  
二哩八釜山・京城  
間二百八十哩六)



方に炭田西方  
に兼二浦江口  
に開港鎮南浦  
を控へて、商業  
が盛である。  
鴨綠江畔の開  
港新義州は鴨

綠江  
上流  
の木  
材を  
集散

し、安東縣(湖)との間に、回轉開閉式の



△延長約千二百米

\* 滿洲の吉林と會  
寧との間

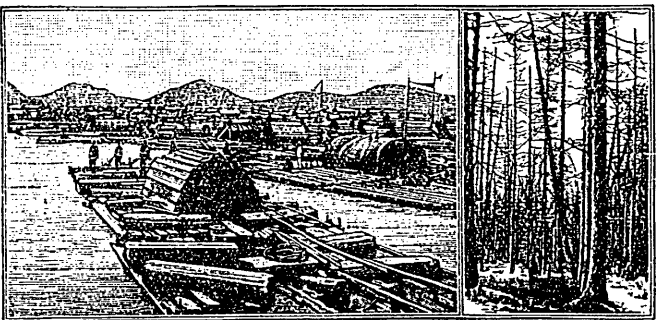
圖解 鴨綠江上  
流の林相と木材  
積下し

△全羅南道を第一  
の産地とする  
蠶業も近時發達し  
た  
北鮮では蠶絲をな  
すものが多い

△大鐵橋がある。元山は、東岸第一の開港で、城津清津雄基も  
東岸の開港である。羅南は、第十九師  
團司令部の所在地として知らる。北  
邊の會寧は、軍事交通貿易の要地、又一  
部敷設された吉會鐵道の起點として、  
前途、有望な處である。

### 第三節 人文誌

産業 土地と氣溫との關係上、農業に  
適して、之に従事する者が多い。米・麥・  
大豆・人參・綿・煙草・果實等の産が多く、牧  
牛が盛で、牛肉・牛皮・牛骨を産出する。  
鴨綠・豆滿の二流域地方は、森林に富ん

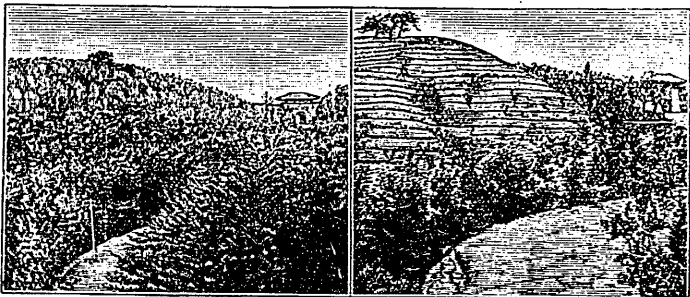


朝鮮の産物の分布  
圖を作りなさい

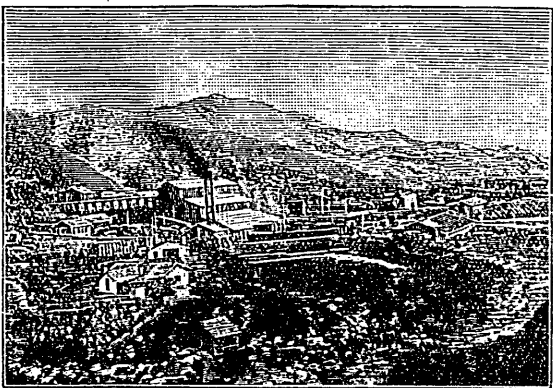
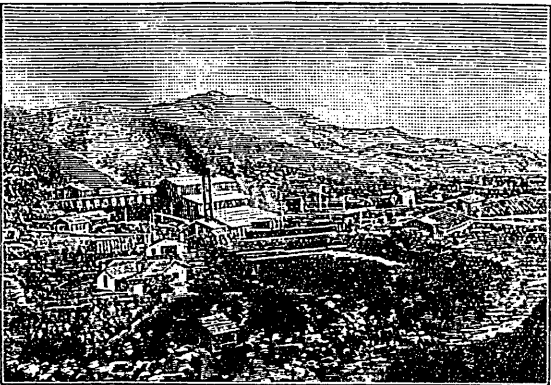
荒れはてしこの山  
川をいかにして我  
が大君の旨に答へ  
む  
寺内正毅

下圖解 雲山金  
坑  
上圖解 造林  
(右)初年度(左)  
十二年目

・ 鎮南浦に製鍊所  
袋二浦に製鐵所が  
ある

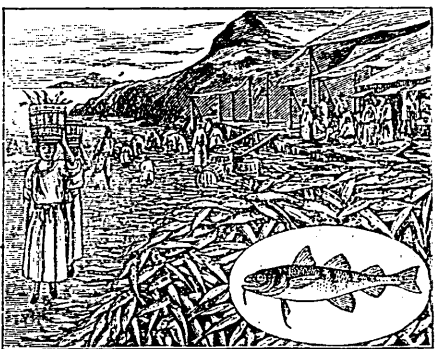


て其の伐採も盛  
に行はれてゐる。  
其の他の地は濫  
伐の爲、赭禿<sup>シバ</sup>地が  
多かつたが、總督  
府設置以來、林政  
に力を用ひたの  
で、林相が漸次よ  
くなつた。 鑛<sup>クワン</sup>産  
に、金<sup>（雲中達安）</sup>、鐵<sup>（鞍山）</sup>、  
鉛<sup>（平壤）</sup>などがある。  
朝鮮海峡では鯛、鰻、  
黄<sup>（シ）</sup>海では石首魚、鮓<sup>（サ）</sup>が、



朱安も製鹽地として名高い開港場と開市場との差異

圖解 明太魚  
(前頁參照)

[illegible]

多く漁獲せられ、廣梁灣附近では、天日製鹽が行はれてゐる。商業は、主に開市によつて行はれ、三個の開市(京城平壤大邱)と、十一個の開港(釜山、木浦、群山、仁川、鎮南浦、龍岩、浦新義州、元山、城津、蔚津、雄基)とがあつて、内地との移出入が、年々に増加する。

交通 交通は、内地に遜らざるまでに  
 發達した。鐵道は、概ね廣軌<sup>（軌幅四呎）</sup>で  
 京釜・京義二線は縱貫線をなし、尙ほ馬山・湖南・京仁<sup>△</sup>・京元<sup>△</sup>・平南  
 咸鏡等の諸線がある。汽船は、諸港間又は諸港と内地北支  
 那浦鹽斯德とを連絡してゐる。



|    |    |    |
|----|----|----|
| 全國 | 内地 | 朝鮮 |
|----|----|----|

住民 朝鮮人は容貌が内地人によく似てゐる。言語は、普通諺文ソオンモンを用ゐてゐた。

|              |                |        |
|--------------|----------------|--------|
| 面積<br>四三九六方里 | 一方里の人口比較       | 全<br>國 |
|              | ● ● ●<br>● ● ● |        |
| 二四九六         | ● ● ●<br>● ●   | 内<br>地 |
| 一四三二二        | ● ● ●          | 朝<br>鮮 |

圖解 朝鮮人の一風俗

が内地人の移住(約四〇)と教育とによつて漸次内地語が普及されて來た。

朝鮮よりの略信。

圖解 朝鮮の女子と洗濯

朝鮮人は男女を問はず、多くは白衣を着し、長煙管を携へてゐる。由來、早婚の弊が甚しく、無妻者は、老人と雖、童蒙と呼ばれて、衆人より侮蔑せられる。藁葺の陋屋に住み、遊惰安逸であつたが、少しく改まつて來



た。食物は、米、粟、豆を用ひ、溫食を好み、多く辛香類を用ゐる。女子の多くは、男子の殘飯に甘んじながら、白衣の洗濯に一生を捧ぐるかの如き觀があるが、最近では、教育を受けるものも多くなり、漸く目醒めて來たやうである。

## 第十一章 關東州

### 第一節 地文誌

面積 三三、〇〇〇平方里(元方里)

地域 關東州は、日本の租借地で、支那滿洲に於ける遼東半島の西南端を占め、歐亞連絡の一要地である。  
地勢・氣候 丘陵の多き小地域なるも、海岸は屈曲が多い。  
氣候は、寒暑の差が大で、海岸には、氷結する所がある。夏は、氣温が高く、雨が多い。

### 第二節 處誌

\*無線電信局所在  
旅順・大連兩市の  
特色はどんなか

圖解 大連の埠  
頭



旅順市(工科大)は、自然の要害地  
て、關東廳の所在地である。  
新(西)舊(東)の二市街に分れ、西  
港は開港場である。大連市  
は、貿易の盛なる港を有し、南  
滿洲鐵道の起點、滿洲最要の  
門戸で、市街・港灣がよく整備  
せられてゐる。

### 第三節 人文誌

産業 平地乏しく、地味不良  
で、生産力が乏しいが、海岸で  
は、水産業が稍盛である。近

\*榨油・製粉・製麻  
其の他化學工業等  
關東州の交通上重  
要なる所以

△租借期間は明治  
卅一年より九十九  
年間

面積 二〇〇〇平方  
(二〇方里)  
人口 五萬四千

時大連には、各種の工業が勃興した。  
交通 鐵道は大連を起點として、長春で東支鐵道に連絡し  
てゐる。海運も亦盛である。  
住民 約七十萬で、其の多くは、支那人である。日本人は、廿  
萬に過ぎない。

政治 日露戰役後、我が國が、露國に代つて、租借を繼承し、現  
今旅順に關東廳を置いて、之を管轄してゐる。

## 第十二章 委任統治南洋諸島

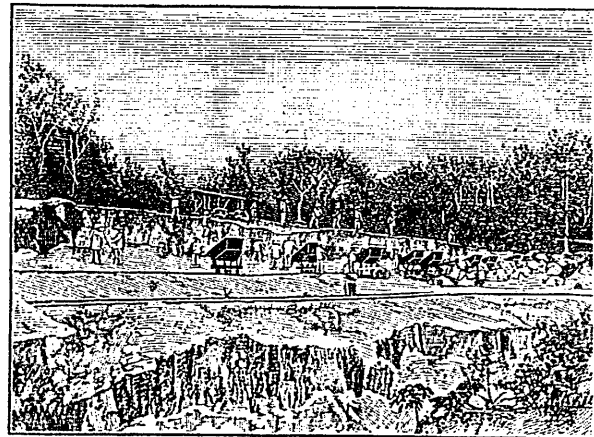
### 第一節 地文誌

地域 小笠原島以南の廣き海面に散布せるミクロネシア  
の大部で、數多の小島から成つて、マリアナ(米領グアム島を除く)、東カロリ  
ナ・西カロリナ・マルシャルの四群島に分れる。

圖解 アンガウル島の煤鐵採取

南洋群島の重要な  
所以を考察しな  
い  
横濱港より南洋  
へ如何にして行  
か

\* 南洋煤鐵採取所  
がある



地勢 各群島は、珊瑚島が多い  
が、マリアナ群島には、火山島が  
多い。東西カロリナ群島にも  
亦火山島がある。  
氣候 各群島は、熱帶地なるも  
海洋性氣候である。一般に雨  
量が多い。

### 第二節 人文誌

産業 地域が狭小なる上に、地  
味が不良である故、勿論農産が  
少ない。産物は、アンガウル島  
の燐礦、各島のコブラ、貝殻等

圖解 南洋の土  
人

ヤルイト・ボナベ  
トルック・サイバ  
ン・ヤップ・パラオ  
アンガウルの島々  
に無線電信局があ  
る



ある。  
住民 種族は、ポリネシア族が  
最も多く、内地人は、未だ五千餘  
あるのみである。  
政治 もとドイツ領であつた  
が、世界戦争の結果、我が國の委  
任統治に屬した。コロール島  
は、西カロリナ群島中のパラオ  
諸島にある。我が南洋廳は、此の  
島にあつて、本域の全部を管理  
してゐる。

## 第二編 總括

### 第一章 地文誌

山脈は山地の縦きしもの山系は略し並走せる二個以上の山脈の總稱

地形 我が國は、數多の山脈と、火山脈とが連つて、山地が多い。従つて大なる河川・湖沼・平野がない。海岸は、出入・島嶼が多くて、文化發展の一因をなして居る。

山脈 列島部には、東北山系・西南山系の諸山脈が連亘して、兩山系の連接せる本州中部地方は、地積が最も廣く、土地も亦高峻である。半島部には、南部に大白山脈が縦走し、北部には、數條の山脈が斜走して居る。

東北山系 東樺太山脈 西樺太山脈 北見山脈 天鹽山脈 夕張山脈 日高山脈 奥羽山脈  
山系 北上山脈 阿武隈山脈(筑波山) 出羽山脈(羽黑山) 越後山脈 關東山脈(大山)  
(赤石山脈(赤石山)白峯山) 木曾山脈 飛騨山脈(鈴掛立山) 伊吹山脈(伊吹山) 鈴鹿山脈

西南山系 笠置山脈 金剛山脈 紀伊山脈(山上・吾大・臺原山) 吉野山 那智山 高野山 四國山脈(劍山)  
山系 象頭山(石鏡山) 九州南部山脈(祖母山市房山) 中國山脈(逢坂山・六甲山・比叡山) 九州

北部山脈 臺東山脈 臺灣山脈(新高山・次高山)

火山 我が國は、世界有數の火山國である。従つて白扇倒に懸る富士を始め、秀麗なる山嶽が多い。今其の著名なる火山脈と火山とを擧げよう。

千島火山脈 千島列島旭岳

鳥海火山脈 岩木山・鳥海山・月山

那須火山脈 マツカリ岳・八甲田山・岩手山・磐梯山

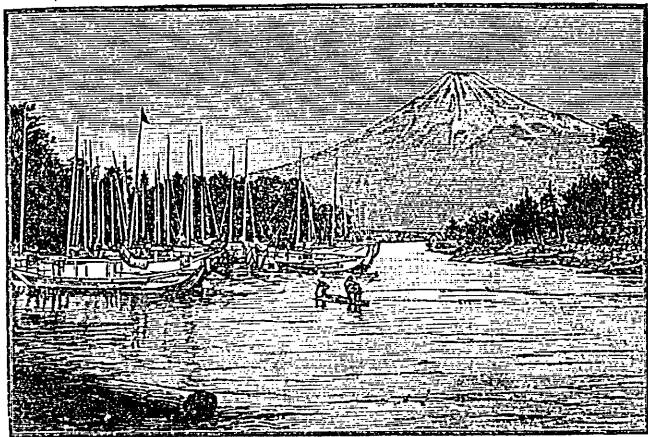
那須山・男體山・赤城山・榛名山・淺間山

富士火山脈 妙高山・八岳・富士山・箱根山・天城山

伊豆七島・小笠原諸島

圖解 田子浦より望んだ富士山

\*列島の一部には水の堆積作用によつて成つた處がある



湯本温泉

圖解 草津温泉  
より望んだ浅間  
山(前頁参照)



乘鞍火山脈御岳乗鞍岳立山(一部)  
白山火山脈白山火山嶺上山三瓶山  
阿蘇火山脈九重山山右岳阿蘇山温泉岳  
霧島火山脈霧島山櫻島山聞聞岳  
温泉 温泉は、概ね火山地方にあつて、單純泉・鑛泉の二種に分れ、鑛泉に、硫黄泉(草津泉)・炭酸泉(寶塚泉)・鹽類泉(湯田山泉)・酸性泉(馬場泉)などがある。  
又熱海・鬼首には、一定時を隔て、水蒸氣熱湯を噴騰する間歇ナツ温泉がある。

河湖 河湖は、概ね交通運輸灌漑  
水力利用の便があつて、都市の成

立・發達に適し、河港湖港を有するものもある。我が國の河

著大の湖沼Ⅱ琵琶湖・霞浦・猿澗湖・濱名湖・猪苗代湖

朝鮮西部の平野は  
數個に分る  
× 海溝の最深部は  
千葉縣布良の南東  
約八十哩東經百四  
十一度十六分、北  
緯三十四度十七分  
である

川は、概ね短小で急流なる故、運輸交通灌漑の便は少ないが大に水力を利用することが出来る。内地の石狩北上利根信濃木曾淀、朝鮮の洛東大同鴨綠などは、稍交通の便が多い。湖沼に、淡水湖鹹湖がある。我が國の湖沼は、概ね廣大ならざれど、其の數多く、且つ大抵は、淡水湖である。

平野 平野の位置が良好で、地味の肥沃なる處は、人類の活躍に適して、農業が榮え、次で商工も賑つて、地方文化の中心となるものである。我が國の平野は其の數は多いが、大なるものが少なく、石狩關東越後濃尾大阪筑紫の諸平野と、臺灣朝鮮の西部にあるものが、稍大なるのみである。

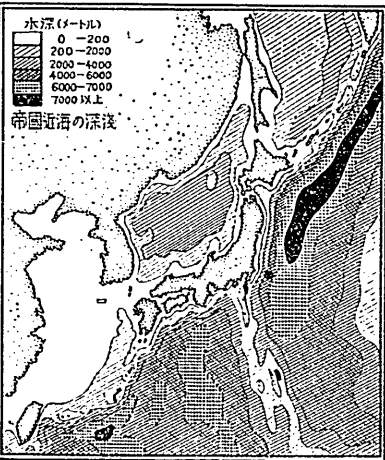
近海　『深淺』　近海は、太平洋方面が深く、房州沖には九千九百五十米以上に達する所さへある。又千島列島の南方にも、世界屈指の深處タスカロラ海床がある。黄海・東支那



圖解 帝國近海の深淺

海は、最も淺くて、日本海附近も三千六百米を超えない。若し我が近海の海底が、二百米隆起したならば、我が列島の大部は陸続きとなり、且つ亞細亞大陸に接續して、オホーツク海・日本海等は、鹹湖に變ずるであらう。

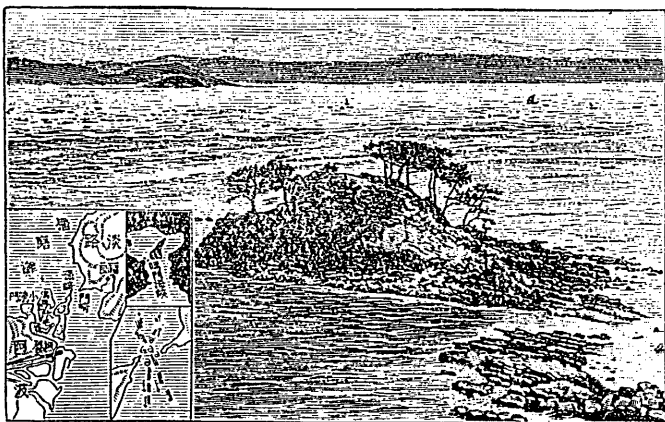
【海流】 海流には、暖流・寒流の二種があつて、氣溫・雨量・漁業交通に影響する。我が近海には、暖流に日本海流・對馬海流・寒流に千島海流・樺太海流・リマン海流がある。日本海流（黒潮）は、太平洋暖流の顯著なもので、比律賓群島の近海より北進して、關東以南の我が國土の太平洋岸を洗ひ、以て雨量を増し、鰺・鰹等の魚族を伴ひ、其の末は、北米の西岸に赴いて居る。



圖解 鳴門海峡（次頁参照）

對馬海流は、之と琉球の近海で分れ、本州の日本海岸を洗つて、氣溫・雨量を増し、津輕・宗谷・間宮三海峡に赴いて居る。千島海流（親潮）は、勘察加半島の近海より、北海道・奥羽地方の太平洋岸を洗つて、氣溫・雨量を減少する。オホーツク海の北部に起る寒流は、樺太島の爲に分れて、一は、樺太の東方から、宗谷海峡に至る樺太海流となり、一は、樺太の西方を経て、大陸の東岸を洗ひ、對馬海峡に達するリマン海流となる。

潮汐 潮汐の干満は、地形によつ



鳴門海峡附近の地図を描きなさい

歐洲にては北緯五十度内外は暖流の影響により温和なるも我が國の北端は寒流の影響により比較的寒い如何なる地理的條件が氣温に影響を與へるか

※臺灣の南部の小島は二十八度に達することもある東京に中央氣象臺、神戸に海洋氣象臺、全國百餘ヶ所に測候所、館野、立山、伊吹山、寶満山等に高層氣象觀測所がある

て異なり、仁川附近は、其の差が十米、有明海岸は五米半に達する。海峡に於ては、潮汐干満の際、内外兩側の水準面が異つて、潮流を起す處がある。鳴門海峡では、潮流の速度が、一時間二十軒で、大渦を捲いて居る。

氣候 【氣温】 我が國は、南は熱帯に入り、北は寒帯に近づき加ふるに地勢海流等の影響によつて各地の氣温が區々であるが、概して中和を得てゐる。即ち年平均溫度二十五度、八月平均溫度二十八度に達する地は稀で、寒冷なる樺太でも、平均溫度は零度以上で、極寒なる一月の平均溫度さへ、零下二十三度に下らない。斯く氣温の酷熱酷寒ならざるは、吾等日本人の幸福である。

【風】 我が國は、夏季に太平洋より、冬季に亞細亞大陸より、季節風が吹いて来る。この季節風交代の時期即ち春と秋と

△立春からの計算である  
季節風、旋風の人生に及ぼす影響

圖解 立山の氣象觀測所

雨量とは何を云ふか

※本州の大部、四國・九州・南部朝鮮に著しい梅雨時の状態を述べなさい



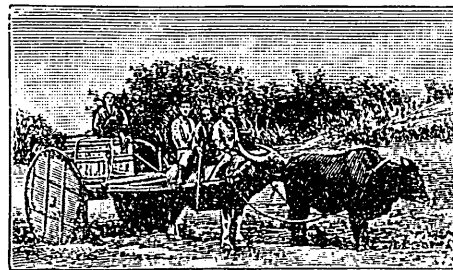
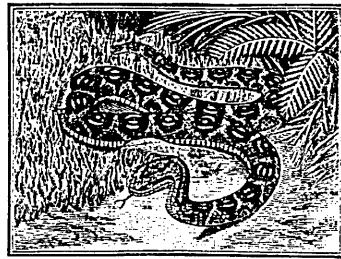
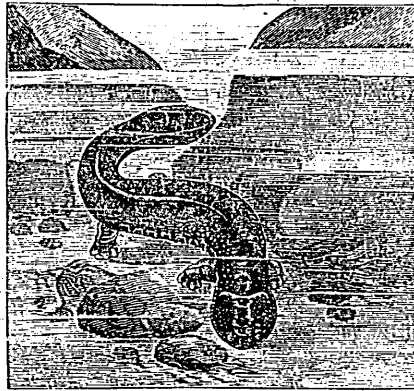
には屢、旋風の襲來することがあつて、二百十日前後は、特に農家の警戒する時である。

【雨量】 我が國は、溫帶中の多雨地の一つで、臺灣の東北部、九州・四國・紀伊の南部、本州中部・奥羽二地方の日本海方面の如きは、年雨量三千耗餘に達し、少雨地（北海・朝鮮）にても、一千耗に及ぶ處がある。夏季の季節風の頃は、一般に豊富

で、太平洋方面は殊に著しく、冬季の季節風の頃は、一般に雨量が少ない。但し本州・北海道の日本海地方は、冬季に雨量が多く、殊に北陸地方は、深雪で名高い。我が國の雨の著しきは、花時の春雨、初夏の梅雨、盛夏の驟雨、初秋の豪雨である。

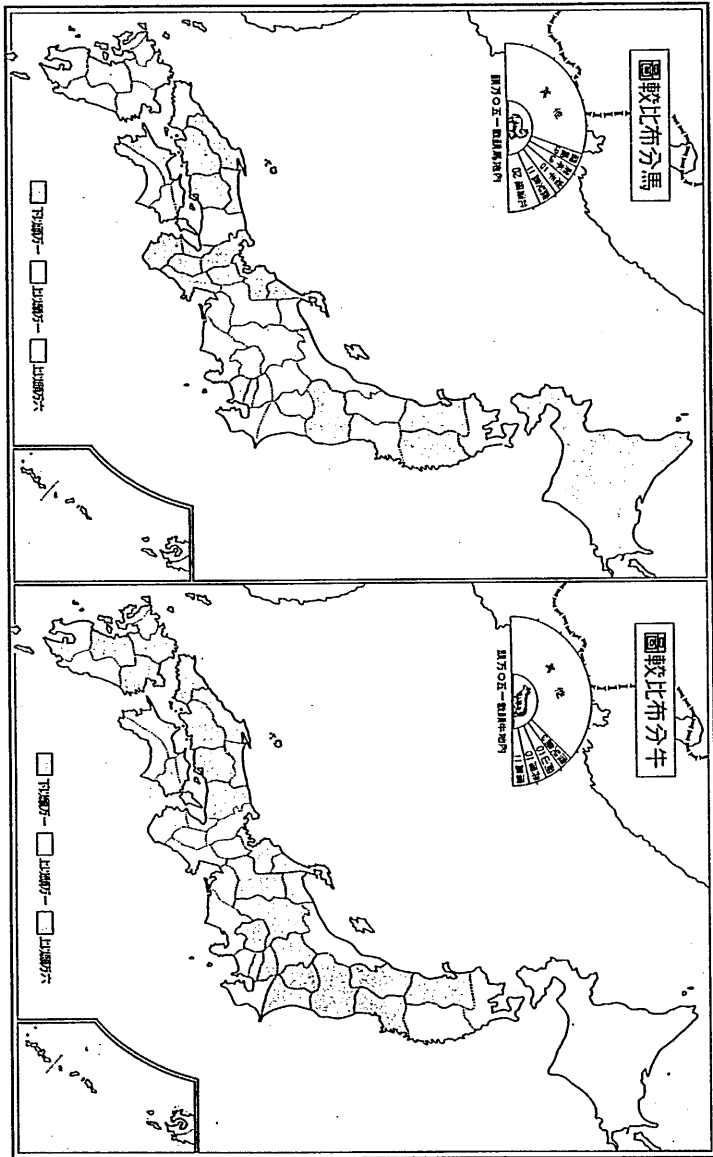
上圖 鯢魚  
中國解 飯匙倩  
下圖 解 黃牛と  
水牛

× 林投樹



生物 【動物】 我が國の動物は、樺太の馴鹿、千島の臘虎、北海道本島の罷、本州の鯢魚、本州・四國・九州の猿猪、小笠原の海龜、琉球の飯匙倩、臺灣の黃牛、永牛、朝鮮の虎豹を特有とする。

【植物】 日本の植物は其の種類が豊富で、就中琉球以南に阿



\*天然林は樟太にあるのみ

圖解 楓松の植林

我が國の主要農産物を擧げなさい  
何故我が國の牧畜業は不振なるか

福岡・愛媛地方には楓の栽培が榮える



且<sup>ダ</sup>・榕樹・甘蔗・杉・櫟<sup>ク</sup>・臺灣の高地、九州・四國・本州に松・杉・檜・朝鮮に朝鮮松、北海道以北には、白楊・楸・松・蝦夷松・落葉松の森林が多い。

## 第二章 人文誌

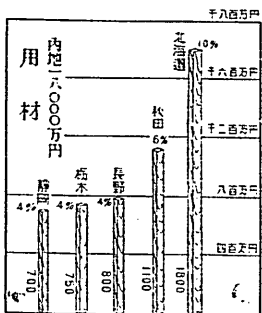
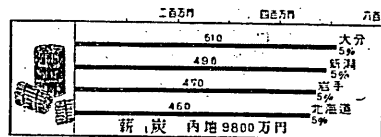
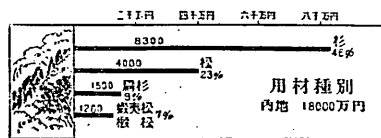
産業 【農業】 我が國は、古來農を主業として、今も、國民の大半は、之に従事して居る。従つて米・麥・粟・甘藷・豆類・菜種

茶・葉煙草の如き主要農産は、内地の年産額のみにて、二十六億圓を超える。但し綿米・大豆・砂糖等の輸入が多い。

【牧畜業】 牧畜業の發達は、少雨の曠野が必要である。従つてそれを缺く我が國では振はないが、獸肉・牛乳・牛乳製品・羊毛

近時は北米合衆國  
カナダより木材を  
輸入する  
森林と人生との関  
係はどうか

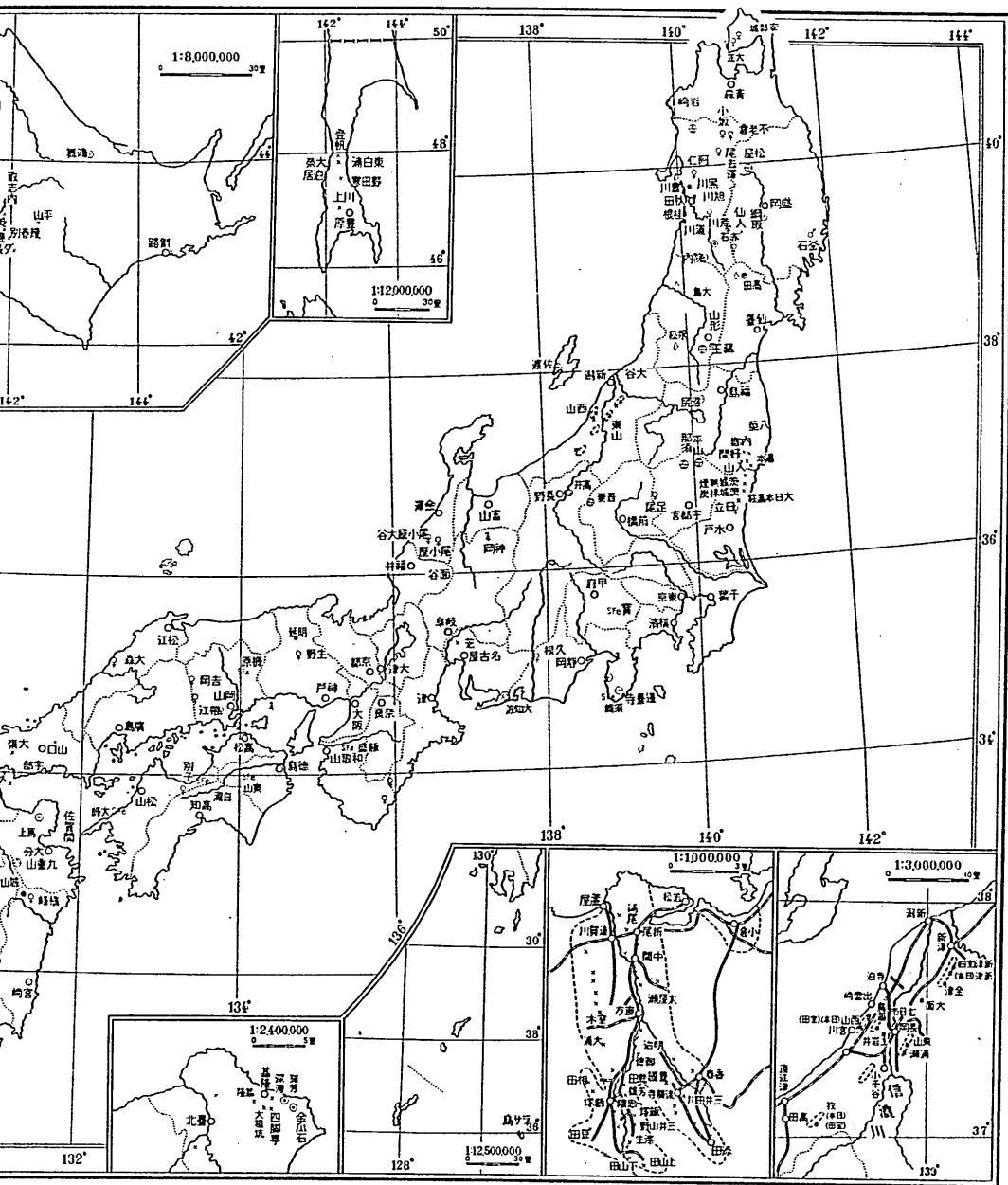
暖流に生活する生  
物を挙げなさい

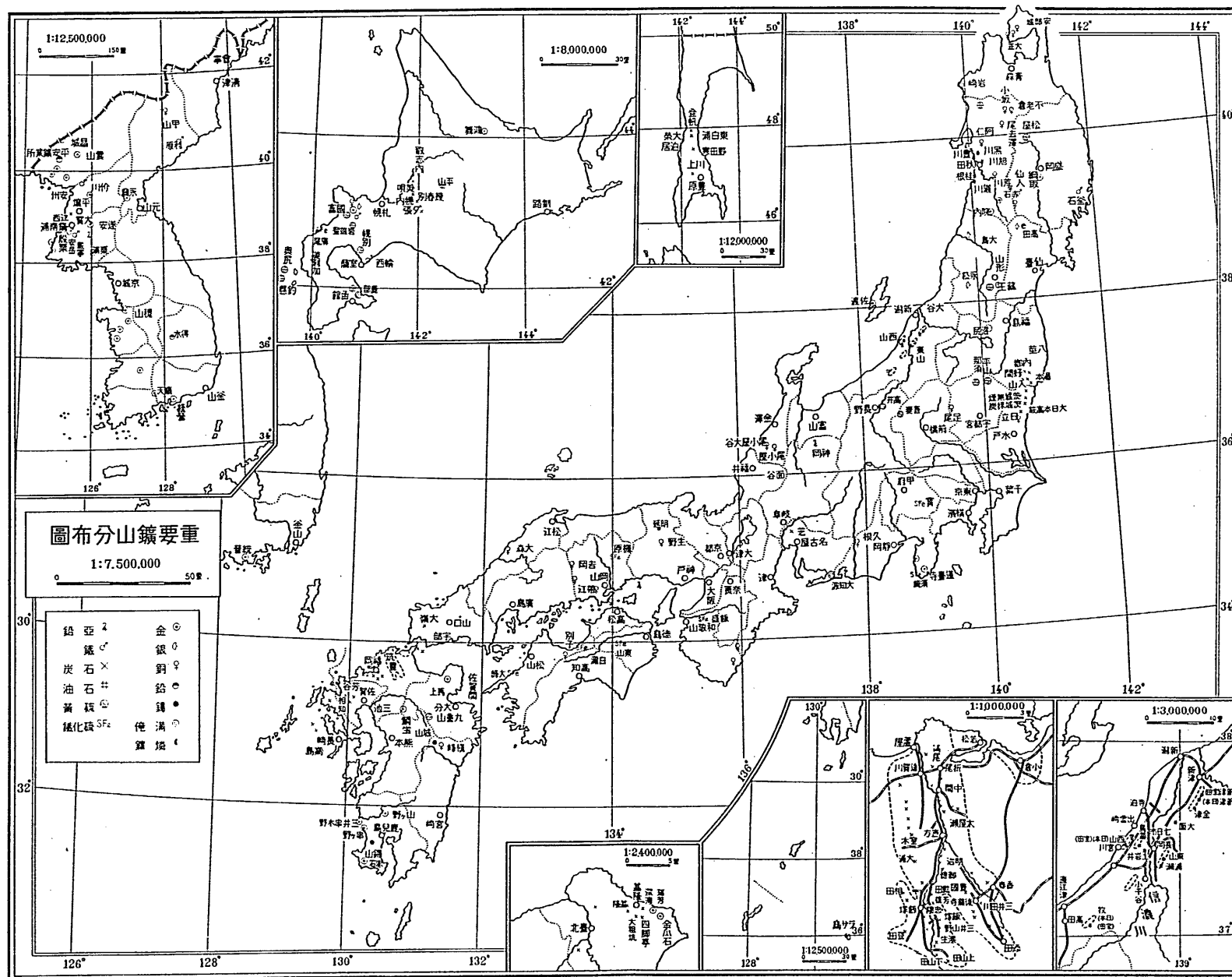


軍馬の需要が年と共に増加するから、  
斯業の發達につきては、大に努力せね  
ばならぬ。

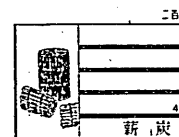
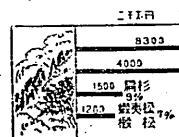
【林業】 森林は、木材・工藝品原料・薪炭・薬  
品・果實・樹皮・茸類・ゴム・柴草などを供す  
る。我が國は、内地に用材・薪炭、其の他  
の林産多き上に、臺灣に樟・檜・鴨・綠・江上  
流地方に松・樅・樺・太に榎・松・蝦夷松・落葉  
松・白楊の美林がある。

【水産業】 我が國は、四面殆ど海を繞ら  
し、近海を洗ふ寒暖二流は、魚族を誘致  
する。北日本の近海は、世界三大漁場  
の一に當れる上に、西に大需要地の支





暖流に生活する生物を挙げなさい。



【水産業】我が國は、四面を海に繞らし、近海を洗ふ寒暖二流は、魚族を誘致する。北日本の近海は、世界三大漁場の一に當れる上に、西に大需要地の支

遠洋漁業とは如何なることか  
我が漁獲物は鯉・鯉・鰒・鰒を主とし水産製造物は鯉・鰒・肥料を主とする  
養殖物には海苔・鱈・鰒などが多い  
水産漁獲物と製造物との區別  
\*大正十一年には十一億斤を超えたが十二年には八億斤であつた

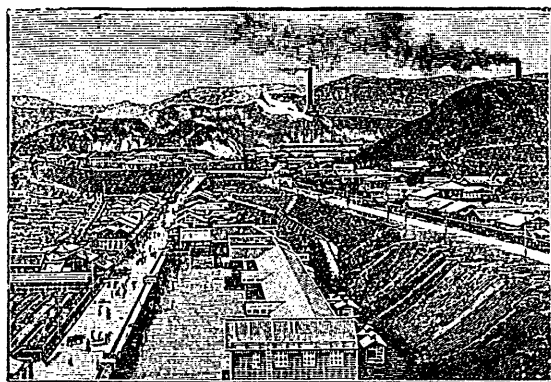
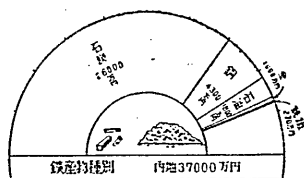
圖解 小坂鐵山

我が國の鐵產物の主なる種類と產地とを擧げなさい

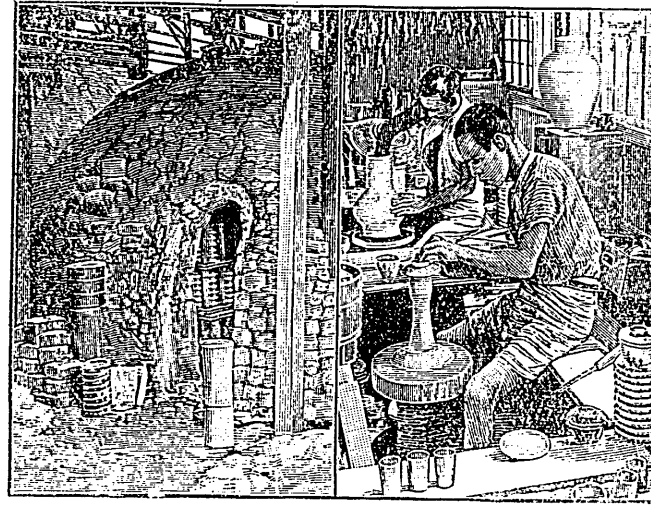
那を控へ、北に漁業區域を擴張し、且つ漁撈<sup>ラウ</sup>・養殖の法も進歩したので、今や内地のみにても、漁獲物・水産製造物・養殖物を合算すれば、年額約四億五千萬圓に上るに到つた。北海道・長崎・千葉・静岡・鹿兒島・樺太・朝鮮等は、全國中で漁業の盛な地方である。製鹽は瀬戸内海地方・朝鮮臺灣等に著しい。

【鑛業】 我が國は、世界有數の鑛業國で、内地のみでも、鑛産年額三億七千餘萬圓以上に達する。

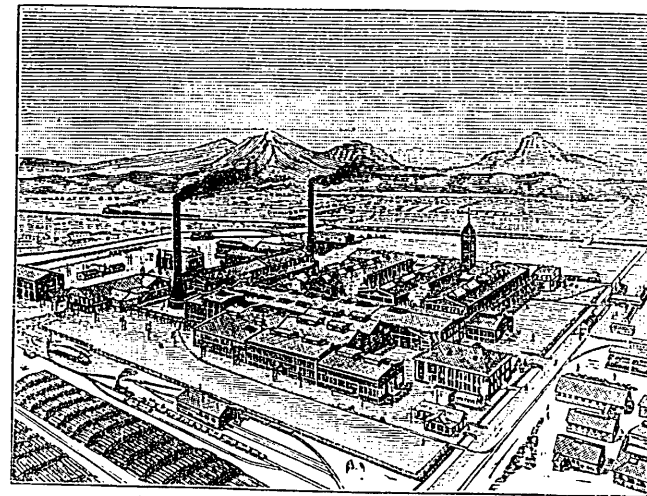
【工業】 我が國民は、由



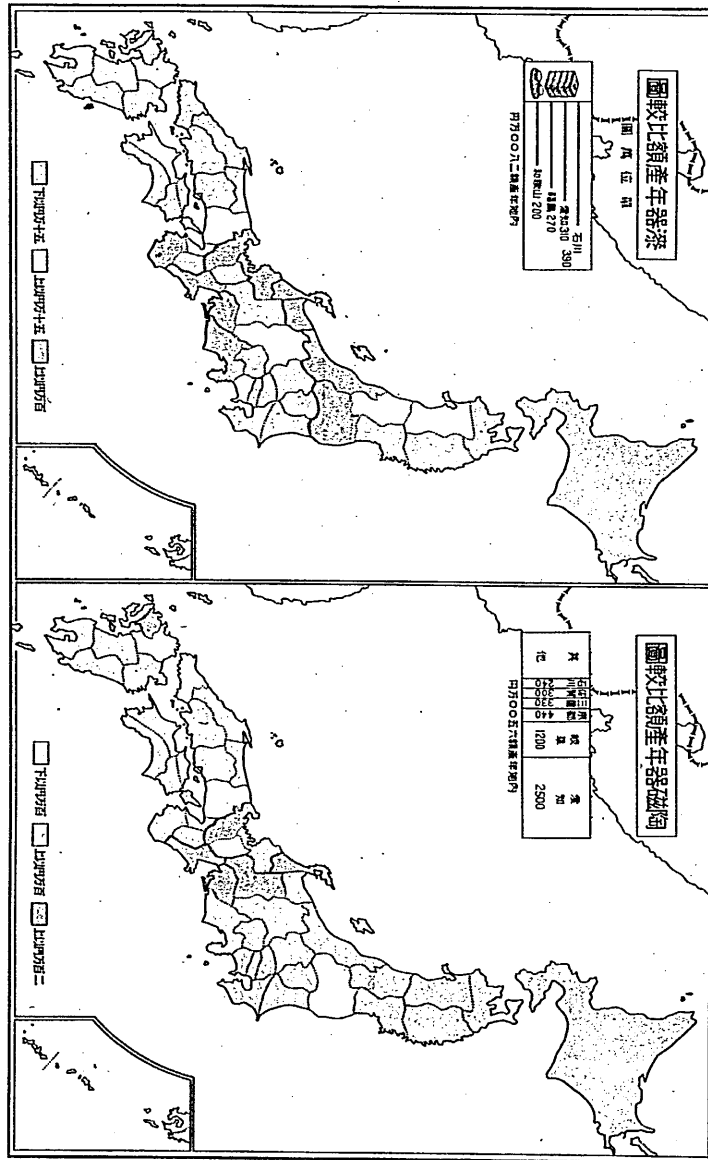




陽造製器磁陶



奶工牧小苦社會紙製子玉



我が國の主要なる工業地帯を記しなさい  
我が國工業に要する原料中最も我が國に缺乏するものは何々なるか

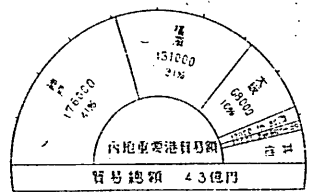
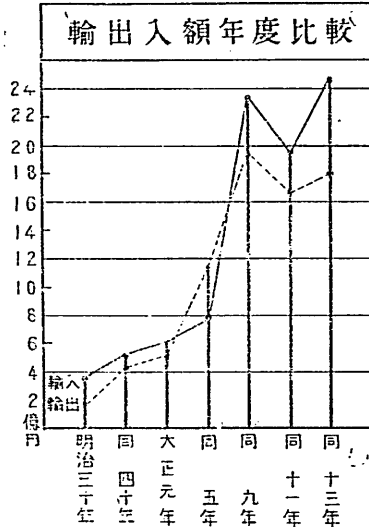
臺灣の七個は支那形船に限り出入を許されたるもの

我が國貿易の長所及び短所

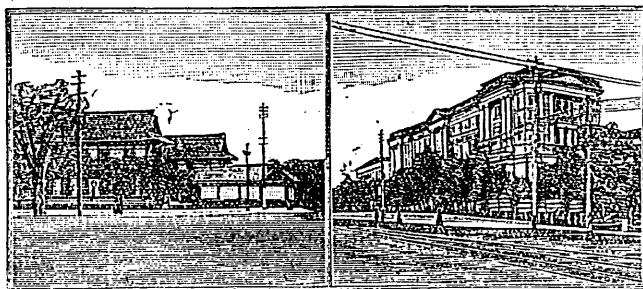
來審美的思想に富み、技藝に長じて、精緻品を産出するに適する。殊に今や手工的工業は、漸く機械的工業に進んで、製絲・綿絲・紡績などが大發達をなし、輸出せらるゝ工業品が、年々多くなつた。

【商業】 樺太に二個、内地に四十一個、臺灣に十一個、朝鮮に十個の貿易場を有し、世界の重要都市に、貿易の發展を圖る

べき領事を派遣して、貿易

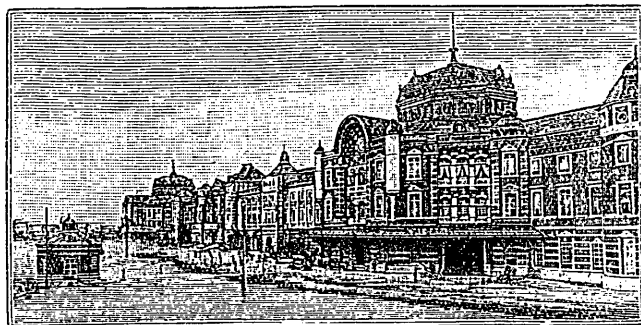


額が激増し、内地のみにても、四十三億圓を算するに至つた。重要な貿易港は神戸、

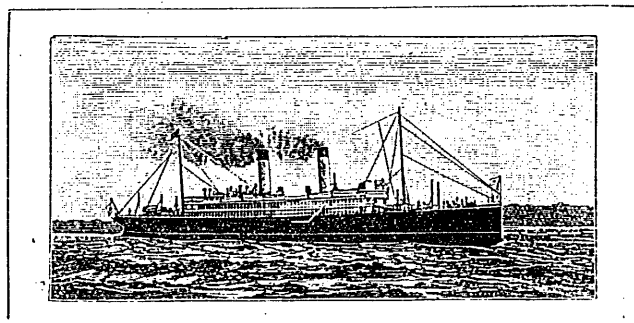


日本勧業銀行

日本銀行



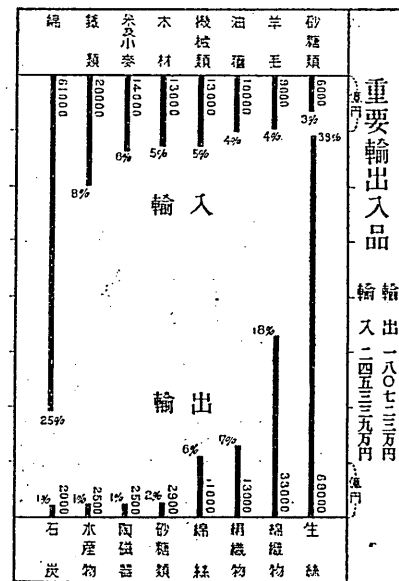
東京驛



天洋丸

國は米・支・印・英輸出品は生絲・綿織物・絹織物・綿絲輸入品は綿類・米・麥類・木材・機械類・肥料等である。  
交通 【鐵道】 鐵道の國有制度・私有制度・國有私有並行制度は、各得失がある。軌幅の廣狹も亦然りである。我が國の

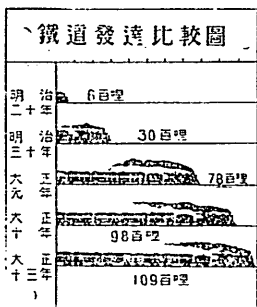
| 輸入        | 重要輸出入國 | 輸出18億円<br>輸入25億円 | 輸出        |
|-----------|--------|------------------|-----------|
| 北米<br>合衆國 | 67000  | 6000             | 英吉利       |
| 英領印度      | 35000  | 8000             | 香港        |
| 英吉利       | 31000  | 2000             | 荷蘭西       |
| 支那        | 23000  | 14000            | 英領印度      |
| 暹羅        | 14000  | 35000            | 支那        |
| 滿洲        | 12000  | 74000            | 北米<br>合衆國 |



鐵道の種類は所有者動力・軌幅によりて區別する文明國の標準軌道の幅は四呎八吋

＊近海郵船・大連汽船・南洋郵船・北日本汽船  
我が國海運の現状を述べなさい

＊所在地：東京・岩槻・船橋・銚子・父島・原町・富岡・新潟・金沢・大阪・舞鶴・神戸・下津井・角島・佐世保・大瀬崎・鹿



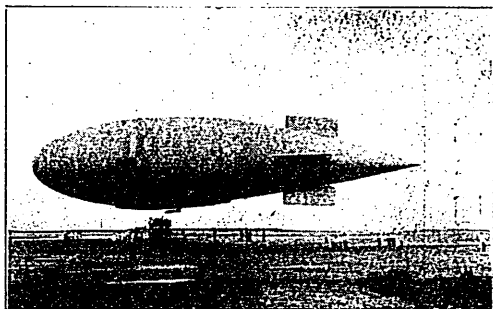
鐵道は概ね國有で、朝鮮（一小部）・滿洲にあるもの、外は、狹軌（大抵三呎）である。鐵道の延長は、内地のみにて一萬哩に達し、殊に關東・近畿の二地方と、北部九州とに、能く發達して居る。

【船舶】 汽船は、約三千四百隻、三百八十餘萬噸に達し、日本郵船・大阪商船・國際汽船・東洋汽船・日清汽船等の汽船會社があつて、歐洲・孟買・カルカッタ・南洋・濠洲・ビスマルク・サウンド・桑港・南米・西岸・南米・東岸・紐育・ニール・オールリス等の大航路がある。帆船は、稍大型のものが約一萬四千隻（萬噸）ある。

【郵便・電信・電話】 郵便・電信の制度は、頗る發達し、海底電線も、内外各地を聯絡し、又無線電信局を、沿岸の要地及び大洋航行の主なる汽船に設置して、互に通信をしてゐる。電話は、各

兒島・南大東島・ラサ島・那覇・基隆・鳳山・龍運・落石・稚内・石狩・大泊・京城・木浦・大連・ヤルイト・ポナ・ベートル・クック・サイパン・ヤップ・パラオ・アンガウル等

遠からず航空路も設定せられやう  
我が國の航空の總機は五百にして世界第五位  
我が國の航空につきて知れるところを述べなさい



都市に行はれ、長距離のものも、漸次擴張するに至つた。近時、港灣に於て無線電話利用せられ、又大都會に於て、無線電話放送が行はれる。

【航空】 我が國の航空事業は、列強に比して、頗る遜色あるも、近時、漸く其の發達を見る。陸軍にては、戦闘偵察・爆撃等のため、飛行八聯隊及び氣球隊を編成し、數ヶ所に飛行學校を設けた。海

軍にては、横須賀・霞ヶ浦・佐世保・大村・四箇所に航空隊を置き、又航空母艦をも備へた。尙ほ航空輸送も開始せられ、遙に歐羅巴へも、飛行するものがあるに至つた。

住民 【人口】 我が國の總人口は七千八百萬、一方、平均

[illegible]

密度は、一百三十人に近い。東京・大阪・

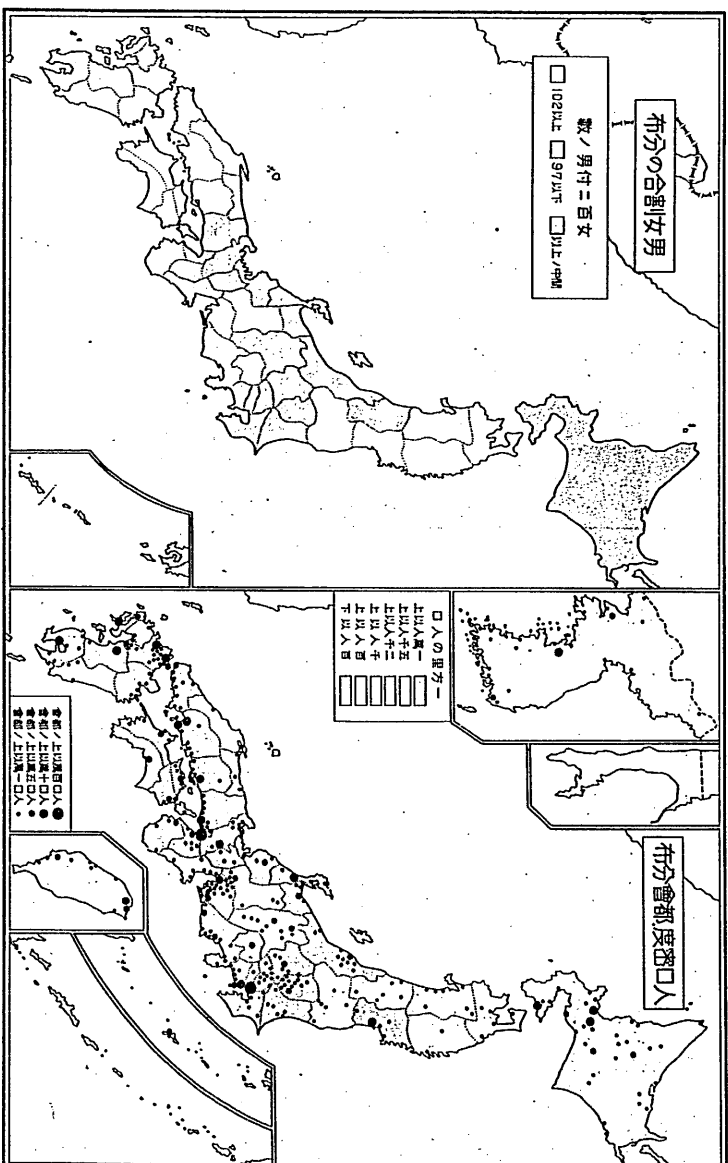
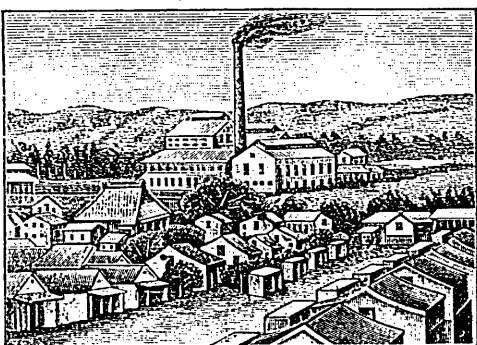
神奈川・福岡・愛知  
の諸府縣は、最も  
稠密で、岩手・秋田  
青森・宮崎・福島  
の諸縣、樺太・北海道  
東部・臺灣は之に  
反する。又移民も  
少なくない。



自然は如何に人口の疎密に影響を及ぼすか

上圖解 國勢調査に當る内閣統計局の機械製表下圖解 ハワイに於ける移住日本人の村落

【種族】我が國民は、日本(大和)族が約八

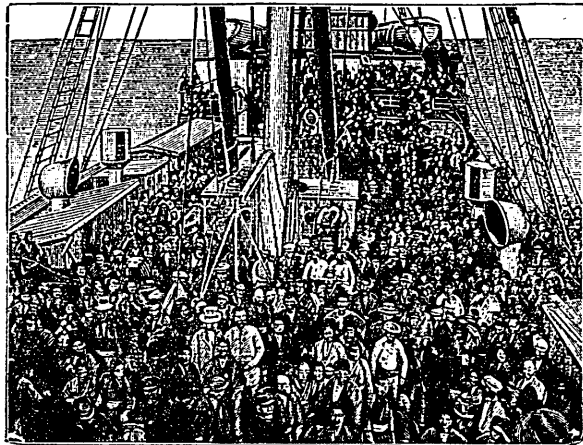


我が國民の種族を  
擧げなさい

圖解 若狭九甲  
板上のブラジル  
行き日本移民

圖解 日本各  
種族(右より大  
和族・朝鮮族・漢  
族・高砂族・アイ  
ヌ族・ギリアイ  
ヌ族・オロコ  
族)南洋諸島の  
ポリネシア族を  
略する

宗教とは如何、我  
が國の宗教につき  
て述べなさい



割を占めて、他の種族を  
同化しつつある。朝鮮  
に朝鮮族、臺灣に漢族、高  
砂族多く、北海道樺太に  
少數のアイヌ族住み、尙  
ほ少數のギリアイヌ・オ  
ロコの二族が樺太にゐ  
る。高砂族は馬來人種、  
アイヌ族は歐羅巴人種  
に屬し、其の他は、亞細亞  
人種に屬する。

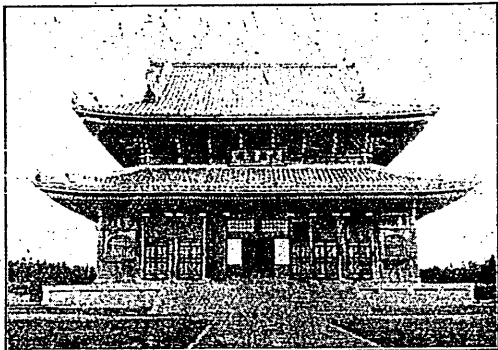
宗教 我が國には、神道・佛教・基督教が行れてゐる。  
神道は多神教の一で、神道・黒住教・修成派・大社教等



圖解 曹洞宗大本山總持寺（横濱附近鶴見）  
圖解 北海道大學とその附屬の牧畜場

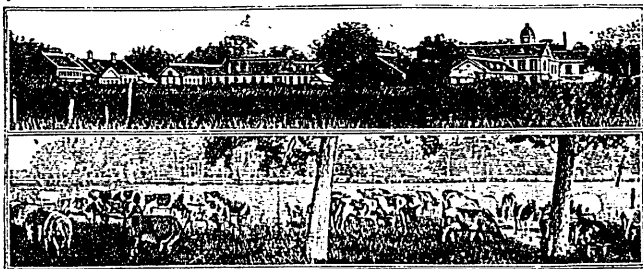
神社の區別につき  
て知るところを述べなさい

\* 無格社もある



の十餘派がある。佛敎も亦天台眞言淨土臨濟曹洞黃檗眞日蓮等の十餘宗、五十餘派に分れて、寺院數は約十一萬ある。

神社 神社は我が皇祖・皇宗を始め、忠臣賢士等の靈を祭祀し、大



神宮を始め、官幣社（大社・中社・小社）・別格官幣社・國幣社（大社・中社・小社）・府縣社・郷社・村社等に分れて、其の數が約十三萬ある。

教育 我が國は、教育がよく普及發達して、

官公立重要學校

大學 東京京都福岡仙臺札幌以上帝大 新潟岡山千葉金澤長崎以上醫大 東京（商大・法順工大）公立大學 大阪名古屋京都熊本以上醫大（京大にも官立大學がある）

高等學校 東京（二）仙臺京都金澤熊本岡山鹿児島名古屋新潟松本山口松山水戸山形佐賀弘前松江大阪・浦和福岡静岡高知姫路廣島臺灣富山公立

高等師範 東京廣島

女子高等師範 東京奈良

高等商業 小樽福島名古屋山口長崎大分和歌山彦根神戸横濱高松高岡大阪臺北京城

高等工業 仙臺米澤桐生横濱金澤名古屋神戸廣島熊本東京徳島濱松大阪長岡福井中府福岡京城

高等工藝 東京京都 高等農林 盛岡鹿兒島宇都宮岐阜富山島根

高等農林 三重津島臺北水原

高等專門 京都上田鶴巻東京 鐵道專門 秋田

各種專門 東京（外語美術音樂水産講習所）大阪（外語・富山（藥專）宇治山田（神宮皇學館）戸畑（明治東京神戸）以上商船（京城醫專）臺北醫專以上官立 福岡女子京都繪畫）大阪女子（松戸園藝）以上公立

今や支那等よりの留學生をも見るに至つた。小學校數は、二萬五千校にあまり、學齡兒童の不就學者は、實に百分二に満たない。中學校の生徒數は廿萬、高等女學校のそれは約十八萬ある。高等教育には、文部省管轄の諸學校が急増し、公立・私立に

私立の學校は省略した。又臺灣・朝鮮に於ける學校中略したるものもある



學校の所在は其の土地に如何なる影響を與ふるか地理的に考察しなさい

大都市の益、擴大する所以

附録の表によりて人口十萬以上の都市を挙げなさい

國土の境界は何によるか我が外國となす境界線を述べなさい

係るものもある。又各府縣に、師範學校がある。陸海軍の主なる學校に、陸軍大學校、陸軍士官學校(東京)、海軍大學校(東京)、海軍兵學校(横濱)、海軍機關學校(横濱)がある。

都邑 我が住民の多數は、農村に在つて、都市に住するものが割合に多くない。併し交通機關の進歩と、商工業の發達とにつれ、大都市が益、擴大されて、小都邑、村落が、漸く衰頹する傾向がある。

政治 【國土】 國土とは、山脈、河湖、海岸又は經緯線などで限られた一定の地域である。我が國は海面を境界として居たが、今や樺太では、條約に基いて、北緯五十線上に、林空作業を施し、又標石を置いて露領と境し、朝鮮では、鴨綠江、白頭山、豆滿江を以て、支那、ロシアと境して居る。

【國體】 我が國は、萬世一系の天皇を戴き、皇室の尊嚴、臣民の

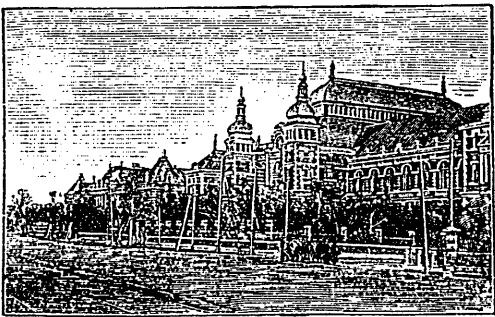
仰慕は、他國に比類なく、義に於ては君臣情に於ては父子とも謂ふべき圓滿なる君主國體である。

\*現時衆議院議員の定員は四百六十四名主なる政黨は憲政黨、政友本黨、政友會、普通選舉實施の時は定員四百六十六名となる

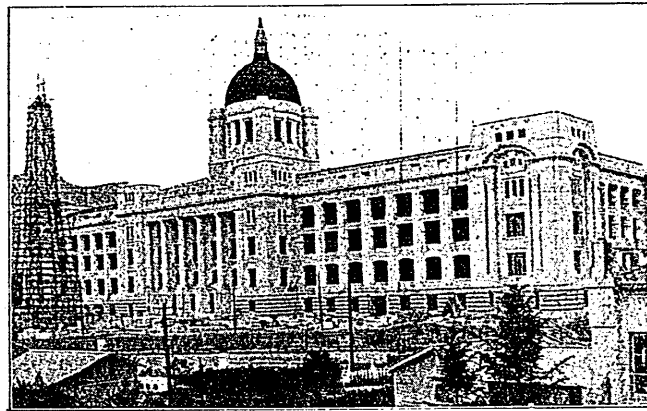
圖解 大審院、東京控訴院等

衆議院議員は如何にして選出するか

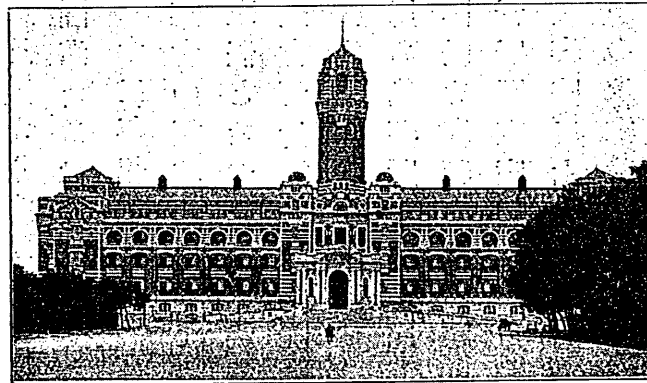
【政體】 明治二十二年紀元節の當日に、憲法が發布せられ、其の翌年、帝國議會の招集があつて、東洋最先の立憲政體となつた。立法機關は、則ち帝國議會で、貴族院、衆議院より成り、主に法律案、豫算案を議定する。司法機關は、則ち裁判所で、主に民事、刑事にかゝる訴訟を審判する。朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳に屬する裁判所の外に、一大審院(東京)、七控訴院(東京、仙台、名古屋、大阪、廣島、長崎)と、數多の地方裁判所、區裁判所とがある。行政機關は、政府で、中央の



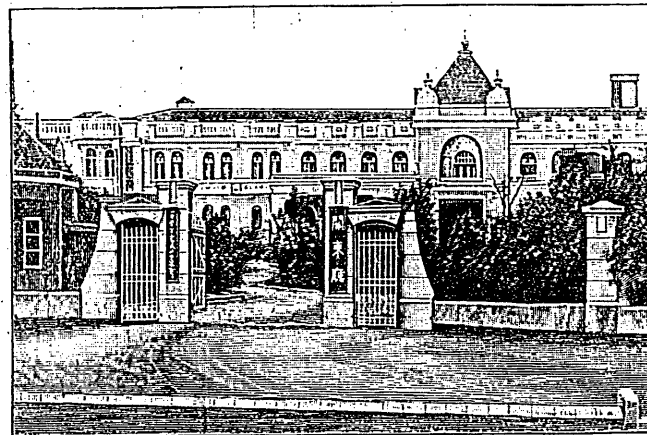
朝鮮總督府



臺灣總督府



關東廳



\*内務外務陸軍・海軍司法大藏文部・逓信・農林・商工・鐵道  
各地方廳の所在地を記しなさい

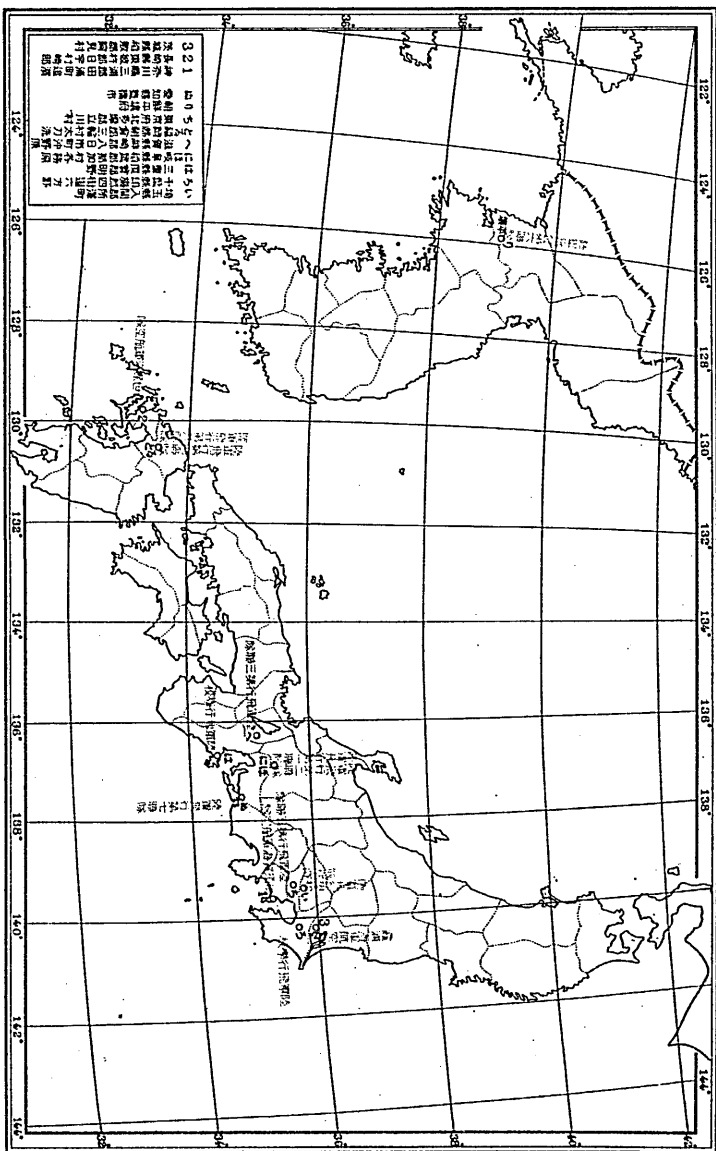
十一省が、全國の行政を分掌し、内閣が之を統一する。十一省の大臣と、内閣總理大臣とは、共に國務大臣として内閣を組織し、内閣總理大臣が、其の首班を占めてゐる。地方には三府四十三縣に知事、北海道樺太關東南洋の四廳に長官、朝鮮・臺灣に總督を置く。府縣の下なる市に市長があり、町村に町村長がある。右の府縣市町村は、自治機關を有する地方團體である。朝鮮總督府には、十三道に長官、長官の下に府尹・郡守などが置かれてある。

【外交】我が國は、約三十個の國と條約を結び、通商航海をなして居る。先きには、東洋の禍根であつた朝鮮を併合し、老大不振の感ある支那に勢力を扶植し、英米と並びて世界の三大強國と稱せられ、太平洋の問題につきて、米・英・佛と協定する所があつた。

我が國の主要なる  
要塞地  
主力艦・軍港・鎮守  
府・要港を説明し  
なさい

【軍備】 明治維新後、國民皆兵の古制に復して、全國の壯丁は、何れも陸軍又は海軍の兵役に服することとなつた。國民は、忠君愛國の情が燃え、勇氣があつて、海に馴れて居る。是れ我が國が、武名を世界に轟し、殊に極東の覇者たる所以である。陸軍は、内地を十四師管に分ち、師管區の要地（東京、仙台、盛岡、青森、弘前、金澤、長野、富山、石川、福井、滋賀、京都、大阪、名古屋、神戸、横濱、東京）に師團司令部を設け、別に東京に、近衛師團を置いて、宮闕を守らしめ、臺灣、滿洲に守備隊を置き、また要地には、要塞を置いてある。又各地に、飛行聯隊も設置された。海軍は、太平洋會議により、主力艦三十一萬五千噸のみを有することゝなつた。全國の海岸海面を三個の海軍區に分ち、各海軍區の軍港（横須賀、佐世保、舞鶴、大津、馬公）に鎮守府があつて、之を分管し、尚ほ要地に、海軍の要港（舞鶴、馬公）を置いて居る。

【財政】 我が國の歳入歳出は、今や十六億圓を計上し、又國債



勤儉と国力伸張と  
の關係はどうか

額も、五十億圓に達し、其の利子のみにても、優に日清戦争前の歳出に超過する。是れ吾等が華を去り、實に就き、日夜學業に勵精し、産業に努力せねばならぬ所以である。

15220,2

帝國新地理終

大正十四年十二月十二日印刷  
大正十四年十二月十五日發行

改訂帝國新地理附

定價 金八拾八錢  
大正十四年  
發行所

著者

東京市牛込區揚場町壹番地  
地理教授 同志會  
代表者 守屋荒美雄 野口保典

發行者

東京市牛込區揚場町壹番地  
外 松 荒 三

印刷者

東京市京橋區弓町廿五番地  
高 橋 郁

發行所

東京市牛込區揚場町壹番地  
帝國書院  
振替口座六七〇一四番

不許複製

關西販賣所

大阪市東區南本町四丁目  
三宅莊藏書店  
振替口座大阪六九番

